定價十錢

無産階級戰闘雜誌

進め

第五年 第六号

六月号

大正十二年一月三十日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）昭和二年六月一日發行 昭和二年五月二十七日印刷納本

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

清新な趣味と實用に綾なす

◇三越には日常生活の御必要品は大低御座ゐます。

◇良い品は東京に限りますが東京でも三越の品ならば御安心であります。

内外のあらゆる流行品豐富

三越呉服店

—◇東京駿河町◇—

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

進め・六月號・目次

□英雄思想よりの離脱……卷頭言（五）
□露西亞派の戰術を見る……福田狂二（六）
□對支政策を毀して民衆の奮起を促す……牛窪愛之進（八）

時評
反動政治の亂舞
左翼勢力の沒落
支那から手を引け！
舊共産黨の策動と日勞黨
既成政治家の離合、集散
メーデー大示威
……同人（一〇）

□耕作權の確立を主張する理由……杉山元治郎（一八）
□政治行動への進出……本莊可宗（二一）
□カール・マルクス……カハン・コーテス（二四）
□勞働運動講座 獨逸の勞働運動（續）……淺野研眞（二九）
□支那國民政府概觀……清崎俊英（三四）
□二種の鬪爭精神……皆川利吉（三七）
□植民政策裏面研究（七）……金熙明（三八）
□解放運動者の嚴肅と寛容……布施辰治（四六）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

□プロレタリアの宗教政策……淺野研眞（五三）
□消費組合の發展を望む……安藤國松（五五）
□ブルジョア觀念形態を克服せよ……澤井龍之助（五六）
□勞働共濟會反對運動を起せ……永田繁澄（六〇）
□警部補殿に體現された國家……細野三千雄（六三）
□ブルジョアの腦裡……間島辰男（六五）
□野々宮爭議に注目せよ……北本一造（六七）
□進め特莵・革命歌……（六八）

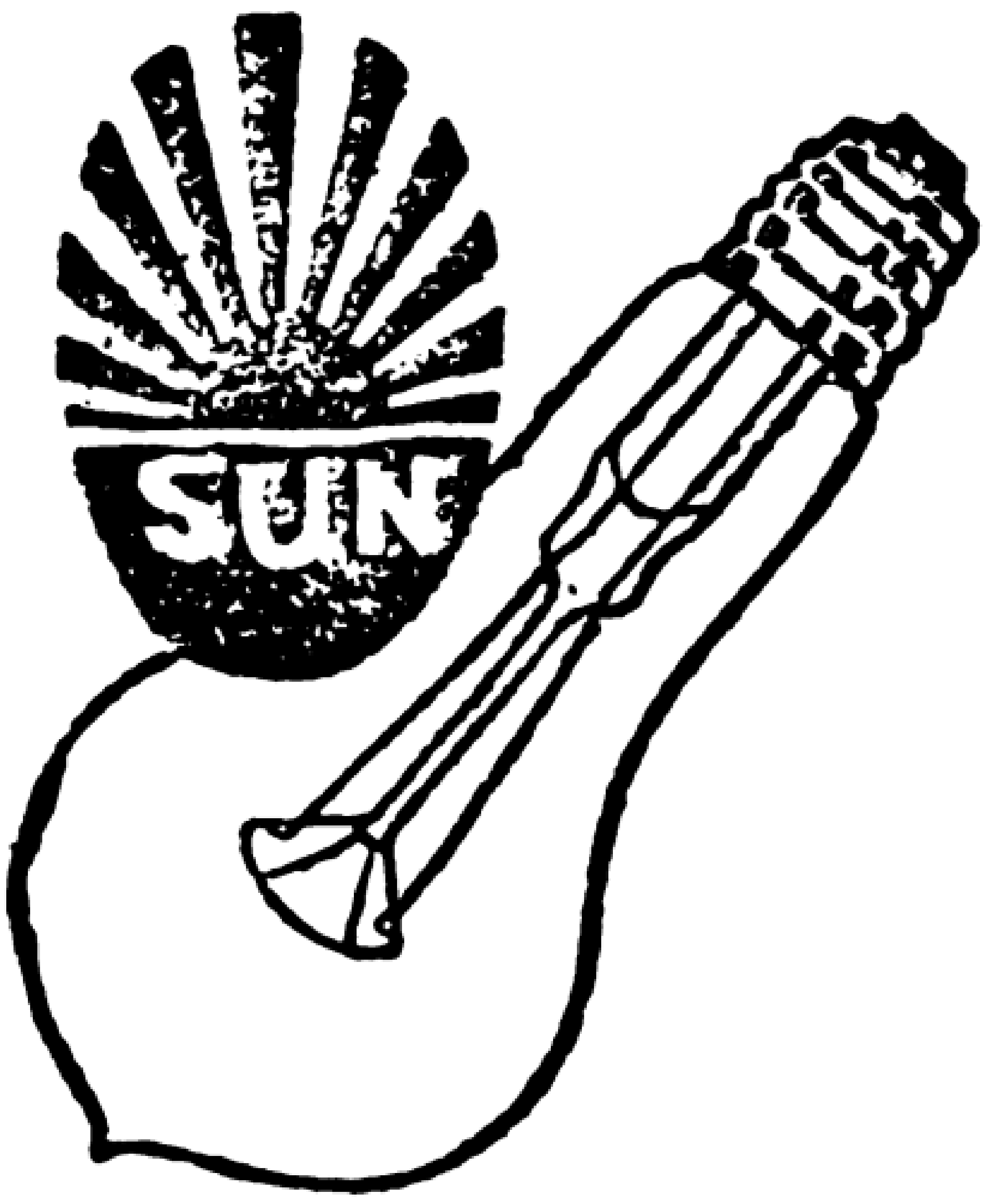
漫畫

■鈴文詰問の幕……（四二）
■理論鬪爭……（四三）
■コイツメ……（四四）
■大・山郁夫氏と其の邸宅（寫眞）……（四五）

□戲曲 素地を作る……佐根鎣郎（七六）
□創作 冬のルムペン「彼」……岡本壽夫（七九）
□戲曲 ストライキ……下山利基智（八二）
□戲曲 鬪士の家出……清水辰雄（八四）
□戲曲 巡査と女給……吉田金重（八八）

サン瓦斯入電球

電氣が少しで
丈夫で明るい



良いものは
結局お德

大阪市西淀川區大仁町

大阪電燈株式會社

電話土佐堀長 三一六〇 三一六一 三八二一 三八二二

第五年・進め・第六號

英雄思想よりの離脱

従來の我が無産階級運動内に、或ひは一世を征服して令名を馳せんとし、或ひは一黨を統卒してお山の大將たらんとする、時代錯誤の英雄主義的傾向を有つた人の存在決して尠しとしない。例へば、組合乃至は、政黨の首領たらんことを最初から期待して、其れが組織運動を爲す者、又は一組合、一政黨の首領として、恰も暴君に等しき專斷なる振舞を敢て爲す者、等、等の所謂ヒロイズム的傾向を有てる社會運動家の往々あるを見逃せない。

然しながら、玆に改めて言ふまでもなく、無産階級の解放は、斷じて一英雄、一個人の爲す能はざる所であると共に、英雄主義的な偶像崇拜運動では無い。否寧ろ、英雄思想撲滅運動であり、ブルジョア思想の遺物たる偶像破壞運動である。吾々は、マルクスを無産階級の救ひ主として偶像視し、神聖化して崇拜するものではない。又、レーニンを英雄化して、尊敬するものでもない。若し、マルクスを偶像視し、レーニンを英雄化して、之れを崇拜する者ありとせんか、恐らく、英雄崇拜のブルジョア思想に侵されたる者として一笑の下に葬り去つて了ふであらう。然り！ 無産階級の解放は、マルクスの能く爲す所でもなければ、レーニンの能く爲す所でもない。實に無産階級全體の團結的鬪爭に依つて、始めて成就さるべきものである。

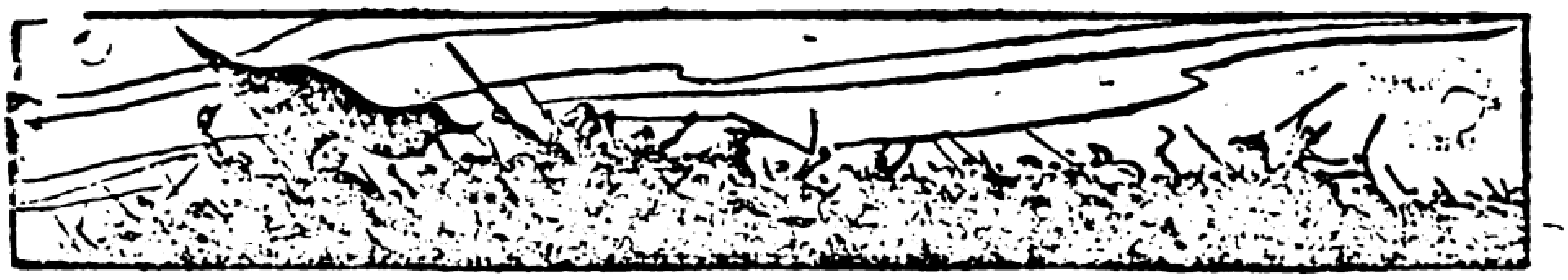
然らば、英雄思想撲滅運動であり、偶像破壞運動である無産階級運動内に前揭の如き英雄主義的傾向を有てる社會運動家の存在してゐるのは何故であるか？ 答へは極めて明白である。曰く、社會主義的認識の不足である、と。眞の戰鬪的社會主義理論を把握して居さへすれば、斯かる英雄主義的思想に禍される虞れは斷じてない。

認識の不足！ 社會主義的戰鬪理論の缺如！ 斯くて、英雄主義的思想が、無産階級運動進展途上に流せる害毒の、如何に甚大なることか！

ヒロイズム的偶像崇拜思想は、ブルジョア思想である。無産階級運動内に寸時も存在を許されぬものである。認識の不足より起るヒロイズム的偶像崇拜思想を葬れ！

ヒロイズム的思想より離脱せよ！

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



露西亜派の戰術を見る

福田狂二

【一】

無産階級國家を以て、全世界のプロレタリアの信頼と崇敬を集めてゐた露西亜は、既に今日ではレーニンの所謂『國家資本主義』時代に迄、低下した。斯くては、無産階級の理想とする眞の共產主義國家に到達するの日は、果して何時なるか殆ど豫想することすら許されない。吾々は敢て露西亜を攻擊したくない。然し、攻擊しないとしても、今日の露西亜を無產階級國家として讃美することは出來ない。即ち玆に、同志として、露西亜の戰術、特に露西亜派の戰術を批判する。

【二】

我が日本の社會運動中、露西亜直系の日本共產黨及び勞働組合評議會、日本農民組合、等は露西亜共產黨の指導を受け、第三インタナショナル本部の指令に依つて運動方針を展開しつゝあることは、吾等の絕えず批判し來つた處である。私は試みに第三インタナショナル本部より發せられたる、日本に於ける露西亜派への指令の一班を左に揭げやう。

一、一切の外交問題の責任を指導精神を異にせる他の團體に轉嫁し、以て其の團體を崩壞せしむ。

一、各地勞働組合に潛入し、黨幹部に凡ゆる責任を轉嫁し、これを排擊して、內部より更迭せしむ。

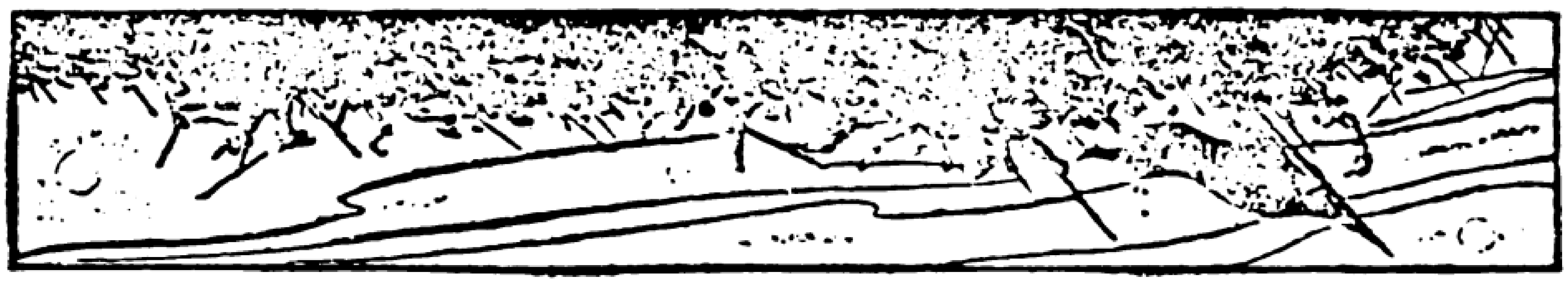
【三】

以上に揭げたる第三インタナショナルの、日本共產黨に發したる指令の一班を見ても判る如く、彼等は巧に無產階級團體に喰ひ入り、これを內部より攪亂し、自派の者をして其の重要位置に就かしめんことに努力する。日本の無產階級運動が此の指令に依り、從來如何に多く禍されしことか。即ちその一例を擧ぐれば、

一、自治會を乗取らんとして、黨幹部に事實無根の中傷的漫罵を浴びせ、組合員をして、去就に迷はしめたこと。自治會はこの陰謀的策略の爲め當時、大分裂を惹起し、組合運動の進展を阻害された。

一、大正十四年の末、川崎市に於ける富士紡績の爭議に、評議會が總同盟の罷工に對し、妨害的行爲をなし、爭議を不利に陥らしめたこと。

一、水平社內に水平同人に非ざる[illegible]某を密に使途として潛入せしめ、散々に攪亂させて、今日の四分五裂の狀態を生しむる



に至つた。

一、農民組合に於ては、元組合長杉山氏を脅迫し、侮すべからざる人身攻擊を敢てして辭職せしめ、山上某をしてこれに代らしめた。

更に此れを支那に於て見るに、蔣介石が軍事行動に傑出せるを嫉み、國民黨を煽動して、漢口事件、南京事件、等の國際外交問題を生むに至つた如き事件を、故意に惹起せしめ、無產階級共通の敵なる帝國主義國家の力を藉つて、これを陷れんとした。

【四】

斯くの如き彼等の罪惡事實を一々擧ぐれば、眞に枚擧に遑あらず、嘗て吾社民系の鬪士政治が、勞農黨を造りし際、此れを乘取らんが爲め、其の組合員に對し、社會主義者の指導せる勞働組合なる故、危險なり速に脫退して、吾等の下へ來たれと、最も露骨なる、否！反動主義者に等しき口吻を以て組合員を煽動したるが如き、其の戰術の陋劣、卑怯、眞に憎みても餘りある。

日本農民組合に在りし日の杉山氏を無產運動の神、農民運動の母として之れを尊稱し、一朝、農民組合內に共產派排除の手が延びんとするや、直に杉山氏を排斥して、忽ちこれを、階級道德を蹂躪したるダラ幹なる蔑稱を以て呼ぶ。彼等の倫理觀念の誤れるは、正に殺人に等しき狀態である。

【五】

以上の事實を見るに、彼等の戰術は、徹頭徹尾、陰險にして奸佞、彼等の戰術の奧の手は終始一貫、他を攻擊して、自らの非を蔽はんとする以外の何ものでもない。彼等は、他團體を乘取り、攪亂せんが爲には、又これに戰ひ勝たんが爲には、如何なる陋劣、奸惡なる手數をも辭せず、其の執拗なること、ダニに等しきものがある。斯くの如きは、果して無產階級解放を以て使命とする社會運動の合理的手段なるや、正道なるや。

更に彼等の他を中傷する蔑稱として、ダラ幹なる語を頻發するを見る。されど、彼等の稱するダラ幹なる者は、概ね無產階級解放に身命を賭しつゝある眞劍なる鬪士なり。唯硬骨にして淸廉、露西亞第三インタナショナルの命を奉ぜざる者のみなり。露西亞共產黨の指令を奉ぜざる者をダラ幹と云ふべくんば、指令に忠實なる日本共產黨及び其の亞流の如きは、正にドロ幹の名稱に恥ざるものである。咄！無產階級鬪士を陷れんが爲に聞くに堪えざる蔑稱を與へて恬然たる日本共產黨と其の亞流！他人の事を言ふ前に、先づ自らの頭の蠅を追へ！

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

對支政策を駁して 民衆の奮起を促す

牛窪愛之進

一

天正の風雲兒維任日向が
　時は今天が下知るさつきかな

と打ち誦じつゝ血戰の火蓋をきつたと云ふ五月は吾曹プロレタリアにとつて解放運動の書き出し時である。歴史的に科學的に青葉の色濃かならんとする五月は世界人類にとつて既にして惱ましき春のめざめを超えて炎からんとする身心の活躍期であるのだ。

支那の五月は常に風雲が動く、社會的に政治的に風雲が動く、然して遂に傍觀を許さぬ現局とはなつた。吾曹民衆は最早只にこの風雲の動くを見つむるのみ或は夫れを批評するのみに止まる智的遊戲に耽つてはならぬ。進んでこれが渦中に投じ吾等民衆の進路を開拓せねばならぬ。道遠きに非ず、時は將に近づいてゐる。

吾曹はここに多年の鬱積を措きて時局の推移に血戰の第一歩を踏み出さねばならぬ。吾曹は茲に警戒線を突破して雪崩の如く解放戰線に押し出した支那民衆の動きを對岸の火と見るを許さぬ。

惱める支那の民衆、虐げられし四億民衆の解放運動を眞の正義に立脚したる協力團結を以て救はねばならぬ。

吾曹は最早過去半世紀に渉る列國の對支政策の看板……實質はたゞに支那を搾取し民衆を虐ぐる帝國主義的資本侵略主義……に欺まされてはならぬ。

聞け彼の友邦に喚る同志の雄叫びと民衆の鯨波の聲を！

支那の解放は世界民衆の解放である吾曹は吾れ等の團結の爲めに世界人類幸福の建設の爲に時局を觀、時局に處する義務がある。

先づ第一に支那に投げかけられし列强のヴエールを取り除かねばならぬ、そして怪異、ミステリーランド、ミステリーネーションと呼ばしむるあらゆる錯覺を矯めねばならぬ。

支那の動きに見る幾多の現象は各支那民族蘇生と云ふ一條の軌道に乘つて走行して居る。其處に何等の怪異も無く不可思議も無い人物の怪異、國土の怪異などは、云ふ迄もなく列强の物せる詭辯であり僞飾である。彼等が常に文化文明を誇りつゝも今尙怪異妖怪を饒舌する頭腦の不明晰と自家撞着に陷りたる矛盾の論理いささか噴飯に値する。無を有に化する至難に非ずして不可能也。

支那の存在を夫れに彩色する事によつて隱蔽し糊塗し支那の民心を歪曲的の啓蒙思想を與へて墮せしめたるは皆列國の罪だ。一歩突込んで云へば帝國主義的資本侵略主義が物せる俗惡創作である。而もこの俗惡創作を讀み耽りつゝある間に漸次己を毒し尙毒しつゝある列國の資本家は未だ己を毒し來れる病因を知るに敏ならざるか或はこの自瀆的疾患の恥を公開するに恐怖を抱きてか舊態を改めず軟化!硬化白紙主義とか共同抗議とか朝變暮改日和見政府の事務的外交を楯に尙ほも彼等の常套語を口にしつゝ折もあらばやと彼等獨特の大惡魔主義を續行す可き機會を狙つて居る。

彼等は云ふ。

現在の支那に眞價支那的の存在なるものありや? 國民性の虛脫と實在の無價値に陷ちたる支那が(資本主義、帝國主義)の後見によつて文化を進めらるゝを忘れ徒に過激の理論に騙られて夢現的空想に墮ち魂を散じて赤賊の徒の傀儡となり已れ自ら文明の血癌を起して祖國を瀕死の狀態に導き端然たる何ぞ愚なるや?

然も啓蒙の恩義を忘れ恩人を苦しめ、人道を蔑り暴虐を恣にす、罪正に天人共に相容れずされどこの暴狀を看過せんか其結果や世界人類の福祉の爲め忍ぶ能はざる所に陷るは必然的なるを以てあらゆる犧牲を忍びてもこの老ひし古の人道國を濟ひ以て世界永遠の平和の基礎を固くせざる可からず仍つて×××。

次に置かる可き文章を抹殺すればあゝそれは何たる友愛的の人道主義であらうか。

これ所謂彼等の僞飾的辯證法であり而も侵略繼續のアルチメータムである。

さればこれこそ近世十九世紀末より現在に及ぶ支那が受けたる大禍根たる即ち支那を列國の殖民地化し支那民族を列國資本の奴隸化せしむるに用ひられたる資本主義の假面的道德思想の根本義であるのだ。

吾曹は茲に徒なる感激に驅られし文章を列ねて攘夷的戰闘を挑む者で無い。或は、四億の人口四百万平方哩の地域てふ支那と世界の數量的對比問題に躊躇して事を重大化するので無い。現在の支那時局の轉換行程が吾曹プロレタリア大衆にとつて劃時代的の大運動たる可き分岐點に接

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

近したるを認識し支那現在の革新運動の因泉を明かにし友邦同志等をしてこの運動の繼續を只に不平等條約撤廢、民族自決、內政更新の程度に停滯せしむる事なく進んで其の鋭鋒を全世界民衆解放の維新に赴かしめ徹底的に搾取機能の源泉なる癌腫の大手術を行はしむる爲、最善の救濟を與ふべき輿論喚起を呼號するものである。

二

支那は古き傳統を有する老大國である。

支那は土地浩く富源豐かであるが其の國民は怠りてこれが開拓に當らず外國によつて指導され開發されて居る。

支那に戰亂の絕えぬ不思議な國であるそしてこの戰亂の市場は第二のバルカンとなるであらう。と。

各國民衆の支那に對する一般見解は大約この程度である。斯くも日本民衆の大部分は只無意識的意識のうちに不注意的注意により友邦同交の國と常に呼稱しつゝも漠然たるこの程度の認識から出發して支那の推移を把握せんとしてゐる否把握したつもりでゐる、然しながら民衆をしてかゝる淺薄な見解にみちびきたる原因は明かに敎化、機會均等、指導等の美名によつて巧に自家の支那に對する貪欲を覆ふて行動する列國支配階級がなせる時代錯誤の敎化によるものと斷定すると雖も、われ等の先輩が過去に經來れる民族維新の黎明期前後の事象を想ひしのび見れば只其の原因の惡のみに眼を移し其の事實の解剖に機を失してはならぬ。さらば先づこの邊の啓蒙から歩を進める必要を知る。

支那を怪迷的抽象によつて特殊視し支那を商品的見解によつて判斷する分子は到底容易に支那の動きを見る事が不可能である。支那は支那民衆は決して妖怪的抽象によつて特殊視さるべきではない。

日本が日本である如く英米が英米である如く支那は明かに支那といふ實體であるそこには何の理論もなく檢討の必要もなき明かなる事實である。

敢て列國と云はずとも資本家の牙城これこそ眞に千古の秘密を包む魔界の巖窟である。この巖窟より絕えず繰出される魔性の資本は人間社會の各所に轉戰し魔性獨特の妖術を以て民衆の膏血を吸收しこの膏血の埋藏によつて更に幾何級數的に體力を增進し魔性能力を繼續され愈々妖怪的手段を發揮して行くものである。さればこの搾取現象を支那民衆に移して見れば實に彼等民衆は資本により二重三重の貪慾飽く無き搾取を受け、吸血されつくし其の脾力は衰滅しこの壓迫に對抗するは勿論新たに歩み出すべき根氣をも失ひたゞに感情的興奮によりてのみ僅に其の生存を續け行くのみになつたのである。此等の狀態は俗學經濟學や資本主義的科學に於ける過去の理論に於ては全く取扱はれざる不可思議なる現象に映り之に加ふるに浩大なる地理的關係より生ずる諸現象と更に加へられたる資本侵略主義の傀儡による惡宣傳により愈々出でゝ不可思議化せる社會狀態に見えて來るのである。これ等を詳述する道理として玆にかゝる結果の誘因を成せる一二機能を說明すれば資本帝國主義の一戰鬪員にして軍閥の副產物たる特務機關がある。特務機關それは過去の軍國主義の遺物にして現には資本侵略の用心棒たる所謂支那浪人といふ變態性階

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

奴である。彼等は志士と號し國士と稱して過去に於ては軍國政府の特派せるスパイであつた今は資本の濁流に游り住みて利潤のいろくずに寄生し資本侵略の擁護者たる各國政府の默認を得て半ば支那軍閥官僚の目付役となり外に民衆搾取の仲介業を營む然して自營の事務業ならざれば退いて在留邦人の押渡り歩く此れ等が屢々還遷せる事實にして而も在留民會長居留民團長と號するもの又往々あり。約言すれば彼等は資本の寄生蟲であると同時に支那民衆と自國民衆云ひかへれば世界民衆の寄生蟲である而も彼等は殖民地に在りて徒に粗暴亂雜なる頭腦の持主と化し、只に反動的陳腐なる思想にイゴイステックな人生觀を秘めて盛に毒素や腐敗菌を支那全土に蒔き散らし乍ら搾取戰線の前衛を承はつて居た代辯人もやつて居るのだ。

吾曹は茲に筆を改めて同じく資本侵略軍の前驅隊としてキリスト教を背景とせる似而非人道主義者の一團が支那の奥地に潜入して前者と同様、平和的偽善主義を以て搾取機能の先鋒に從事して居つた事を發く。彼等は神の力を偽造し否無斷拜借し或は改竄し、資本の自由開拓說を高說して此處彼處にセツトルメントを造る事に奉仕して居た。彼等の一部にはかゝる偽善のプログラムを繰かへしつゝある内に眞の現狀に血涙を禁じ得ず人類學の見地に立戻り、迷へる羊の變化に當つたものもあるがかゝる者は直に後門の虎たる資本閥の激怒を買ひ左遷、放逐の憂き目に逢ひ資本國外に施す無きをかこつに至つた。

自稱牧師團の先生達よ、吾曹の簡にして眞を穿てる論駁を以て詭辯なりと爲すか、或ひは暴論也と爲すか。さらば敢て證すべき一言がある。君等にして眞の人類愛を高調しキリストの使徒として無抵抗、博愛主義を唱ふるならば何故に既往數次の支那によつて行はれたる國際事件の結果としてとられた君等祖國の武力的壓迫干渉に擧げて非戰の狼火をあげなかつたか。如何!

君等にして眞にキリストの流れを汲む救世濟民の實行家たらんには何故にガラリアの道にてキリストの幻示に遭ひ奔然踵を返して受難のローマに赴けるポーロの精神の片鱗をも學ばざるや。君等は一身の危難と稱して戰亂に迷へる羊を打棄てゝ倉皇安易なる故國に遁走しつゝあるに非ざるか。然も半生の教化放棄の止むなしと黄金搾取の地を想起して東洋の嘆をもらしつゝあるではないか如何!

働けど働けどなほ我が生活
樂にならざりヂット手を見る

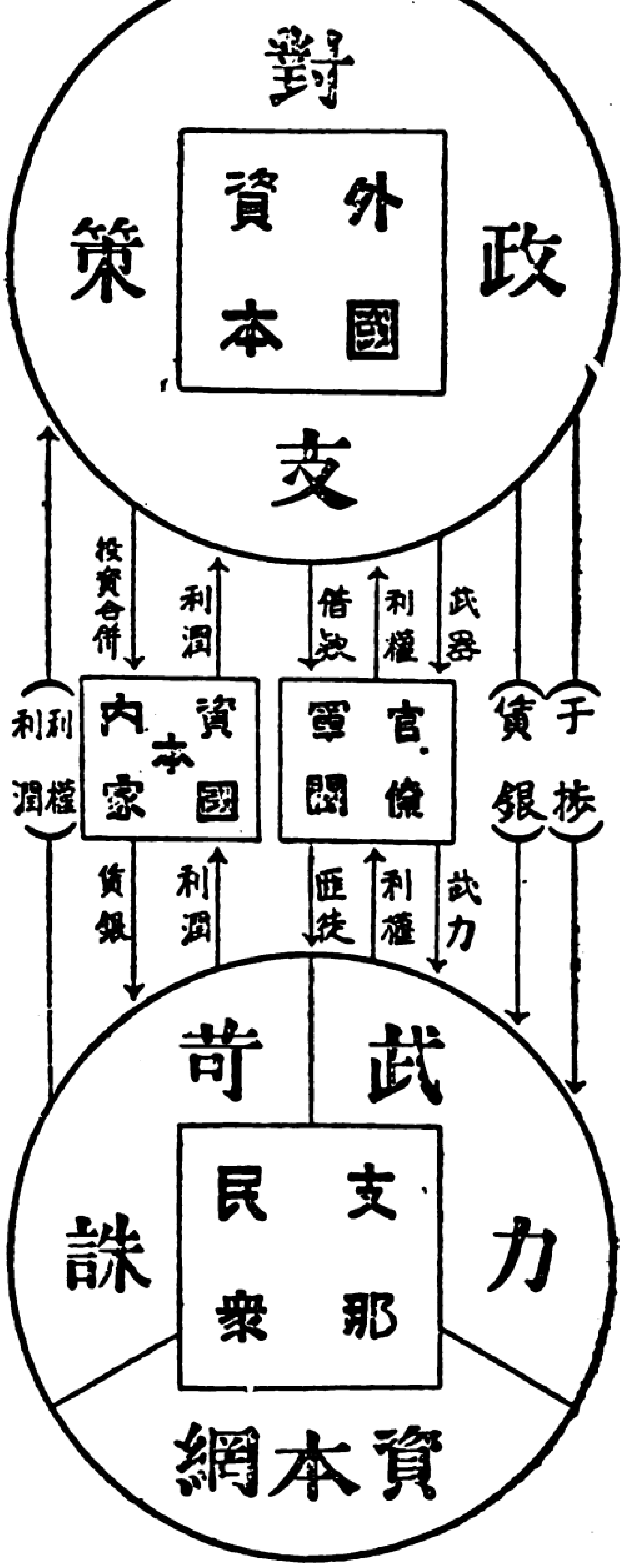
と詩人啄木は歌つた。

支那の民衆は働けど働けど、それは徒に己が身をいため己が民族を衰頽に導くのみである。彼等の努力は軍閥官僚の收むる處となり彼等の血と汗は同じく軍閥官僚資本家の利權利潤に轉化し更に外國資本増殖行爲に作用して悉く資本網の圏内に運び込まれる。結果得るに食なく着るに衣なしの狀態に陷り多くは窃偸の群に入り或は土匪となり、馬賊となり更に此れ等の掠略横行により新たなる無産者浮浪者、窃偸、土匪を生み、父母兄弟は相離散し窮すれば親は子を賣り或は捨て女は陋巷にさすらふて淫を鬻ぐ。一見現實の諸象より推察せば全くこの世からなる地獄にうつり惡魔の國にひとしく窺はれ悠々飽食する資本家根性を以て律すれば明かに人間

界にあらずして妖怪國の如く特異性にみられるのである。これ彼等の所謂國士、民衆の怪異と稱する所以である。

然れども吾曹として云はしむれば列强資本家がこの諸相の悉く已れ等に依つて行はれし搾取戰の戰禍なるを知りつゝ尙も口に人道を云爲しつゝ進んで搾取侵略行程の繼續を計りつゝある暴狀こそ正しく妖怪惡魔の行爲にひとしく――ネロが利己的野心のもとに帝都ローマを焦熱の狀裡に陷き市民が阿鼻叫喚するを看つゝ高樓に宴してトロイの詩を誦して興ぜりと稗史に傳ふる暴逆にも增したる非人道的行爲にしてこれこそ彼等が常に口にする天人俱に相容れざるの罪ではなからうか。

吾曹は次に支那民衆に對する搾取系統を圖解によつて明かにし資本が如何にして二重三重の搾取をいとなみ如何なる方法によつて支那民衆の上に跋扈しつゝあるかを詳說して見よう。



一般に支那の革命と目せられ支那の年中行事と稱せられたる動亂の多くは既往に述べたる列强の資本侵略擴張の爲めに列强各自が支持せる軍閥の勢力伸張競爭の片影であつた。

これこそ支那民衆搾取說明の上に重大なる論點にしてこの競技に於ける各勢力の消長や投資列强の步調の變化により搾取過程と搾取種類に變化を來すものである。

先づ掲揚の理解より始むれば、

見よ列強の資本は各自の政府對支政策と云ふ飽衣に圍繞され豐艶なる妖婦によりて武力、資本網、重税苛誅の責苦に力失せたる支那民衆を如何に蹂躙しつゝあるかを。上圖により下の、外國資本による支那民衆の間を結ぶ一線は列強の支那に於ける直接搾取を示すものであり、即ち武力干渉の場合に於ける利潤搾取例へば租借地の如きは外資の直接投資例へば上海、青島に於ける紡績事業の如く各外國資本家直營の事業に於ける貸銀對利潤の一般搾取を表したるものである。更に兩者の中間に巣喰ふ、官僚軍閥との間を結ぶ各線の交錯は、各國が其支持する官僚軍閥に對して軍資の借款に應じ或は密約により武器の供給を爲して利權即ち鑛山權、鐵道敷設權、關税管理權、工業商事、漁業森林等の權利を得る路にして軍閥官僚はこれが爲めに互に競技を開始し其結果は戰亂となり兵火により匪徒による餘波は悉く民衆の上に係り列強に提供する利權はかうして民衆より搾取されるを表したるものである。

次に同じく中間國內資本家と兩者(外資と民衆)を結ぶ直線は支那に於ける各種事業と稱する內外共同出資に於ける事業家對民衆に及ぼす搾取關係を表すものである。然してこれ等の中間には更に種々の機能分子ありて搾取を營めるあるは既述の各項に由つて了知さる可し。

第一革命(滿洲を廢して中華共和國を建たる)以來特に之等搾取機能の發展は著しく殊に輓近諸工業の發達につれて熾烈なる軍閥割據となり益々其の競技と競技の餘波とが鮮明になつて來た。

彼のバートランド・ラッセルは「支那に於ける工業發達の可能性は大なり今後二十年間に於ける發展は支那のあらゆる發達と危險をはらむ」と豫想したる言を想ふ時今にして之を防遏せざるか餘波の波及する處民衆の危機に及ぶ處愈々甚だしかる可く、資本の魔力と武器の威力相完備したる外國資本家行程は支那民衆の虐殺運動に等しと斷言するもはゞからない。

巨細に之を説明すれば列強は彼等個々の支持せる軍閥の興廢何れの時に於ても彼等自身の武力を支那全土に確立し勢力消長何れの時に於ても寸毫の假借、厘毛の顧慮する處無く、權利の主張、既得權利の擁護と壓制條約の義務履行を迫り、人類友隣の情誼、德義の存在徴塵も無く已に帝國開拓の野望をつぶやくばかりである。

さあれ資本家よ、それを報復と知るを止めよ、然して改めよ、時勢にめざめて吾曹民衆の一員に降れ、彼等は徒に刃を磨きて復讐の血をぬらんとする暴擧を敢行する者に非ず。針少棒大の悪魔的宣傳によつて無辜の彼等を傷くるを止め罪の搾取を人類運動に反省せよ、さらば既往の流血を袖手して傍觀せる亡狀も償はる可し知らずや×××××さらばこれこそ吾等の最後通牒に代ふ可し。

民衆よ同志よ、再び云ふ。吾等は××支那に於て人間惡の所業を營む資本侵略主義に欺瞞さるゝ勿れ、さらば吾等は茲に救援を宣言す。

吾等は茲に、支那に對して新たに起る帝國主義的資本侵略の手段を阻止す可し。而して列國によつて採らる可きあらゆる軍事行動と武力高壓手段を防遏す可し。

斯くてこそ吾等の勢力は人類歷史に永遠の芳名を刻まるであらう。(了)

(一九二七—四—廿五)

反動政治の亂舞

——田中內閣を粉碎せよ——

資本主義最後の段階たる、帝國主義下にある我が金融資本主義は、それが沒落期に於ける必然的過程たる經濟界の混亂を惹起した。即ち無産者搾取の旗頭として、國際的搾取に迄雄飛してゐた東洋の大借金王、鈴木商店の破産に伴へる各地銀行の閉鎖、就中、臺灣銀行の破綻は、我が、金融資本主義國家をして、未曾有の混亂に陷らしめた。此の間、若槻憲政會內閣は、大恐慌に面せる金融資本家の危機を救ふべく、天晴れ勳功あらんことに焦つてゐたが、俄然！緊急勅令問題から樞密院のヨボ〳〵爺イ共と衝突し、遂に總辭職するに至つた。

斯くて出來上つた後任內閣は、反動の元兇、典型的ファーシストとして、定評のある政友會總裁、田中男爵の率ゆる時代錯誤政府である。

由來、政友會は既成政黨中に於ける最も反動的なる政黨として知られてゐる。彼の原敬の如きは往年、普選は國民を赤化せしむる最大原因なりとして之れを痛烈に排擊し、斷乎として民衆政治に反對してゐたものである。原敬を繼承したる高橋內閣以來、野に在る事數年、昔の憲政會內閣、加藤高明の提出したる、普選案に、國民の信頼を買ふ爲め、厭や〳〵乍らも、贊成せざるを得なかつた位である。政友會が若し、從來の天下を掌握し來つたものと假定せんか、今日施行されてゐる普選法の如きは、僅に一朝の夢として、今尚、空中高く游離してゐるであらうことは豫想するに難くない。

又、政友會が嘗て金塊事件、機密費事件——本誌前號・一七頁・同人時評參照——等の醜惡なる歷史を有し、國民から最も卑しむべき政黨なる名稱を與へられてゐる。更に彼等は、往年シベリア出兵を斷行し、常に反動的なる政策を掲げて、露骨なるブルジョアジー擁護の任に當つてゐたことも天下周知の事實である。

斯くの如く、社會進化の歷史的必然を無視し、普選法に對してすら反對の意嚮を有してゐた代表的反動政黨たる政友會に、而も醜惡なる事實に依り、猛烈なる國民の罵聲を浴びてゐた陸軍大將田中義一に、日本の政治を敢て委ねた樞密院のヨボ〳〵爺イ、所謂國家の元老なる者の不明を、否！殆ど盲目に近き頑迷思想を、我が無産階級は一齊に起つて、徹底的に糺彈しなければならぬ。

田中內閣は、四月十九日成立以來、所謂●●●●財界を安定せしむること

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に跳梁してゐる。然しながら、社會進化の歴史的必然の前に、沒落崩壞を宣言されたる金融資本主義は、如何に救濟の助け舟の援護はあつても、最早、安定の望みはつながるべくもない。

資本主義末期に現はれたる反動政治の亂舞は、如何なる場面を展開して行くか。我が無産階級は、之れを粉碎すべく闘爭せよ！

左翼勢力の沒落

左翼××主義を標榜する評議會内の前衞分子は、如何に理論が立派であつても、實踐のこれに伴はないことは、今日迄の彼等の行つてきた跡を見ると直に分る。理論を並べることのみが社會運動ではない。大衆の要求を代表し、大衆の利益獲得運動を行つてこそ、始めて社會運動、組合運動の意義が存在するのだ。然るに左翼共産黨評議會の一派は、口に××理論を吐き、單に無産階級獨裁を說いてゐることは既に誤謬であり、如何にも××運動の闘士として眞摯な運動家であるが如く見ゆるが、其の實は、日本の國情、殊に國民性を省みず、徒に露西亞流の××理論を振り廻す、小兒病患者である。彼等は、露西亞第三インタナショナルより、發せらるゝ指令に依つて動いてゐる資本主義的奴隷根性の持主である。

彼等は露西亞の命ならば、服これ從とばかりに如何なる事にも反對せず、操り人形の如く動く。其の奴隷的根性の露骨なる表現の裏には、實に醜き金錢の收受のあることも既に明かな處だ！彼等は運動資金、乃至は生活費を支給されることに依つて露西亞第三インタナショナルより發せらるゝ指令を遵奉し、これを最も忠實に、日本の社會運動の舞臺の上へ展開せしめつゝあるのだ！所謂社會運動の前衞分子の内情や、正に斯くの如しである。故に彼等の遣口は凡て抽象的であり、觀念的である。彼等の大會に於ける議案の審議、質問、等の口吻は正に天上の社會運動家を思はしむるに充分である。

去る四月二十日、岐阜縣土岐津町に行はれた日本製陶同盟の大會及び、五月七日東京に於て行はれた自治會の大會席上、觀念的理論に依る中傷的言辭を以て他の代議員を罵倒したことも、彼等の遣りそうな事である。

彼等の抽象理論のタワ言は、何ぞ永へに通用するを得んや。即ち彼等を、大會當日、製陶同盟は京都派を、自治會は左翼妄動分子を除名處分に附したのである。

斯くの如く、左翼共産黨系の小兒病患者は大衆の團體から續々除名され、排斥されつゝある。評議會の如きは、他の勞働團體から蛇蝎視されてゐるのも亦、由なき事ではない。斯くて左翼の勢力は日一日と凋落、沒落、遂には崩壞の過程を辿らんとしつゝある。

左翼勢力の沒落崩壞！斯くて日本の社會運動は眞の大衆運動へと躍進する。

支那から手を引け！

列強資本主義國家の支那に於ける帝國主義的侵略の魔手は、愈々露骨を極め、支那四億の民衆は、今や帝國主義的侵略の前に、一片の自由を束縛され、あらゆる迫害を蒙り、人間的な生活をすることすらも許されてゐない。

日、英、米、帝國主義國家の利害の衝突は、今や、支那を中心として鎬を削るの白兵戰を演じつゝある。支那國民革命軍の破竹的進

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

展は列強帝國主義國家をして恐怖せしめた。斯くて列強の支那に對する武力的干渉は具體化せんとしてゐる。

東洋の搾取的法治國、陸軍大將を首相とする反動內閣も、正に武力的干渉を、敢て斷行すべく戰鬪準備を整へた。

支那より手を引け！對支絕對非干渉運動を起せ！支那階級の武力的干渉を默視せよ！

舊共產黨の策動と日勞黨

理論的に福本一派の學生派に、克服され、折衷主義者なる烙印を押された舊共產黨の堺、山川派は、最早勞農黨、評議會では相手にされなくなつたので、完全に足場を失つた。勞農黨、評議會は福本一派の學生派の理論的指導に依つて動いてゐることは、明かな所であるが、其の學生派を牛耳つてゐた北條一雄事、福本和夫も、傳ふる所に依ると、行方不明になつてゐるそうである。勿論、勞農黨、評議會は福本派に指導されてはゐることは明かであるが、福本一個人に指導されてゐた譯ではないから、福本は居なくなつた處で勞働黨、評議會派は尚ほ當分、此の學生派に指導されるであらう。

然しながら、此處に云はんとするのは、新共產黨福本派に克服された舊共產黨の今後の成行きである。彼等は如何に切齒扼腕すると雖も、理論的には到底・新共產黨の相手ではない。從來、指導し來たつた共產黨、勞農黨、評議會等は福本派に攪亂され、遂には日和見主義的折衷主義者なる名稱を與へられ、完全に、其の指導的立場を奪はれた。そして今迄の乾分連中からは却つて痛烈なる罵倒を浴せかけられ、堺、山川、何ぞ社會運動を知らんやと攻擊されてゐるのである。

所謂、日和見主義的折衷主義の沒落！又宜ならざるを得んやである。其の愁傷さ加減、誠に、物の哀れを止どめてゐる。

斯く云へばとて、吾々は決して福本一派の學生派に贊同するものではない。學生派には又、學生派として言ふべきことがある。吾々は無產階級全體の損失と乘取り、陰謀と術數のみを弄して無產階級運動を毒しつゝある新、舊、日本共產黨の何れをも排擊する。無產階級運動は、無產階級其れ自體の要求を土臺として發展せしめねばならぬ。徒らなる理論拘泥主義、觀念的獨斷主義に立脚する日本共產黨の戰術に對し、吾々は從來、戰つて來たのである。理論に拘泥せず、而も現實主義に墮せざる鬪爭精神を基調とせる勇敢なる實行運動を執らねばならないことを吾々は不斷に唱へ來たつたのである。

舊共產黨の沒落！日和見主義的折衷主義者の失脚！此處に於いて當然、彼等舊共產黨の問題とするのは立場を得ることである。彼等は社會運動家としての立場を得べく何れかに安住所を求むることに腐心する。其處で彼等の問題とし唯一の安住所として野心の眼を放つたのは、階級的正道を濶歩する日本勞農黨である。今や日本勞農黨は、旭日昇天の勢で發展展開し、無產政黨として、能く其の黨務を遂行しつゝある。其處に俄然！投ぜんとしたのは前述の如く、學生派に指導的地位を奪へされ、立場を失つたる舊共產黨の堺、山川一派である。

今や將に日本勞農黨は此の舊日本共產黨の策動分子に依つて禍されんとしつゝある。彼等の侵潤を受けて健全なる發展、生長を爲してきた日本勞農黨も、陰謀を事とする彼等の侵潤を蒙らんか、忽ち黨は混亂

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

するに至るであらうことは明日だ！

日本勞農黨は舊共產黨の侵略を拒め！策動分子の潜行的行爲を排せ！

既成政治家と離合集散

定見なく、節操なき者は常に轉々として立場を豹變する。今日のブルジョア政治家の總てが其れだ。昨日迄民政黨に籍を置いてゐたかと思ふと、今日は既に政友會へ身を置いてゐる。政友會へ身を置いてゐるかと思ふと、早くも新黨組織に狂奔する。朝に呉の客を送り、夕に越の客を迎ふ。節操の無きこと正に娼婦のそれに等しい。

この醜き現象は果して何に原因するか。云ふ迄もなく彼等には定見がない故である。彼等の、或ひは議會に、或ひは會合に於ける爭ひたるや主義主張の爭ひではなく、政權を掌握せんが爲の爭ひである。故に彼等の進退去就は、政變のある度毎に、露骨に行はれる。即ち民政黨政權を握れば、其のおコボレに預かるべく直に之れへ入黨し、一度民政黨内閣倒れて政友會内閣出現するや、又亦直に政友會へ入黨する。節操のなきこと、豈、娼婦のみに止まるべけんやである。

彼等は又、自己の利害關係に依つて離合集散するのみならず、個人關係にも依つて離合集散する。例へば田中大將が政權を握れば、者の些末なる好餌を餌にして之れに縋りつき、其の恩惠に預からんことに努力する。其の手段の陋劣なること、其の厚顔無恥なることは如何程の強者と雖、三舍を避けざるを得ない所である。

要するに、ブルジョア政治家の離合集散は、主義主張の爲ではなく、政權を目當にしての行爲である。吾國の無產階級は斯かる定見のなき、志操のなきブルジョア政治家の醜態を嚴重に監視すると共、來るべき總選擧には之等を痛擊すべく勇敢に戰へ！

メーデー大示威

五月一日、此の日我が日本の無產階級は、第八回メーデーを敢行した。東京、大阪を始め、全國の各都市、各町村に至る迄デモンストレーションを行ひ、勞働者の日メーデーを祝福した。

全的政治鬪爭の大舞臺へ、雄々しく進展しつゝある無產階級の支配階級に對する決戰の雄叫びは、正しく彼等をして戰慄せしむるに充分であつた。街頭に翻く我等の××は、日頃勞働者を奴隷の如く虐使してゐた資本家の心膽を寒からしめた。

新興無產階級の偉大なる勢力の前に、愕然色を失つた田中反動内閣は、此の日全國のメーデー示威行列に對し、狂暴なる彈壓政策を斷行した。

東京に於ては、會場の入口に數百名の警官を配置し、入場者を一々首實驗し、組合員以外の勞働者を片ツ端から檢束した。途中××歌を歌つたとかで檢束する等、其の狂暴振りは殆と正氣の沙汰に非ざるやを思はしめた。大阪、京都、神戸、其他全國に於ても暴虐、理由なき檢束の如何に多く行はれしことか。我々は今後斯くの如き理由なき檢束に對し、猛烈なる抗議をしなくてはならない。

然しながら、此の日行はれた支配階級の意識的暴壓に、資本××××××××××××××無產階級の鬪爭力に對する、深刻なる恐怖を認識したが爲めであると云はなければならない。然り！階級戰の途上へ勇敢に進軍しつゝある無產階級の驀進的躍進は、支配階級をして×××××××××××ものである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

耕作權の確立を主張する理由

杉山元治郎

農民運動の眞の目的は搾取者も被搾取者もなき世界を創造することであるが、夫れに至る過程として最近に於ける我が國農民運動の二大目標は『小作料の合理化』と『耕作權の確立』であると云ふても過言でない、小作料合理化の運動は永久小作料の輕減化によつて其の端を發し、各所に於て徐々に低下され其の目的は着々と達せられつゝあるのである。是に反して耕作權の問題は益々激成され、小作料の輕減が行はれ地主の地位益々不安になるに從つて、彼等は逆襲的に土地立入禁止或は土地返還請求の態度に出で小作人の生存權を脅かさんとしつゝあるのである。試みに全國各裁判所に於ける小作訴訟を見るが良い、其の大多數は土地返還の請求であり、時には不意打に土地の假處分即ち立入禁止の申請すらなしつゝあるのである。今や我が國の農村問題は小作料の合理化より耕作權の確立へと展開しつゝあると云ふて良い、此の問題は單に地主勝つか、小作人敗けるかの些々たる問題でない。各種の方面に於て國家社會全體に關係する重大問題である。故に耕作權の問題は愼重に考究せねばならぬのである。我々は何故に耕作權を主張するのであるか、是より少しく二三の點に就き簡單に述ぶることにしやう。

第一は土地成生の自然的立場より主張したい、土地は空氣及び水と等しく獨占私有すべき性質のものでない、私有したるが故に今日のあらゆる農村社會問題は惹起されたのである。我々は土地成生の自然的立場から見ても土地私有の不可なるを主張したい、此の宇宙が創造され、土地が成生される樣になつてから今日まで何年程になるか學者によつて其の說は異なるが、ケルビン卿は五億年、ハックスレーは二千五百萬年と算定してゐるのである、即ち最短年限に見積つても二千五百万年であつて我が國開國の歷史に比較すれば約萬倍の長き年月である、況してや地主なるものが土地の私有を主張するに至つたのは極最近のことであつて、比較にもならぬ短時日である、然るに何の努力もなさず、偶然の機會によつて數十百年の間土地の管理をなし得たとしても、全然我物顏に土地所有權の絕對を振り廻すが如きは餘りに僭越の沙汰と云はねばならぬ、例へば此處に一つの家を建築する者がある、其中に或者が一日位ばかりの手傳ひに行つた所爲に、其の新しき家が全く己のものであると主張するならば狂者か白痴者として取扱ふに違いない、此の土地を何等の都合によつて數十百年支配したるが故に絕對所有權があると主張する今日の地主は聊か能者に類する者ではなからうか、土地は私有すべきものなりや否や、絕對所有權を振り廻すべき性質のものなりや

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

否やは少しく冷靜に考察するならば其の意義おのづから明かになるのである。

第二は所有權の法律より耕作の習慣がより古いことを主張したい。耕作上の慣習は常に法律の定め以前に發生したのである、故に耕作の問題を解決するには其の絶對を主張するより以前に耕作習慣を檢討する必要がある、所謂一片の法律を以つて永い習慣を變ることが出來ない、試みに土地制度の變遷史を見るが好い、明治維新までは其の所有の權利何れにあるや曖昧である、又習慣に於て見るも徳川時代は土地の賣買は禁止され、土地管理の意義と雖も自由にすることが出來ず、爲めに年貢米だけを取る奇現象が生じたのである、即ち此の土地に出來る米の何石宛を持つて行くから金何圓を貰ひたいと云ふのである。米を買つたので土地を買つたのではない、然るに明治の初年に於て土地所有者の確定をなす時、是等の事情を詳細に研究せず表面小作米の如きものを取つてゐるが故に彼は地主たりと決定したのである、それ等の人々は、權利の上に眠つたのであるから權利なしと云ふであらう、其が今日村問題の契機となりつゝあることを一笑に附することは出來ない、既に私有制度の確立は明治維新以來のものであつて極く新しいものである、是を以つて長い〳〵歴史を有する耕作の習慣を無視する所に問題が起るのである、日本の小作慣習の如きは單なる民法上の貸借を以つて律すべきではない、其れ以上のものなることは何たる裁判官も認識してゐるのである、然るに、法律上の明文なきを以て是を無視し、所有權の絶對を許すが如き、法の運用を誤るもののみならず農村問題を紛糾さすものである、吾人は何でも古い習慣を尊重せよと云ふのでない、併し少くとも土地耕作の如きは慣習を無視して解決することの困難なることと一言したいのである。

第三は法律は從にして人間が主たることを主張したい、法律は元々人間のために作られたるものであつて、法律のために人間が作られたのでない、然らば人類社會の進歩と共に常に法律は進歩發展すべき筈である。併し法律の歩みは遲く常におくれ勝ちである、民法は明治三十一年に制定以來大なる改正はない、明治三十一年と今日と比較すれば驚くべき變化を來してゐる。此の社會狀態に於て制定以前の民法を適用する時矛盾衝突の起るのは當然である、恰も小供の時の着物を大人になつても着せ様とするに等しいのである、其處で矛盾衝突をなくするには着物を大きくするか、人間の身體を縮めるかゞあるが、後者は云ふべくして絶對に出來ない、それと同樣に法律は人間社會のために改正すれば良いのである。

法律の制定は絶對多數の絶對幸福と安寧のためである。然るに所有權の亂用は一部少數のためのみであつて多くの耕作人は苦しめられつゝあるのである。法律本來の目的に從ふには少數の地主には犠牲になつて貰ふても、多數の耕作人のためになる即ち耕作權は確立せねばならんのである。

第四は生存權の立場より耕作權の確立を主張したい、我々は此の世に生をうけると同時に生存權と共に勞働權はあるべき筈である。生命の價値を思ふ時生存權は何よりも貴いことが悟られるのである然るに今日の如く地主に所有權の絶對を許し、一片の通告により一ケ年後には耕作人より自由に土地を引上げ、或は少し許りの感情により土地立入禁止を行ふが如きは何處に耕作人の生存權は保障されてゐるのであらうか、是では財産のみの保護であつて生命の保護は少しもない。我等の生存權は何處にあるであらうか、農民は職業的階

係上容易に轉業は出來ない、又長い間の搾取のために他に出て生活し得るの能力と資力もない、故に耕地を引上げることは恰も魚より水を取除くと同一である。

農民も人間である。生きねばならぬために無理とは知りながら地主に從ふて來たのである。此の契約を誰が自由契約と云ふであらうか、刀を咽喉元に當て其意志に從はしめた契約が何の自由であらうか、斯る不合理の契約をなし置きながら、其の改正を要求する時最後の手段に訴へて耕作人を脅かすのである。我等は小作契約の不合理であると同時に地主の所有權濫用は耕作人の生存權を危くするものであるから何處までも反對する。日本の民法のお手本である獨逸民法は已に所有權に或種の制限を加へてゐる。

是は餘も當然なことである。我々は日本の現在の如き所有權を改正し、眞に働く者を保護する制度即ち耕作權の確立を主張するものである。

土地は所有してゐても何もならない、之を利用することによつて貴くなるのである。持つてゐるだけでは何等の富も生産もない。耕作するものがある故に年々三十六億の農産物を收獲することが出來るのである。然るに現行民法は此大切な耕作人を少しも保護せずして只だ持てる者のみを保護してゐるのは大なる誤りである、故に耕作人の生活を危くするが如き土地立入禁止の如きは絶對に廢止し、無益なる土地引上げに對しては不可能ならしむる樣耕作人の保護を第一にすべきである。

第五に産業政策の立場より耕作權を主張したい、農業の改良は一年や二年で出來るものでない、特に土地の如きは多年の肥料の爲により良くなるのである、誰が一ケ年で取り上げられたり、不時に立入禁止をされる樣では熱心に働くことが出來ないのである。即ち掠奪的農業を行ひ、爲めに生産が低下し、國家の富は減少するのみならず、消費者は食料の缺乏により非常なる苦痛を嘗めるに至るのである。より善き生産を上げしめるには安心して耕作に從事せしめることである。一生涯土地の上に働く事の出來る樣になすことである。遺憾ながら小作地と自作地に於て收穫上の相異あるは這般の消息を物語るものである、下らぬ産業立國を稱ふる必要はない、耕作權を確立することは産業振興の第一である。其他主張すべき點は多々あるが匆々の際以上を以つて擱筆する。

農民の意氣を見よ

昔は農民を土百姓と呼び、水呑み百姓と呼んで之れを蔑視し農業を最も卑しむべき賤業であると蔑すんでゐたそして二口目には土百姓の分際で控へろ！と言ふ樣な恰も農民を人間外のものであるかの如き扱ひをなしてきた者である。斯くの如き賤視觀念の下に、永く虐げられ封建制度の桎梏に喘ひできた農民は、新しき社會現象に當面して、遂に起たざるを得なかつた。即ち、闘爭への第一階段として、農民組合へ加盟し、階級的闘爭を以て地主ブルジョアに叛逆の狼火を擧げつゝある。土百姓と罵られ、水呑百姓と蔑すまれた農民の、一度起つた闘力の、如何に偉大なるものかを、今や全國の農民は敢然と示揚しつゝある。農民の階級的團結による、組織的闘爭！それは檻より脱せし猛獸の如き、物凄い破壞力を以てゐる。地主と闘ふ農民の意氣を見よ！

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

政治行動への進出

――わが愛する深川勞働學校の兄弟姉妹へ――

本荘可宗

一

『政治行動への進展』といふ言葉を聞きます。これは一體どういふ意味をもつてゐるのでせうか。

總て、ものを考へるのにマルクス的な、唯物辯證法的な考へ方といふのは、すべてを一般的に永遠的に公式的に考へないで、いつもその場合に、その時々の、必要と事情とによつてその事態を分析し批判し解決し、これを指導して理論を作つてゆくことなのです。勿論たゞ當面の問題を分析し批判し解決してゆくだけでは、無方針な無主義な、理論の爲めの理論、たゞ抽象的な解釋だけに留まつてしまふので、如何にしても解決したり批判したりしてゆくのに、一つの明確な立場と方向といふものが必要であり、それをきめてかゝらねばならないのです。そうでないとその現存の問題や事態をブルジヨア的に解釋してゆくことも出來やうし、中間主義的に批判してゆくことも出來るからです。然らば吾々の批判の立場と方向とは何處にきめてかゝらねばならぬかと言ひますと、『無産階級的に』これを分析し批判し解決してゆくといふところにきめてゆかなければならないのです。

そして『無産階級的に』解決してゆくとは何ういふことであるか、と申しますと、たゞ無産階級の利益のみを目標とし、從つて舊來の一切の支配階級的利益をのみ目標とした政治、經濟、觀念形態（いろ／＼な思想）に抗爭して無産階級に奪取してゆくことにあるのです。マルクス的な考へ方といふのは決して永遠な普遍な、萬世變らぬといふ抽象的一般的な無内容な無紙な原理を作り出すことではありません。必ずその當時の當面の問題を拉し來つて、之れを現實的に具體的實際的に、無産階級のみの利益の爲めに解決してゆくことにあるのです。ですからマルクス的考へ方といふものは、實際に行動的に變革し、局面を打開してゆく實行的意志と結び付けてゐなければ意義をなさないものなのです。實行、實際にたゝかふ抗爭、巷に出て風塵にまみれなければマルクス的思惟を把持してゐるとは言へないのであります。滿身、創痍固より無産階級的思惟につきものなのです。それでなければ無産階級的に考へるのでも何でもありは

しない。

二

ところで、現在の社會の状態、當面の形勢は無産階級が發展してゆく途上として何ういふ状態にあるでせうか。これをむづかしい言葉でいへば『無産階級發展過程の現段階』といふのです。その『當面の問題』は何でありませうか。謂ふまでもなく、今までのやうに賃金値上げの要求や、時間短縮の要求、また、立入り禁止の撤廢や耕作權の確立といふやうなことを、勞働組合や、小作組合を個々に作つて、所謂經濟問題として經濟上の爭ひとしてたゝかつてるのでは、到底駄目なのであつて、――それは川の源を清めないで下に百年水の澄むのを待つやうなものであつて――到底徹底的解決は望まれないことが解つてきたので、[illegible]即ち政治行動へ向かなければならぬ時期になつて來たのです。所謂『政治行動への進出』であります。

偖て、政治行動といふのは、それならば之までの經濟上の抗爭、（賃金の値上げだとか時間短縮だとか馘首手當だとかさうした要求を主張する為めの抗爭）を勞働組合や小作組合でやつてゐた例の『組合主義』といふものゝ延長でありませうか。決してさうではない。組合主義の延長ではなくて、それとは性質の變つた新しい一つの方向へ向けて出發したのであります。所謂『方向轉換』といふのはそれであります。

方向轉換といふのは、正に性質の轉換なのであります。經濟運動が延長して、政治行動へいつたのではないといふことは、無産階級が新しい覺悟と自覺とを持つ為めに甚だ必要なことなのであります。最早資本家に、賃金だとか時間だとか手當だとか言つたところが仕様がない。假令、解決がついたところが政府が有産階級のものならば、矢張り無産階級は[illegible]、被壓迫、被搾取の状態から脱却することは出來ないのです。いつまでも同じ状態にゐて、たゞ目前の小競の紛擾をやつてゐるだけで、しかも之はいつまでも（孫子の代までも）同じことを繰かへしてゐるに過ぎなくなります。政治行動主義は、最早こんな、未だ無産階級が無自覺なときにやつてゐた運動を延長させ、引きのばして、状態を解決してゆかうといふのではありません。無産階級は既にこんな性質の運動から、變つた性質、變つた方向の運動へと……[illegible]進み出さなければならないのです。

三

現在のブルジョア政府は、さきに一部資本階級の政商を救ふ為めに二億圓を出して負擔を無産階級に背負はせました。その次ぎに臺銀問題で更に二億圓を負擔せやうとしましたが之れは樞密院でおぢやんになりましたところでおぢやんになつた結果に財界混亂となつて（一時にウマく糊塗策を講じて一時の安定を得ましたが）矢張りその不安の最後の、どんじりの苦惱をなめねばならぬのは無産階級なのであります。有力な銀行が破綻を示して財界擾亂すると金の價値は下がつて物價は騰貴する。さうすれば困るのは矢張り無産者であります。といつて之れを救ふ為めに何億圓といふ金を國庫が出せば、その莫大な負擔も亦、さらぬだに貧乏な無産階級の上にかゝつて來ます。救はざるも、みな無産階級が人柱に立つわけであ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ります。──……………………………彼等が國の爲の民のためといふ、その民（無産階級）の爲といふのは之れが有産階級の利益に役立たれる時にだけいふのであります。

現在の議會は實にかゝる有産階級の利益の爲めの政治と法律とを議する爲めに、有産階級の代辯者が出逢つて相談するところであります。御覧なさい。治安維持法といひ、暴力取締法といひ一切の無産階級の合法的運動を閉塞する法律はこゝで出來あがるのであります。彼れ等にとつては國家といふのは『有産者の國家』の事なのです。無産階級はたゞ彼れ等の下敷であつて、彼れ等の觀念の中には無産階級といふものは無いのであります。それは地面と同じくゐるいたり、踏むだり、車を走らせたりする底面に過ぎないのです。それは人間ではない、彼れ等の利益を作る爲めに動かされる器械なのであります。彼れ等の頭には實際（いろんな辯疏はしますが）財産の無い者は人間ではないのでありますが交渉する相手（人間）ではなくして、使用する相手（器具）なのであります。

かゝる政治の中にゐて諸君は、何を彼れ等に懸け合つてゐるのであるか。賃金や時間や手當が何であるか、それは末の末であつて、いまや無産階級は根本的に解放を意圖しなければならない時に面接してゐるのであります。……………目であります。いまの代議士や政府に何を期待し得るのであるか。無産階級は鋼鐵のやうな意志を以てこの最後の要求を貫徹しなければなりません。

無産階級はいまや、組合主義、經濟闘爭から飛躍して、政治行動に入るべきなのであります。

（五、一、メーデーの日）

進め！勇敢に進め!!

吾愛する無産階級闘爭雑誌中、最も信賴し得る大衆機關、それは『進め』だ。進め！進め！

『進め』が是れ迄大衆を教育した其の力は實に絶大であると私は信じてゐる。『進め』に向つて惡口を云つてゐる奴は『進め』を讀まず、『進め』に接せず、『進め』の味を知らぬ露西亜を盲目的に崇拜せる日本共産黨系の我利〳〵亡者か、ブルジョア學者か、御無理御尤もの盲從主義者位の者だ。

『進め』は吾々大衆に色々なことを教へて呉れた。其『進め』が五周年を迎へて新裝を凝らしてから第二回目の五月號を今、信州の山の中で手にした。相變らず無産階級運動の第一線で戰つてゐる戰闘雑誌だけあつて實に讀み應へがある。本誌面一氣に讀破した。勇敢だ！勇敢だ！『進め』は相變らず無産階級の糧だ！『進め』は何時迄も此の調子で進んで呉れ！

私は今回、進め社の同志諸君と共に信州の高原で『進め』の氣持ちを以て勞農青年同盟を組織し、既に去月其發會式を擧げ目下決死的宣傳に沒頭中だ。長野縣には日本共産黨系の者共も少しはゐるが、進め社の勢力の前には鎧袖一觸にも價しない。勞農青年同盟の旗の赴く所、敵影なきの慨がある。長野縣の青年は凡て進め社の勢力の下にある。勞農青年同盟の旗影は今や全信州を風靡せんとしてゐるのだ、進め！進め！飽迄も進め！勝利は我等にあるのだ。未來は青年のものだ！

──（長野縣　東陽一郎）──

カール・マルクス（3）

――その生涯と學說――

カハン・コーテス

九、ロンドンでの業績

ロンドンに於て、一八五二年に起つたところの共產同盟の解體の後、マルクスは先づ寄稿と科學的研究とに沒頭した。ロンドンでは全く哀れな一政治的亡命者の生活を送り、常に烈しき家族のパン問題に惱まされ、彼はどうしても多くの仕事をなすことが出なかつた。生活の糧を得んがために、彼は獨逸の政治狀態や、經濟問題などに關して、連續して論說を『紐育トリビユン』に寄稿した。此れ等の論說は、當時の大陸史の研究者にとつては、永久に價値あるものとして殘るであらうところのものであるが、後に至つて『革命と反革命』と云ふ表題の下に、單行本として印刷された。丁度この時分マルクスは又『ルイ、ボナパルトの霜月十八日』と云ふ本を著はし一八五一年十二月二日のクーデターを最も良く說明してゐる。彼は又、パルマーストン卿とロシア政府との關係に就て、有名なる一論說を書いた。マルクスは云ふ、

『ロシアに關するウルクアートの書物は、面白くはあるが、然し私を納得せしむるものではない。決定的な意見に到着せんがために私はヘンザートの議會演說と一八〇七年から一八五〇年までの外交文書を少々調べて見た。』

かくて墺太利から伊太利を解放せんとする戰爭に於て、フランス及プロシヤのなした僞善を暴露せる『フオーグト氏』と云ふ表題のパンフレツトと、もう一つ『パルマーストン卿の歷史と生涯』なる二册のパンフレツトはマルクスの最上の性格的、諷刺的文體で書かれて居り、且つ小册子ではあるが現代史の寳物である。

一〇、經濟學說

一八五九年には『經濟學批判』が出版された、これはマルクスの價値說に最初の說明を與へたものであつた。その緖言の中に、彼は、一度到達するや、彼の研究の指南車の役を務めた所の一般理論――即ち物質的生活に於ける生產方法の上に、社會的、政治的、及精神的の生活過程が依存すること――を述べてゐる。此の理論は實に彼の全著作に貫流してゐるところのものだ。元來この書は、經濟學に關する完全なる著述の第一編として計畫されたものであつたが、後この計畫は斷念され、『批判』の材料は『資本論』（八年後に出版

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

さる」の第一卷の内に要約されてゐる。そして他の二卷は、マルクスの死後、エンゲルスによつて編纂されたものである。

この小さなパンフレツトでもつて、マルクスの經濟學說の論究に入ることは、明かに不可能だ。唯、吾々は、マルクスの取扱つてゐる問題の底に横たはつてゐる所の根本觀念のホンの輪廓に觸れ得るのみである。此の問題はマルクスによつて、歷史の具體的觀念から取扱はれてゐる。全く彼の經濟學は、資本主義制度の經濟學構造に對する彼の一般的な哲學說及歷史學說の獨特な適用たるに過ぎない彼が勞働、價値、資本、財産、等を論ずる時には、彼は此れ等のものを單に抽象的に論ずることなく、實質的に論究した。と云ふのは此れ等のものは社會關係から離すれば何の意味も持つことなく、また持ち得ないからだ。彼れ以前のブルジョア經濟學者とは違つて彼は最初にして且つ唯一の自然の制度として在り來りの經濟制度を受け入れた。彼はそれを社會發達の一階段と見た。そして勞働と資本との關係、及生産樣式に於ける進步の必然的結果をば定義したのだつた。

資本主義經濟の下に於ては、それ以前の制度の下に於けるとは違つて、人間の富は、彼が所有するであらう所のものを彼自身にとつて滿足にし有用にする物からのみなつてゐるのではない。資本主義的生産の特徴は、品物は生産者の、又は雇主さへの、要求を滿足せしめんがために生産せられるのではなく、交換の唯一目的のために生産されるのであると云ふことである。生産せられたものは、製品だとか品物だとか云はれるが、經濟學上の用語では、商品と云はれるのである。而して資本主義社會の富が『莫大な商品の蓄積』であるからには、從つて吾々の研究も商品の分析から始めなければならない」のである。

十一、價値學說

故にマルクスは、商品の徹底的分析へと這入つて行く。そして使用價値——即ちそれを欲する所の人の消費又は使用のために、どうしても必要であるもの——から離れては、商品の特徴が資本主義下に於てはその商品の交換價値であることを發見するものである。品物はそれが交換價値を有する限りに於て、その使用價値を其れ自身主張する時、即ち消費者によつて如何なる方法又は程度に於ても、使用のために評價される時には、最早それは商品ではない。品物の使用價値は、その物を使用する人に應じてその物自體の内に附着してゐるのだ。然るに交換價値は、一定の經濟關係であり、本質的には社會的産物であり、而して一般の生産樣式の總ての特殊な屬性に依存してゐる。『小麥を味ふことによつては、その小麥がロシアの農奴によつて作られたものやら、フランスの百姓によつて作られたものやら、英國の資本家によつて作られたものやら、何の知る由もない。』どうして生産せられても、その使用價値は同じである。然し特定の社會に於ける其れの交換價値は、その社會に行き亘つてゐるところの生産形態に依存するであらう。

資本主義の富は、交換價値の集成されたものだ。故に資本主義を理解せんためには、交換價値の本質と商品の分配とを說明せねばならない。資本主義下に於ける特徴ある生産形態である所の工場生産品を何んでも良いから取つて見よ。それは雇主又は工場主に雇はれたる多くの勞働者によつて、工場に於て生産せられたものだ。次で其は問屋に送られ、そこから小賣商人の所へ行く。小賣商人はそれ

を消費者に賣る。生産と、消費者による品物の使用との間には、多かれ少かれ仲介者があつたであらうが、その物の生産と分配との間に參加した總ての人は、物それ自身を必要とし又は愛するためではなく、自分自身の利益を得んがために仲介したのだ。かうした各の仲介者の得た利益は、何處から出て來たのか？勿論、それに關係した總ての人は、全く正直であり、各々の人はその品物に對して正當なる市場價値を支拂つたと假定する。各の人は、消費者によつて支拂はれた購買價格からか、又はその品物の交換價値からしてか分け前を與へられるのだ。その品物の交換價値は、最初に、それに對して間接から製造者に支拂はれたる價値の中に表現される。價値は確に價格の元本である。然し必ずしも同じものではない。又兩者は店に於て常に一致するものである。品物は高く買はれたり安く買はれたりする。即ち、その價値より低かつたり、高かつたりする。と云ふのは、價値は生産の社會的條件によつて決定されるのに、價格は個人の賣人や、個人によつての、又は個人に對しての品物の價値の特定の評價、市場の状態、需要と供給、其他によりて決定さるるからだ。品物に對して支拂はれた平均價格は、常に反覆せられた品物の社會的價値によつて支拂はれてゐる所の品物の市場價格なのである。

總ての商品に共通なる是る社會的價値は何か？それは人間の勞働である。肉體的たると精神的たるとを問はず、人間の勞働がその中に貯藏されてゐる限りに於てのみ、品物は交換價値を持つのだ。そして其れは如何なる状態の下に於ても、單に勞働ではない。品物の價値を決定する所のものは、その品物の内に含まれてゐる所の社會的必要なる勞働である。即ち、一定の社會状態の下に於て、その品物の生産のために必要なる平均人間勞働の量である。だから何人かゞ勞働を多くしようとも又は少くしやうとも、それは社會的必要勞働によつてのみ決定される所の品物の交換價値を變更せしめない。尚ほ、若し現在の社會状態の下に於て使用のために分配され得るよりより多くの品物が生産されるならば、その品物の交換價値は低下する。生産用具が改善されても、舊い生産方法が未だ一般的に用ひられてゐた當時の變革の初期に於ては品物の價格は古い生産組織に社會的に必要なる人間勞働によつて計られるのである。而して新制度がより優勢になつて來た時には、價値はこの新制度に從つて計られるのである。

以上のことは總て如何なる商品にも適用される即ち特殊の商品たる勞働力にも適用されるそしてこの勞働力なるものは個人に屬しその個人から不可分離的のものであるにも拘らず資本主義的生産方法のもとに於ては總ての過去の生産方法に於ける其れとは異なつて如何なる他の商品とも同樣に賣買される資本家に買はれた時は他の總ての商品と同樣に勞働者の勞働力に對して支拂はれる所の價格はそれの再生産中に含まれてゐる所の社會的必要勞働によるのである即ち資本家は勞働者が所定の生活條件のもとに於て生活の維持及子孫の繁殖に必要なる賃金額を勞働者に支拂はねばならないだらう勿論これは生活標準や勞働者の需要供給や共通利益のための勞働者の團結の程度や其他によつて變化するだらう。しかし社會の一部のみが生産に從事してゐるにも拘らず、他の部分がその一部の勞働の生産によつて生活してゐる限りは、勞働者の持續のために支拂はれる賃金は、勞働者が生産する品物の價値以下であるだらう。これ資本主義的生産組織の本質である。勞働者がその賃金の價値を産み出すため

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に費す勞働の量に、『必要』勞働であつて、產み出された生產物は『必要』生產物であり、その生產物の價値は、必要價値である、そして勞働者がその賃金の價値を再生產するために必要である以上に費された勞働は、『剩餘』勞働であり、かくして生產されたる生產物は『剩餘』生產物であり、又その價値は『剩餘』價値である。そしてこの所に用ひた『必要』なる語は、一定の社會狀態の下に於て生活を可能ならしむるに必要であると云ふ意味である。

ここに他の一つ二つの注意すべきことがある。資本家は資本を增加することに依つて、また設備や機械を改良することに依つて、その利潤を增加する。（但し彼の利潤率でないことを注意せよ。再々くは今は利潤率の問題に這入り行くを得ない）。こうした利潤の增加は一寸見れば、機械が資本家の剩餘價値率を產んだかの如く見へる。しかし機械か資本家に儲らんがために造られた時には、他の總ての品物と同樣に、商品であり、またその中に含まれてゐる價値は、生產に要ぜられた社會的必要勞働に等しい。これは如何なる特殊の品物の生產に用ひらるゝ設備、原料及び材料にも同樣に適合する。織布に就て云ふならば、數年間に亘つて、原料や機械や、其他のものの有る價値は、最後の生產物である所の織布へと變つて行く。最後の織布に於ける棉花又は助材に、棉花その他のものの如くに、その價値を變化しない。機械その他の設備の如きものは、その少量宛を耗らして行く以外には、その價値は變化しない。そして此れは『消耗磨滅』と云はれてゐる。

そこで若し利潤が剩餘勞働に依つて產み出された所の剩餘價値の結果であるならば、何故優秀なる機械にはそれだけ利潤を增さないのか。それは機械は唯時間を節約するに過ぎないからだ。機械は勞働者に日々の勞働時間よりより短い時間に依つて勞働者の賃金等しい價値を再生產せしめ、そして剩餘價値の生產に用ひられるよりより長い時間を殘さしむるものだ。もしこれまでに勞働者が賃金を再生產するために十二時間の內、六時間を働かなければならなかつたとしたならば、改良された機械は、勞働者が賃金を再生產するに、例へば三時間で十分である。そして資本家には九時間の不拂勞働を與へるのだ。これが卽ち一切の產業制度の進化と共に搾取率が增加し、そして勞働者と資本家との間の階級反目がより激烈になつて來た所以である。搾取率の增加は、勞働日數の延長に依つても得られる。（しかしこれは勞働者の能率に影響を及ぼさない點に限定されてゐる。）搾取のためにより一層階に、直接の効果を得んとすれば、それは反撥へと導く。ここに於てか資本家階級と勞働者階級との間に勞働日數に就ての爭が起る。

また同樣な結果が、勞働者の生活標準の低下、又は生活費用の引下げによつて達成される。それは、一方に於ては、生活標準が男子のそれよりも一般的に低い婦人や少年の使用であり、（婦人及び少年は又それだけ男子よりも使ひ易いが、役にも立たない）、他方に於ては自由貿易の開始である。（英國が未だ他國との競爭の恐怖がなかつた時になした樣に）。かくして勞働者の生活費は引下げられる。彼等自ら明かにした樣に、生活費の引下げと云ふ主要的のために自由貿易を開始しやうと唱へた程に太い無感屋であつた所の產業資本家たる斯かる慈善家どもが、勞働日數を短縮せんがための、又は最も非人道的な條件の下に於ける婦人及び少年の使用を制限せんがための、凡ゆる計畫に對して、烈しく反對したことに、一度や二度ではなかつた。

そして、資本家の富が築き上げられたこと、及び築き上げられつゝあることは、剩餘價値を產み出す所の斯かる男子、婦人、及び少年の剩餘勞働―それに對して資本家は何物をも支拂はないのだ―に依るものである。甞ては奴隷又は農奴の所有者は、その動產奴隷の生產物を總て擅有し、そしてこの奴隷及び農奴の食物や衣服等に對しては、家畜のそれに對するが如くに考へてゐた。しかるに現在は、勞働者は表面上は自由だ。そして疑惑が不生產的な階級の富を圖隱してゐる。この疑惑は勞働者によつて生產された剩餘勞働者、若しくは剩餘價値の資本家に擅有せられたものであるに過ぎない。これは資本主義の下に於て行はれる所の他の階級による一階級の搾取の特殊なる形態である。又この上に、資本主義的生產方法の本質である所の一階級としての資本家と、一階級としての勞働者との間の避くべからざる關係が」一切の資本主義的法制、資本主義的財產法、資本主義的倫理、一言にして云へば、一切の資本主義的イデオロギーの上層建築をなしてゐるのだ。而して資本主義的生產方法が存在してゐる間は、如何なる實際的の改革がなされても、勞働者の搾取されることは繼續し、そして資本主義的道德は一般社會の道德であるだらう。唯『搾取者の撲滅』と、利潤のための生產に代ふるに、使用のための生產をなすことによつてのみ、國民の大多數たる勞働者は搾取より免れて眞に肉體的にも精神的にも自由なる人間となるだらう（次號完結）。

農村の根本的改革

何處の村へ行つても水田耕地は普通平均一戸當り三千歩内外である。此三千歩の小作者の利益收入は何の位であるかと云ふに農村の人でなくては都會人の到底知る及ばざる處である。米は普通平均百歩に一石取れる。故に三千歩の耕作者は三十石の米を取る事が出來る。此三十石より約半分の十五石を年貢米として地主へ納めなければならない。大人三人子供二人合計五人の家庭とすれば一日平均三升の飯米が入る。故に年に十石九斗五升の飯米が入る。年貢米、飯米合計二十五石九斗五升を全收穫高より差引、殘高四石五升を一石三十五圓にて賣却すれば四石五升の代金百四十一圓七十五錢を得る事が出來る。肥料は百歩に對し自給肥料の外に七圓の金肥を施用しなければならぬ。故に三千歩の金肥代二百十圓を拂はなければならない。差引結局六十八圓二十五錢の損失となる。此莫大な損失と諸税金及子供の教育費、農具の修繕料、着衣等其他一家としての總ての費用は僅か、三ケ月間の冬期農閑期を利用し、藁工品製作に依つて補ひ、一家を支持して行くと云ふ實に慘憺たる生活狀態であるのである。

全國の勞働者農民諸君何時迄も此儘にして現在の農村の根本的改善之を實現せなかつたならば農村の平和は永遠に齎されないのである。

全國の勞働者農民諸君堂々と戰つて最後の勝利を得よ而して明るい幸福の農村を造り上げよ。【石川縣　北野秋鳥】

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

獨逸の勞働運動（續）

淺野研眞

五、エルフルト大會

一八九一年十月十四日から廿日にわたつて、エルフルトに於て大會が催された。これ所謂エルフルト大會であつて、この大會に於て有名な『エルフルト綱領』が發表された。

この大會では、カウツキイ一派の正統派マルキシストの勢力が有勢であつた。そして綱領も、以前のゴータ綱領を、眞正のマルクス主義に還元せんと努力したものであつた。煩を厭はず、例によつてこの歷史的な綱領の全文を茲に引用して置かう。

エルフルト綱領（一八九一年）

ブルジョア社會の經濟的進化は、必然に、勞働者のその生産手段の私有を基礎とする小規模經營の零落を惹起する。夫は勞働者をその生産手段から引き離し、生産手段に、比較的少數の資本家及び大地主の獨占する所となつて、勞働者を變じて無産のプロレタリヤと化し終る。

かゝる生産手段の獨占化と相並んで、分散せる少規模經營は、巨大なる大規模經營に逐退され、道具は進歩して機械となり、人間勞働力の生産力は驚くべき増大を遂げる。夫は無産階級及び沈淪しつゝある中産階級——小ブルジョア、農民——にとつて彼等の存在の不安、窮乏、逼迫、隷屬、卑屈、搾取、の益々増進することを意味してゐる。

無産階級の數は益々増加し、過剰なる勞働者軍は益々膨脹し、搾取者との對立は彌々險さを加へ、近代社會を二個の仇敵の陣營に分割して居り、總ての工業國に共通な特徴である所の紳商閥と無産階級の階級鬪爭は益々激烈となる。

有産者と無産者とを分つ所の深淵は、資本主義的生産方法の本質に根ざしてゐる所の恐慌のために更に擴大される。そしてその恐慌は益々廣汎に益々劫掠的となり、社會の一般的不安を普通狀態に復して、現今の社會の生産力が最早や從來通りでは行けないこと、生産手段の私有が夫の合目的使用と完全なる發達とに相應しなくなつたことの證據を與へる。

從來は、生産者に對して生産物の所有を保證する手段であつた生産手段の私有が、今日では、農民、手工業者及び小賣商人の産を奪ひ、自ら勞せざる者資本家、大地主をして、勞働者の生産物を所有せしむる手段となり終つた。生産手段——土地、鑛山、原料、道具、機械、交通手段——の資本主義的私有を社會有へ變革し、商品生産を社會主義的なる社會のために、そして社會によつて營まれる生産へ變化して初めて、大規模經營及び社會的勞働の不斷に増大する多産性が從來搾取されて來た階級にとつて窮乏と抑壓の源泉から最高度の厚生及び全面的にして調和的なる完成の源泉となる事が成就し得られる。

かくの如き社會的變革は、啻に無産階級に限らず、現在の狀態に惱みつゝある全人類の解放を意味する。しかし夫は偏へに勞働階級によつて成就せられる外はない。けだし、爾餘の階級は相互

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

間に於ける利害の衝突はあつても、生產手段の私有の土臺の上に立ち、現存社會の基礎の維持を以て共同目標とするからだ。

勞働階級の資本家的搾取に對する鬪爭は、必然に政治的鬪爭である。勞働階級は政治的權利なくては、經濟的鬪爭を鬪ひ、その經濟的組織を發達せしむることが出來る。

勞働階級の此の鬪爭を自覺的統一的爭鬪に形成し、此の鬪爭に自然必然的目標を指示することこそ社會民主黨の任務である。

勞働階級の利害關係は、資本主義的生產方法の存する總ての國々に於て同一である。世界交通が擴大し、世界市場のための生產が増加するに從ひ、各國の勞働者の狀態は、益々他國の勞働者の狀態に依存し來る。從つて勞働階級の解放なるものは、全世界の文明國の勞働者に割り當てられてゐる事業である。獨逸社會民主黨はかくの如き認識に於て、先導し、他の諸國の階級意識に目覺めた勞働者との一致協力を宣言する。

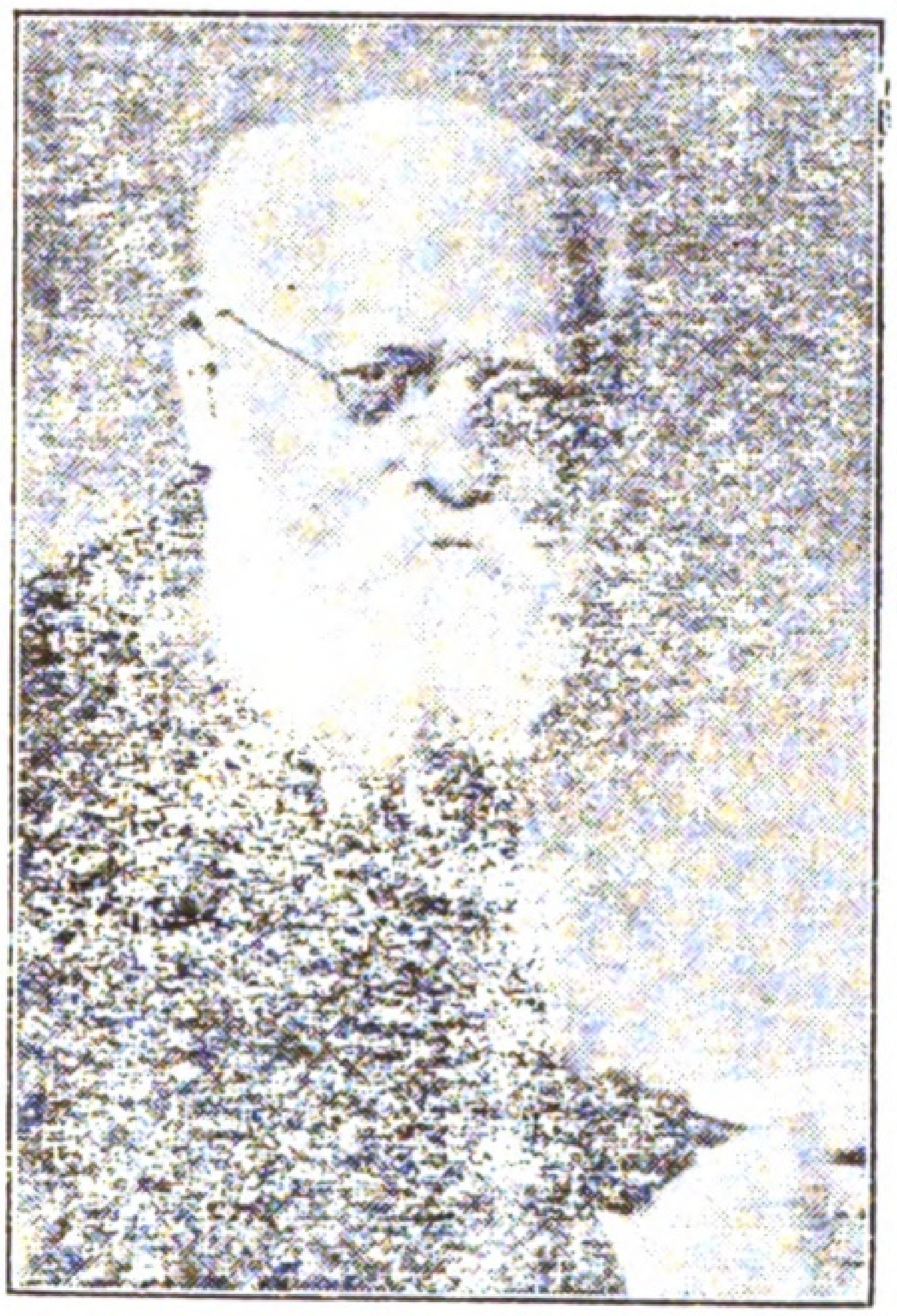
故に獨逸社會民主黨は、新たなる特權階級や優先權のために戰ふものでなく、階級支配と階級そのものの撤廢のために、そして男女の差別なく、萬人の平等なる權利と、平等なる義務とのために戰ふものである。本黨は之等の見解から出發して、現在の社會で、啻に賃傭勞働者の搾取と抑壓とを打破する許りでなく、凡ゆる種類の搾取と抑壓とを打破し、一階級、一政黨、特別、又は民族別を敵視する。

この原則に基き、獨逸社會民主黨は、差し當り次の如く要求する。

一、凡ての選擧に關し、男女の區別なく、丁年以上の者には、普通平等の投票によつて、國內諸般の事物を議決するの權を與ふること。比較代表の制を定め、尚ほ此の制度の實施なき間は、一樣の人口を有する選擧區を法律によつて規定すること。立法議員の期を二ヶ年に限ること。選擧日は休日たること。議員に給料を給すること。禁治產者以外、政治上の權利に對する總ての制限を撤廢すること。

二、立案權及不認可權を以て人民による立法。帝國、聯邦、縣、及び市町村に於ける人民の自治行政。法史の民選と官吏に刑事上の責任を負はしむること。租税の年次協贊。

三、軍事教育の普及。常備軍を國民軍に代へること。人民の代表によつて宣戰及び媾和を決定すること。國際爭議を仲裁々判に任ずること。



カウツキー

四、言論の自由、及び集會結爭の權利を制限又は抑壓する總ての法律の廢止、

五、公事たると私事たるとに論せず、男子に對して女子が不利益な地位に立つ凡ての法律の廢止

六、宗教を私事として聲明すること。宗教上及び寺院上の目的のために公費を支出すべからざる事。寺院及び宗教團體は、獨立に各自の事務を處辨する所の私的結社と認む。

七、學校の非宗教化。公立人民學校に入學を強制すること。教育を自由とし、學用品を給與し、小學校學費を支給し、且つ學業上の見込あるものには男女を問はず、進んで高等教育を受くるに足る學資を給與すること。

八、裁判及び辯護の無償。民選裁判官による裁判。刑事々件の告訴。罪科を有せざる者に對する不當告發、拘束に對する賠償。死刑の廢止。

九、助產及び醫藥を含めての無料醫療。無料埋葬。

十、公の經費が租税によりて支辨せらるゝ限り、之が用途に供せらるゝための所得税及び財產税の累進課税。所得及び財產の申告の義務。相續財產の大さ及び血統の等親を標準とする累進的の相續税。特惠を受けたる小數者の利益のために一般の利益を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

犧牲にするところの間接税、關稅、及びその他の經濟政策上の施設の廢止。

勞働階級の保護のために、獨逸社會民主黨は、次の如く要求する。

一、次の方法によつて、勞働者に對し、有效なる國內的及び國際的保護立法をなす。

(イ)一日八時間を超えざる標準勞働日の決定。

(ロ)十四才以下の幼年勞働の禁止。

(ハ)夜間勞働の禁止。但し事業の性質上又は學理的理由に依り又は公共的利益のために經營さるゝものは例外とする。

(ニ)各勞働者に對し、一週少くとも三十六時間の休憩時間を與へること。

(ホ)現品賃金制の廢止

二、帝國勞働省、地方勞働局、及び勞働會議所による都市及び地方に於ける勞働狀態の調査及び規定。

三、農業勞働者及び下男を、工場勞働者と同一の權利に置くこと、農業下男制度の廢止。

四、團結權の確立。

五、全勞働者保險の國家による設立と、その管理に對する勞働者の協同

以上、エルフルト綱領の全文である。尙ほ此の綱領の精神に就ては、カウツキーの著書『エルフルト綱領解說』を見るべきである。

六、大戰直前の狀態

ドイツ社會民主黨は、一九一四年には、一、〇八五、九〇二名の黨員を有してゐた。この中、一七四、七五四名は、婦人黨員であつた。そして中央事務所の收入は、約百万圓と計上された。また九十一種の新聞及び雜誌は、總發行部數二百二十万に及び、皆公然と機關紙として運用されてゐた。且つ其の組織は、每年一回の會議と、執行委員會と、及び常務委員とから成立してゐた。

これ歐洲大戰の開始直前のドイツ社會民主黨の一般的狀勢であつた。即ち其れは如何にも力に滿ちた組織を持つて居たのであつた。然し一面に於て、その內部的の無氣力を漸く暴露しつゝあつた。

ベルンシユタイン

即ち十九世紀末から二十世紀の初頭にかけて、ドイツの經濟的好況につれて、勞働貴族を生じ、從つて改良主義的傾向を生じた。かくしてベルンシユタイン(一八五〇年生れ)一派の修正派が發生し發展しつゝあつたのである。然し當時に於ける修正派は、カウツキイ派の正統派によつて克服された觀があつたが、一度び大戰の勃發するに及んでは、正統派を以て任じたカウツキイ自身が、その率ひた第二インタナショナルの指導者たちと共に『裏切者』の刻印を印せられてしまつた。

かくて敗滅した第二インタナショナルを乘越えて、モスクワを中心とする、第三インタナショナルが結成され、マルクス主義の眞精神の發揮と、その新發展を見せた。

かくて漸次、運動の中心はドイツよりロシアに移つた觀があつたのである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第四節　歐洲大戰以後

一、戰敗より革命へ

世界資本主義の發展は、遂に歐洲大戰を惹き起した。ドイツの極端なる帝國主義的政策が、少くとも重要なるその動機をなすものであつたことは確である。

一九一四年乃至一九一八年に亘る足掛五ケ年の大戰は資本主義國たるドイツと、英佛及ロシアの資本主義との一大衝突でしかなかつたの

歐洲大戰に於けるドイツの戰敗は、その責任者たる政府、從つてカイゼルに對して、一般民衆、特にプロレタリアの怨恨をして、その絶頂に達せしめた。そして一九一八年の春頃からして、革命の氣運は全ドイツにみなぎつた。同年十一月一日、キール軍港における水兵の叛亂は遂に革命の火蓋を切り、數日にして全ドイツは革命の渦中に投ぜられた。かくてホーヘンツオレルンの天下も、哀れむべき終末を告じた。カイゼル・ウイルヘルム二世は逃亡した。そして帝國は亡びて共和國となり、社會民主黨は代つて天下を取つた。（一九一八年十一月九日）かくて勞働者出身の多數社會黨首領エーベルトが初代の大統領となつた。

リーンブクネヒト

しかし大戰の勃發當時に當つて輕蔑すべき變節振りを示した所の多數社會黨に對して、獨立社會黨及其中の極左黨たるスパルタクス團（ドイツ共産黨）は、之と事を共にするを潔しとしなかつた。殊に多數社會黨は、獨立社會黨とて聯立内閣を提唱して先づ獨立社會黨のレーデブーア（Ledebour）に一蹴せられ、更にリープクネヒトは決然として内閣を去るや、シアイデマン、ノスケ等の幹部は益々右傾してブルジョアに接觸するに至り、こゝに兩者は全く敵對の關係となつた。『獨立社會黨』（Vnabhangige Sogiardemokratische parti Deutschlmps —— U・S・p・D）は新憲法を制定する前に、先づドイツの全權を勞兵軍の手に移すべきを宣し、之に反してブルジョアに接近した多數社會黨は、かくする時は全ドイツを赤化して、自黨の地位を危からしめんことを恐れ、ブルジョアと妥協して先づ憲法を制定すべき國民會議を開くべきことを力說した。かくて一九一九年一月六日、國民會議をワイマールの國立劇場に開き、エーベルト大統領を主として、所謂ワイマール憲法を議定した。

二、革命以後

歐洲大戰の結果は、隣邦ロシアの革命につれて、ドイツにも革命を遂行せしめた。

大戰五ケ年の間は、一時的表面的には、國内のブルジョアとプロレタリアとは、所謂祖國愛の下に握手し、インタナショナルを裏切つた感があつた。然し、其れは文字通り一時的の現象であつたに過

ぎずして、やがて大戰の破綻の見舞ひ來る所となり、遂にドイツ革命は成就したことは前述の如くであつた。

然し茲に特筆して置かねばならぬことがある。それはスパルタクス團の運動である。

大戰以前から、カール・リープクネヒト（一八七一――一九一九年）は、ローザ・ルクセンブルグ（一八六五――一九一九年）や、フランツ・メーリング（昨年の本誌上の評傳參照）等と共に、引續いて常に非戰運動を行つて來た。そして反軍國主義の下に、プロレタリアの國際的平和主義の團體を作つたその會員と影響とは、次第に增大して行つた。後に至り、此の團體から新しい團體が分離して、獨立黨を作つた。この獨立黨が次いで二分して穩和的平和黨とスパルタクス團（ドイツ共產黨）とになつた。このスパルタクス團とは、リープクネヒトの雅號スパルタクス（Spartacus）から取つたものであつた。即ちこの古代ローマの奴隷解放一揆の指導者であつたスパルタクスの名は、リープクネヒトによつて、論說などを書く時に號として使用されてゐたものであつた。此の最も急進的なスパルタクス團は、當時漸くロシアに擡頭したボルシエビイキの政見を採つて、ドイツにサヴエート制度を建設せんと努力した。然しその計畫は結局失敗に歸した。そしてリープクネヒトと、ルクセンブルグの兩指導者は、一九一九年一月十六日に、何者の手にか暗殺された。そしてその後は穩和派の社會民主黨がドイツ政府を維持した。かくて多數社會黨の領袖フリードリツヒ・エーベルト（Friedlich ebelt（871――1925）は、同一九一九年二月十一日、正式にドイツ初代の大統領となつた。同じく多數社會黨のシヤイデマンが內閣を組織した。

ルクセンブルグ

以後、ドイツ共和國の政權は、主として右翼の多數社會黨の手にある。この多數社會黨は、昔ながらのドイツ社會民主黨の名を持つてゐる。しかし其の內容は大變に異つてゐる。

ドイツの戰後のプロレタリア政黨は、最左翼にドイツ共產黨があり、中央に獨立社會黨があり、最右翼に多數社會黨がある。

この多數社會黨は、急進ブルジヨアと殆ど區別なきものとなつた。かくてマルクス主義に還元されたと云ふ『エルフルト綱領』の精神は、今や全く喪はれてしまつた。また多數社會黨の修正主義的精神から見れば、三十年以前のエルフルト綱領は、全く無意義のものとなつたのである。かくて新しき綱領は作製されることになつた。即ち一九二一年九月二十三日、ゲルリツツ大會に於て、新綱領を作製可決した。この新綱領は、カウツキイから再びベルンシユタインへの退却を完成したものである。（大原社會問題パンフレツト第二冊參照のこと。）けだし、隣國ロシアでは、カウツキー主義を飛び越えてレニン主義へ（以下四十一頁上段へ續く）

北伐軍出帥以來數ケ月ならずして全土の半を蔽ふ。其の軍事の神敏、民衆の推戴する所となり既に、中外の驚嘆する所。吾人軍中に在つて意氣益々壯。筆を投じて銃劔を把る。疎音茲に二ケ月、漸く此の書を故國の同志に捧ず。

抑余は、日本に在りし日、怯にして一命以て革命に捧ぐるの志薄かりき。今や、兵馬の間に身を投じて硝煙彈雨の中、一路××に向つて進み又身命の惜きを知らず。此の境地に到らば亦、斯くの如からん。

今、吾國民革命軍に從つて同志の死生觀を察するに彼等は皆、一死××に捧じ以て光榮となすが如し。革命軍の赴く處、勝たざるなく、取らざる無し。是れ即ち革命軍の武器精鋭に非ずして、志有るが故なり、吾等は知る。思想ある者は最も强しと。吾れ日本の匹夫、××を志して北伐軍に從ふ。志奪ふべからず、安國軍の將帥を奪ふに足る。

故國の同志兄弟よ！身を馬上劍戟の間に曝せ！屍を白骨の下に埋よ！死して建設の鬼とならざるべからず。

吾れ、茲に北伐軍の組織と資力の一端を示し、以て故國同志の參考に與へん。

支那國民政府概觀

清崎俊英

一、國民政府の組織

國民政府は武漢を攻略し、江西浙江を收め軍政上の便利を以て南昌に置き、今南京に移る。其の組織を委員制となす。

主席一人。開會の時に主席となる。

常務委員五人を置く。日常の政務を執る。

軍事、財政、外交、交通各部皆一人の長を置く。

監察院　政府に所屬する各級官吏の行動を監察し、國庫の收入を稽査する機關なり。委員五人を以て組織す。

懲吏院　監察院の起訴に依つて懲罰するの機關なり。委員五人なり。

大理院　最高司法機關なり。院長及び副院長各一人を設く。

省政府　は全省政務を處理する機關なり、民政、軍事、教育、建設、實業、農工、土地各廳に分つ。各廳廳長一人を置く、皆合議制を執る。即ち、省務會議は一省の最高機關となり、內一人は省務會議の主席となす。

省政府の下に屬する者は市政府となし、公安、財政、衛生、工務、教育、土地の各局に分つ。局長一人を設け、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

各局の局長を市政會議員となす。内一人は市政會議の主席となる。

以上各機關は國民黨の指揮監督の下に置かる。故に各機關の官吏悉く、國民黨員を以て之れに任ず。政治、法律、社會、皆、國民黨の三民主義に依つて支配さる。

現在國民政府の主要職員

主席	譚延闓
軍事部長	蔣介石
外交部長	陳友仁
財政部長	宋子文（兼中央銀行總理）
大理院長	徐謙
交通部長	孫科

二、國民政府の政策綱領

對外政策

××××××。××××××××、

一、世界の革命民衆と聯合す。

二、世界の被壓迫民族と聯合す。

三、帝國主義國家内の被壓迫民族と聯合す。

對内政策

軍閥、官僚、土豪、資本家を倒滅す。其の實行の爲め、

一、人民の軍隊を組織す。

二、廉潔の政府を組織す。

三、國内新興の工業を保護するを提唱す。

四、農工團體を保障し並びに其の貧民を扶助す。

三、國民政府の主要人物

蔣介石　中正と號す。日本士官學校に入り卒業せずして孫文の下に赴き革命運動に從ふ事三十年、第一次北伐軍に參謀秘書となり、民國十一年、陳烱明叛き彼れ等之れを討つ。十二年春、孫文の命を奉じて露國に行き、その組織を視察して翌年歸る。暫にして黄浦要塞司令官に任命され、黄浦軍官學校長となり、今日國民革命の精鋭は、皆、黄浦軍官學校出なり。彼れ北伐の功ならんとし衆望を集め露西亞派の嫌惡する所となりしも、能く信望を保てるは、彼れの人格の賜なり。露西亞派彼れを評して反動的なりと罵るは、理由たき漫罵にして、却つて露西亞共產黨の惡辣なるを證明するものなり。彼れは支那革命をして、露西亞以上に出でんと欲し之れに努力せるものなり。年齢四十一にして性堅忍、友誼に厚し。

陳友仁　は英領に生れ英文に巧なり。英字新聞の主筆となり、嘗て、排日運動の急先鋒たりし事もあり。又、廖玉祥の補助を得て日刊民報を主宰せし事もあり、其後、孫文、英文秘書となり、暫にして外交部次長となり、胡漢民露西亞に行く。依つて外交部長に任ぜらる。今年五十歳。

四、國民革命軍實力の概要

北伐軍出動して民國十五年六月下旬（大正十五年）時に兵力僅に七軍、二十師團、兵數約七萬、其後湖南、湖北、江西、福建等に各地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の軍を加へ、組織を變更し、醱收し、北伐先頭に從ふ者十五軍、次にこれを列す。

第一軍々長 何應欽 師長 薛岳 師長 劉峙
師長 譚曙卿 師長 馮軼裴 師長 嚴爾介
師長 陳繼承
第二軍々長 魯滌平 軍長兼師長 魯滌平 師長 張輝瓚
師長 譚道源 師長 戴岳
第三軍々長 朱培德 師長 王均 師長 朱世貴
師長 韋杵 師長 李明楊
第四軍々長 李濟深 師長 張發奎 師長 陳濟棠
師長 徐景棠 獨立團 葉挺
第五軍々長 李福林 師長 陳炳章 師長 洪大鈞
第六軍々長 程潛 師長 鄧彥華 師長 鄧余任
師長 楊源源
第七軍々長 李宗仁 師長 夏威 師長 李明瑞
旅長 陶均 旅長 呂煥炎 旅長 伍廷颺
旅長 胡宗鐸 旅長 胡炎 旅長 羅祖培
第八軍々長 唐生智 師長 葉琪 師長 何鍵
師長 李品仙 師長 劉興 教導師師長 周瀾
警備一旅 鄒家棟 警備二旅 王者師 警備三旅 陳章
外步兵團長 六函
第九軍々長 彭漢章 師長 賀龍 師長 楊昌
師長 毛鴻翔
第十軍々長 王天培 師長 王天錫 師長 楊勝治
師長 王天生
第一一軍々長 待査
第一二軍々長 待査
第一三軍々長 樊鍾秀 師長 兵力約萬餘
第一四軍々長 賴世璜 師長 吳中英 師長 謝傑
師長 熊式輝
第一五軍々長 劉佐龍 師長 夏斗寅 師長
總司令直轄部 獨立第一師長 王柏齡 獨立第二師長 賀耀祖
西北國民軍 總司令 馮玉祥 總指揮 于右任 參謀長 劉驥
第一軍 張之江 第二軍 鹿鍾麟 第三軍 宋哲元
第四軍 劉郁芬 第五軍 蔣鴻遇 第六軍 李雲龍
第七軍 弓富魁 第八軍 劉鐵珊 第九軍 方振武
第十軍 衛定一

我等の權利

諸君！我等は小供の時、彼の學校の先生達は社會とは共同生活をなすべき團體で有ると教へた。と云つて居た。私は此れを信じ且又斯くある可き事と期待して居た。然るに實社會に直面した時、私のこの期待は美事に裏切られた。

強者は弱者を苦しめて得意然として居る、即ちブルジョアーは勞農無産大衆の肉を食ひ骨をシャブリ得意滿面たる者である。然して世間では斯くの如き人々を手腕家と云ふ。

うても共同生活をなす可き團體であらうか。

諸君今や勞農無産大衆は凡ての權利を奪はれて居る。否其生存權すら彼等ブルに掠奪されて居るではないか。

既にブルジョアのプロレタリアに對する××××である。宗教、教育、其他凡てブルジョアの御用機關たらざるはなし。

ブルジョアの忠實なる×××××事は多言を要しない處である。

諸君！我々も人間である。生きて居るのである。今後も又生きたい。從つて、我々は我々自身の生命を確保しなければならぬ。其は如何にすべきか。先づ團結の力である。我々個々の力は弱い者である。併し一度團結した時其處には絶對的な勢力を得る事が出來るのである。團結！團結こそ我々の持つ最大にして最強の力である。諸君起て團結せよ！（香川縣 溝川國雄）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

二種の鬪爭精神

皆川利吉

現時組合運動の全般的進出と共に資本主義社會に對する總攻撃への二種の闘爭精神が組合運動それ自らの陣營内部に於て、互に論難しつゝ慌しい陣列の展開と變形とを捲き起しつゝ一般勞働階級の結成、それを貫ぬく戰闘精神をおびたゞしく減殺せられつゝあることを吾々は見た。

元來資本主義の經濟制度の下にあつて、その底を流れてゆく暴力的掠奪の精神は、その凡ての作業場に於いて顯著に表現されて居る資本家はその各々の持場、作業場に於て種々樣々な條件に依つて或は酷烈なる規律に依つて勞働者の絶對の服從を强要する。

かくして勞働者の人間性は甚だしく破壞され漸次人々を機械化させてゆく、そこには驚くべき惑惱、限りなき運命を荷負ふて勞働者は遂に飢餓と窮亡のどん底へと落ち込むでゆく。

さればこそかくの如き不合理極まる獨斷的な社會制度へ對して目覺めたる勞働者階級の戰鬪的精神は最も深刻なる階級的對立意識と共に、勞働組合の戰闘的組織を通して資本家階級及びそれを一貫する一切の權力と對立抗爭する。

こゝにまた資本主義それ自身の發展前途はすでに見極めが就いた資本家階級を構成する一系の官僚的機關は、次第に勞働者階級から崩壞された、そしていまや新興的勢力を結成しつゝ資本家階級に對立しやがてその一部分に對して肉薄し殺到する。然るに勞働階級のかくの如き陣列に對してときの聲を揚げてなだれ込むだ者がある。それは虎視耽々たる指導者の一群であつた。これらの指導者群は曾つてはブルヂョアー階級の出世の登龍門を訪ふて豪華を夢み、やがてそれから失望した一群であつたかも知れない。がけれども今は解放運動の最前線に起つて理論鬪爭の旗色を鮮明にして勇敢に資本主義の掠奪精神へ抗爭する。勞働階級の有力なる前衛たることを自ら任じて。

そしてこれ等の指導者群は、資本主義はすでに沒落の過程をたどると豫想して激しき理論の合唱をする。そして彼等は言ふ。勞働階級の獨裁、勞働階級の政權奪取、中央政府の再確立等々を主張し標榜する。かくて果せる哉、こゝに職業的指導者群は出現したのだ。

そしてこれ等の指導者群は、資本主義社會の次ぎに來るべき新社會の陣列を豫想して、しきりに自己のふみ臺を築き上げ樣と苦心する。曾て資本主義の社會に於て人々の憎惡に依つて振り捨てられた陰險惡辣なる權謀術數は早くも無産階級運動の上に再生した。

勞働階級は資本階級の掠奪の精神に對して抗爭した。いまは更に來るべき掠奪の精神の所有者をも驅逐しなければならない。

見よ、この國に於ける勞働階級の運動はいまや各戰列に於いて樣々な混亂の渦を捲き起して居る勞働者階級は吾々の運動精神を純實に吾々のものとして、あらゆる掠奪の精神から分離し、純眞なる勞働階級の戰線を强力に支持しなければならぬ、そして勞働者の解放運動は勞働者自らに依つて完成されなければならぬ。

植民政策裏面研究（七）

――弱少民族は斯くして滅ぶ――

金熙明

帝國主義並に社會主義と植民政策

一、帝國主義と植民政策

植民地は帝國主義の發生的成立の前提的條件である。帝國主義は植民地を資本主義並に軍國主義に利用し、資本主義の搾取と、軍國主義の侵略は帝國主義をその上に立てた。植民地は帝國主義の土臺となり母胎となる。近世植民國としての最高位を占めてゐるイギリス帝國について見よ！　フランスについてみよ！　極東日本についてみよ！　歷史を遡つて古代のローマについてみても、帝國主義の確立條件は凡て植民地を原因として立ち、國權縱義の狀態が植民地略奪如何に依つて決定された。その意味に於て、總て過去に於ける一切の歷史は――國家興亡の歷史は　植民地に依つて　理由づけられ、條件づけられたと云つても誣言ではなからう。

封建制度に於ける過去の國家權力は資本主義を帝國主義のために利用した。之は狹義の舊帝國主義と謂はれるであらう。しかしながら新帝國主義は資本主義が軍國主義を利用して、帝國主義の根本條件を理由づける。その意味に於て新帝國主義は國際上の資本主義であり、國際上の資本主義は、民族主義的國際經濟主義とみることが可能であらう。しからば植民政策は民族主義的國際經濟發展のため、即ちツオツフルの謂へる如く『海外に於ける國家權力の普及のためにする改革』である。植民地に於ける經濟上の搾取は、同時に國際經濟侵略の第一歩的段階であり、植民地の獲得は即ち政治上の國際的侵略と謂へるであらう。

かくして帝國主義は、植民地に依りて民族主義的國際經濟の搾取を戰ひとり、それによりて帝國主義の根を張る。

しからば植民地とは何ぞや！帝國主義確保のためによる侵略行動であり、强者の弱者を迫害、搾取しつゝある狀態である。

帝國主義は植民地の撲滅に依り崩壞せられた、植民地け帝國主義の排擊に依つて始めて完全なる生產の發展並に人間としての文化、自由を享受することが出來るであらう。

二、社會主義と植民地

植民地が帝國主義資本主義の桎梏に繫がれてゐる資本主義時代の社會的現象とせば、社會主義に於て植民地は如何なる地位を占めるであらうか。社會主義は私有財產制度××××、剩餘價値の搾取を否定し、徹底的に之を排擊して資本主義社會×××××するもの

である。しからば資本主義帝國主義の最大搾取對象である植民地に如何なる理由を以てしても、且つ先に之を解放し、經濟上の獨立を計ると共に政治上に於ても、デモクラシーを與ふべきは言を俟たない。

マルクスは一八六九年『英國よりアイルランドを獨立せしめよ』と絶叫し『假へそれが獨立後に、社會主義國家ではなく聯邦制に歸着しやうとも』と英國勞働者に警告を與へた。而して第一流國に於てプロレタリアに階級鬪爭を行はしめるを念とし、國際主義の根本原則として他の國民に壓迫を加へる國民は自ら自由に浴することが出來ぬと主張した。それでドイツ勞働者の革命運動の利益の點から、マルクスは一八四八年に、ドイツのデモクラシーは同國の壓迫の下に在る國民の自由を宣言し、且つこれを實行すべしと要求した。

レーニンはその論文『社會主義と民族問題』中に『民族自決並に國家分立の自由權のため植民地民族と協同するはプロレタリアの最大任務である』と述べ、政治的・經濟的デモクラシーの徹底化が即ち社會主義の理想であることを高調し、帝國主義に隷屬せられた植民地の奴隷的階級とプルジョア國家に於けるプロレタリア階級の共通的關係の密接を說き・プロレタリアの友誼と、その眞精神よりして植民地の解放を叫ぶを、プルジョア國家に於けるプロレタリアの最大任務としてゐる。即ち植民地民族をその[illegible]せざる限り、プロレタリア階級の完全なる勝利、自由は到來しないからである。

カール・カウツキーは、その著『社會主義と植民政策』Sozialismus And Kolonialpolitik(細川嘉六氏抄譯參照)に於て『あらゆる階級中の最下層たる無產階級は、あらゆる支配を全滅せざる限りあらゆる階級支配を廢止せざる限り、己を壓抑するあらゆる支配を又掃蕩することはできない。

もしこの倫理が植民地に適用すべきでないとせば、資本主義の倫理を採用すべきであるか。自國內に於てのみ階級支配の廢止を宣言し、同時に歐洲文明以外の諸國において、新しき階級支配即ち有色人種(インドを含む)に對する白色人種のそれを宣言すべきであるか。しかしこの倫理に反抗してこそ、階級的に自覺せる無產階級の倫理的感情は最も強力に樹立するのだ。即ち無產階級の階級鬪爭の倫理的努力は、自己のためのみならず全人類のために戰ふの確信を無產階級より奪ふとき、最も敏感に弱くなるものだ』と。之は自覺ある無產階級の倫理的認識でなければならない。プルジョア國家のプロレタリア階級が、自國內における自階級のみの階級鬪爭の勝利を期し、植民地解放問題を等閑にするが如きは、倫理觀念を離れて、階級鬪爭の眞精神からしても之は理論の絕對的矛盾であらねばならぬ。即ち『資本家階級にとつては、植民政策は軍國主義と共に必然である。されはといつて植民政策は無產階級にとつても亦必然なりと推斷することは論理の誤りである。これを必然とする以上何故に軍國主義も亦必然でないか。植民政策が無產階級にとつて必然ならざることは全資本主義が必然ならざると同じである。今日資本主義が無產階級の立場からのみならず一般社會の立場からするも亦害惡、換言すれば人類の生產力の完全なる發展の障害となつてゐると共に植民政策も亦生產力の增進によらず反對にこれを阻止することによつて資本主義の存在を永引かさんとする一手段として同じ程度に害惡となつてゐるのだ。この害惡と抗爭すべきことはそれが表面上善

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

意的の形において現はれてゐる場合においても已にさうだ。」と、社會主義者にして植民政策の必然性を認むる者を戒め、更に無産階級の倫理的本能と勞働生産能力破壞の事實との一致を論定して言ふ。

『無産階級の倫理的本能が、無産階級にあらゆる人種的支配並に階級的支配に對する即ちあらゆる外的支配に對する厭惡の情を浸潤せしめると共に、生産力發展の考察の内に入る諸要因の科學的研究も亦無産階級の階級的利害が無産者を導いて無産階級に至らせたと同様に倫理的本能は無産階級の針路を正しく示すことを教へる。無産階級の利害は特殊利害が今や社會的總利害と合致してゐるのである。人類の生産力發展の一般的立場より觀るも、今や外的支配人種的支配に外ならないあらゆる植民政策を否認する一切の事由が存する』(前掲細川氏譯書參照)

しかるに見よ！自由主義的組合主義の發達の結果勞働黨が內閣の椅子を占得したイギリスは、自任しながらも、その一方世界唯一の帝國主義國家權力を誇り無産階級への迫害は勿論、その隷屬せられた印度アイルランドの如き植民地を迫害せるは倫理上よりしても、論理上よりしても矛盾とせねばならぬ。それのみか、試みに極東日本の新興階級無産政黨に就てみても、いかにその政策が不徹底であり、プロレタリアとして無自覺な、無誠意な態度であるかを知るであらう。即ち日本無産政黨の極左翼を以て自ら任じてゐる勞働農民黨の綱領政策に就て一瞥せよ！(勞働農民黨綱領及規約政策第四「植民地に於ける差別の撤廢」)は、果して全世界の無産階級として、友誼的且つ共同任務、綱領政策と爲し得られるであらうか。否之れは如何に過重評價を以てしても、彼のブルードン流のデモクラシーの普遍化即ち植民地は之を統治國に隷屬せしめ差別のみを撤廢して所謂デモクラチックに政治することを、理想とし實行とするア・イ・マ・イでなく何であらう。

全世界無産階級の自由と正義の確立のため、植民地解放のため、無産階級は共同的任務と義務を感じ、以て速かに植民地民族自決並びに國家分立自由獨立のため戰鬪し、またそれを戰ひとらねばならぬ。

三、結　論

以上論じて來た處に依つて我れ等は植民政策の罪惡的本質を一部的に曝露することが出來得、また植民地民族の更生の途を漠然ながら暗示して來た。如何なる植民政策に依つて植民地が永遠にその帝國に歸屬せられたか。我等はその歴史的本質を未だ見ないのみか、それを信ずることさへ赦されない。如何なる武斷政策を以てしても如何なる同化政策を以てしても、如何なる形式の自治政策を以てしても決司それは空中樓閣であり、一時的歴史の形式に過ぎない。奴隷は、暴慾非道なる獨の際より自由の烽火を翳して立ち、歴史教育を變へ、同化を斷念するけれども、印度人は英語により英國の惡口以外に何ものをも爲し得ない。最後に植民地自治は、政治上に於ける最高の形式として植民地民族の最高の自由限度ではあるが、元より自治の制度並に形式は極めて不徹底極まるものであり搾取の可能な範圍に於いて認許せられるものなれば、植民地民族にとつて之を機會的に利用し、腰掛的に利用する以外に何ら効果的價値をなさないものであらう。

『植民地は恰も果實の如く、熟すれば樹より落つ」

フランスの該學者の唱へる如く、植民地は人間の本能に依り原始

に還るであらうまた還らねばならない。

現像型の變化を以て直に原像型の變化と認むるは大なる誤謬の觀察とせねばならぬ。アメリカに住む黒人は、表面上生活樣式其他にアメリカ人と何ら異る所を有せざるがアフリカの祖先を彼等は斷へず想念し憧憬を捨てるものでない。世界の歴史に一新紀元を與へし彼のユダヤ民族に就て見よ!

植民地は帝國主義資本主義の溫室にある異る帝國主義資本主義の競爭であり、帝國主義資本主義の破滅の契機を醸る存在である。こゝに於て我等は國際無產階級の共通利益のため共通的戰鬪のため協同戰線保を要求するものである。

『植民地は恰も果物の如く、熟すれば樹より落つ』此等は、今日の迫害のため暗き闇には住めど、決して明日の日の黎明を忘れるものでない。またそれを戰ひ取るであらう。(完)

——◇附　記◇——

本篇は本號を以て一先づ完了とし何れ補訂の上小冊子として「進め社」より刊行する運びになるであらう。そのときを約束して永く讀者の倦怠を煩はしたことを謝して擱筆する!(金)

(三十三頁よりの續き)と進出し、生長してゐるのに、ドイツ本國では其れが修正派のベルンシュタイン主義へと退却してゐることは、注目に價することであらねばならぬ。

また特に保守派によつて組閣されたこともあるが全體としては社會化されたる革命後のドイツ共和國は、次第に、プロレタリアの國となりつゝあることは確だ。

以上吾々は、プロレタリア政黨運動を中心として、ドイツにおけるプロレタリア解放運動の史的發展を簡單に叙述するところがあつたが、政黨運動はドイツに於て特色ある發展をしたものであることは、之を幾分傳へ得たと思ふ。(完)

小學教員猛攻擊

僕が先年失職中の所へ函館の友人Sから「そんなら小學校の教員にでもと言つて來た「小學校の教員になる位なら死んだ方がまだ乞食をしても小學校の先生にはならん」と僕は即座に返事を出した事があつた、又こんな事もあつた。酒飲みでオッチョコチョイで所謂其の道の泳ぎの上手なノッポの一教員が學校の歸り、町の化粧品店に寄つての話である。あゝ今日も又生徒を教へて來たとぬかしたのである。現今の大量生產的な而も粗製濫造の小學校の先生方によつて培はれてゐる子供は[illegible]である。

まして女教員と來たら鼻持ちならん。口紅頬紅白粉モダーン好みの模樣の振袖、カガトの高い先エナメルの靴スピーンの手提げ、讀む物と來たらキングで御座るの講談俱樂部でござるのマキノとか蒲田とかいふ映畫雜誌の類である。こんな連中が殊勝らしく教壇に立つて皆さんはお父さまやお母様の言ひつけをよく守らねばなりませんと教へても駄目である。小學校の先生が資本家の提灯持をしてゐる間は日本の教育界は救はれない。五十圓か六十圓のサラリーを貰つてそれで自分も一門のブルであるかの樣に心得て得々としてゐるのが馬鹿らしい。目覺めた先生によつてテキハキと底力のある教育が施さるゝ時が來るまでは日本も不幸である。ボロ糞の樣に云つて迷ひの夢を破つてやつて、眞劍な自分の姿を見せてやらねばならぬ時である。

全國の同志よ!　ねむれる小學校教員に向つて總攻擊の矢を放て!　(伊藤　己人)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

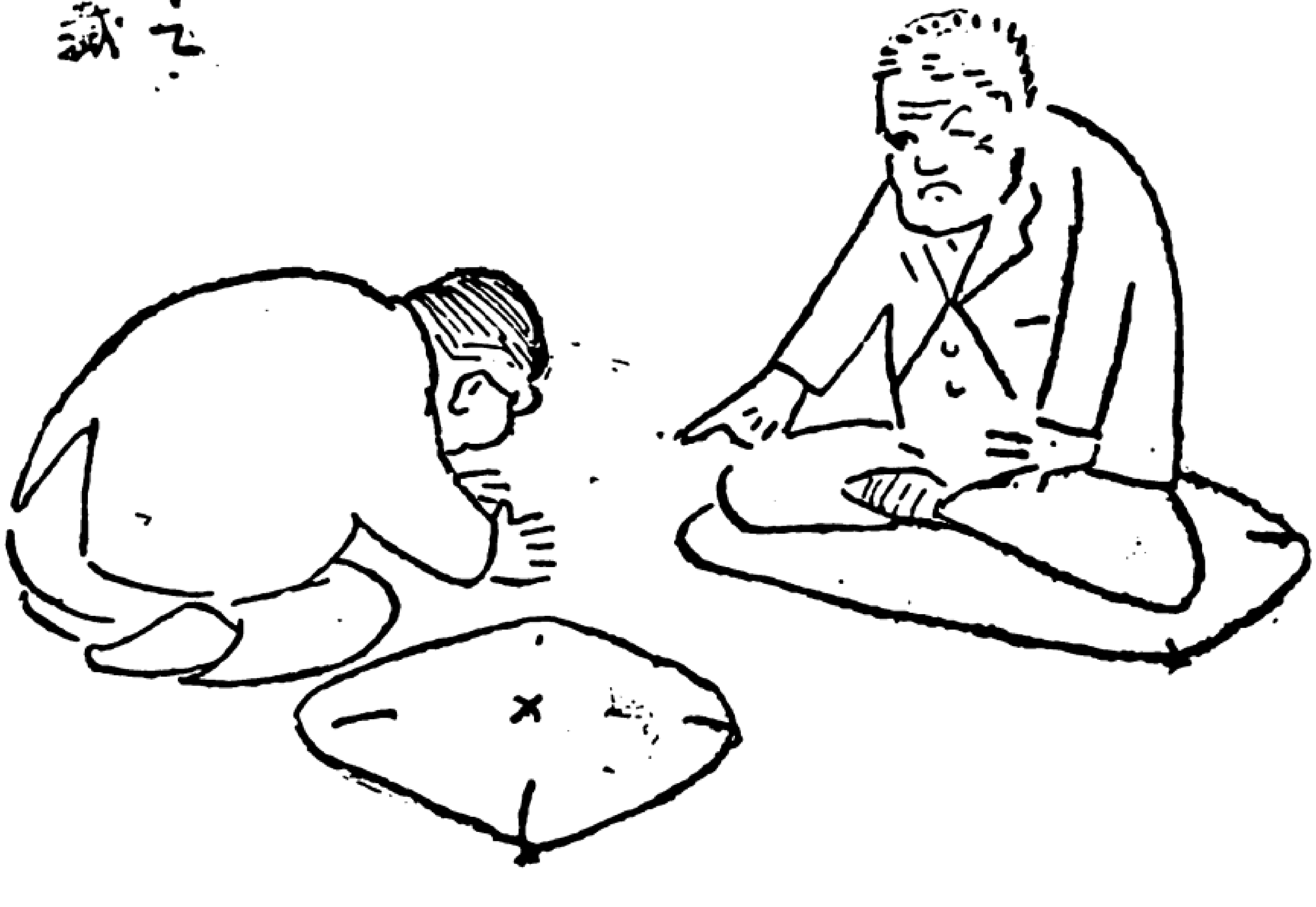
鈴文詰問の幕

安部磯雄
鈴木君、君ハ田中義一を訪問しましたか、

鈴木文治
ハイ・・・

安部磯雄
それ以上は君の人格に関するから聞きません

説明、鈴木文治が田中義一を訪問して二万円もらつた事を安部總裁取調べ。



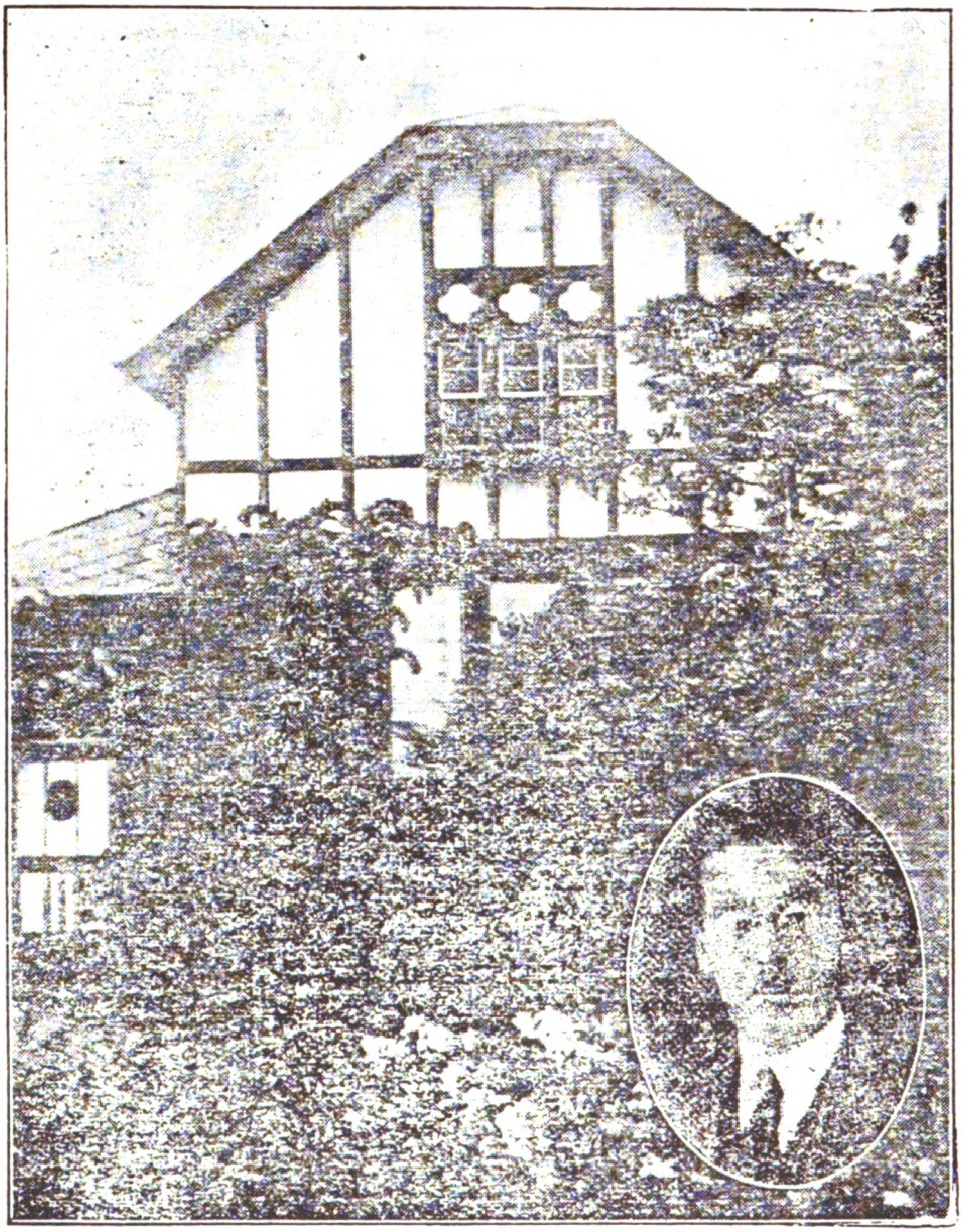
理論闘争

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

進め

ブルジョア大山郁夫氏と其の邸宅

労働農民黨總裁として潜越にも無産階級運動上に君臨せる大山郁夫氏は時價六萬圓と評されるる豪莊なる邸宅廣大なる庭園を有しブルジョアに等しき豪奢な生活を爲してゐる。我が無産階級は斯かるブルジョアを撲滅して恥ずる所なき労農黨を糺弾せよ。



解放運動者の嚴肅と寛容

布施辰治

□

自ら、ヨリ、善く更生しやうとしないで、他を、ヨリ、悪く誹謗する事に依りて、現在政權の獲得と維持を糊塗せんとするものが、醜惡愚劣を極むる既成政黨の政爭であります。と、同時に、既成政黨政爭の唯一手段として御互の秘悪隠罪を暴露するものは、之をアバキ合ふものゝ正しからざる自壞併用に共倒れを急ぐ當今流行の所謂泥試合であります。

□

處が、左樣した所謂泥試合が、我國無産階級解放運動戰線の漸次擴大するに從つて、混亂分裂したものゝ間に傳染流行し、血で血を洗ふ所謂泥試合に逆上して居る者のあるを見せ付けらるゝ事は私の甚だ不愉快とする所であります、けれども、御互にアバキ合はなければ爲らない各自の秘悪隠罪を持ち合せた解放運動者に取りては、それも、誠に、止むを得ない御互の罪障消滅でせう。と同時に、一般無産大衆に取つては、左樣した秘悪隠罪を持ち合せた解放運動者の分壞併用を以て陶汰せらるゝ事を喜ぶべしであらうが、全然、た

隷した秘悪隠罪を持ち合せない解放運動者が、誤解の攻撃、忖度の獨斷、悪意の漫罵を受けた場合にどうするか？と云ふ問題に就て、一度、私の所感を述べて見たいと思ふて居りました。

夫れは、階級闘爭の闘卒を任ずる解放運動者は、常に外敵との闘爭に勇敢であらねば爲らない事は、素より云ふ迄もありません。其の對立した外敵が、如何に小さきものであつても、苟あつての攻撃を挑戰せられた場合に、闘爭精神を嚴示しなければ爲らない、何時如何なる一小事にも、犠牲に任ずる覺悟が必要です。

けれども、所謂内敵からの攻撃挑戰に就ては、其の攻撃を挑戰せられた解放運動者の理論的考察と事的反省とを必要とする問題に觸れないものを相手にしない丈けの嚴肅さと寛容さとを自重しなければ爲らないと思ひます。

此の闘爭精神の嚴肅と寛容と云ふ事は、兩立しないものゝ如くに考へて居る解放運動者もあるやうですが、私は、自ら、闘爭精神の嚴肅を期する事に依つて、他の攻撃を無力無關心に看過する所の寛容精神が進修せらるゝ事を疑ひません。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私は、今回圖らずも、本誌三月號發表の『借家人運動の方針と組織完成』に依りて、窮地に陥れられたと云ふ者から、私が、借家人運動の反動者、野心家だと云ふ誤解の攻撃か、付度の獨斷か、惡意の僻か？を受けて見て、一層、所謂內敵からの攻擊挑戰に對する寛容精神の涵養を體驗する事が出來ましたから、左に、その所感を述べて一般の參考に供します。

□

然で、此の問題に就て、私の、第一に論じて見たいと思ふ事は、現在無產階級解放運動戰線に、既成政黨から傳染流行した所謂泥試合と、似て非なる泥礫と稱すべきもののある事です。

私の茲に云ふ泥礫とは、何らのアバカルべき秘惡も隱罪も無い純情の解放運動者に向かつて、所謂解放運動者が、自の身に持つ秘惡隱罪を蔽ふ爲めの純情解放運動者の心事を付度したり、態度を臆測したりする誣妄の漫罵を加ふる事であります。

私は、左様した誣妄漫罵に付度せられたり、臆測せられたりする些かの秘惡も隱罪をも、持ち合せて居ない純情潔白の解放運動者には、左様した泥礫が、雨霰の如くに、投付けつけられようとも、解放運動者自身として、別に何等意に介するには及ばないと思ふ。

が、眞に、解放運動者の純情と、解放運動戰線の潔白を祈念するものゝ此の問題に就て、考慮しなければ爲らない事は、所謂解放運動者が、左様した誣妄漫罵の泥礫を投げ付ける動機と、其の泥礫をどう疑義するかと云ふ一般無產大衆の理解程度です。

私は、試みに其の動機を左の三つに區別して見ます。

（一）所謂解放運動自身の持つ秘惡隱罪は如何なる解放運動者でも持つて居るものと付度して獨斷するもの

（二）所謂解放運動者自身に持つ秘惡隱罪に苛責せらるゝ良心の惱みを自己辯護する爲めに他の解放運動者も、亦、自己同様の秘惡隱罪を持つものと臆測して中傷するもの

（三）純情の解放運動者に、全然、何等の秘惡隱罪無き事を知り乍ら自己に持つ秘惡罪惡をアバかる事に依りて、窮地に陥らんとする所謂解放運動者が、死物狂ひの誣妄漫罵を事とするのであります

□

以上の中で、（一）に屬する泥礫連は甚だ可憐なもので、自己を秘惡隱罪の泥中に置いて、現に自己の手を汚しながら、泥礫を投げ付けたり、其の身を毀したりして居るのでありますから、其の泥礫を投げ付けられた解放運動者に命中的中したと思ふて居るかも知れませんから、之を諒解せしむる親切さを要しますが、（二）（三）に屬するものは其の投げ付けた泥礫が投げ付けられた解放運動者には屆かず、諺に謂ふ『天に向つて唾する者が自らの面上を汚す、』ものである事が、自己にも判つて居る筈なのだから、所謂解放運動者の自縄自縛、自崩自壞の墓けつを掘るものである事を喜ぶのみで、全然之を相手にすべきものでは無いと信じます。

夫れは、所謂泥仕合の事に就て、多少の棋道を解する私に好個の比喩を敎へて呉れる棋道の諺があるからである。

曰く棋道の諺に『ヘボは攻合ひばかりして居て生き模様を作らない』と云ふ事があります、如何にもヘボ棋士の棋局を見ると局部直面の攻め合ひには甚だ勇敢でありますけれども、全局の成敗を達觀する自重忍苦の攻防に就ては、甚だ怯惰で、而も激情の輕卒を敢てする全局戰線の紊亂、恰も、自縄自縛の行詰まりを急ぐの愚挙、轉た憫諒に堪へないものがあるからであります。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

□

如何に、私が、泥試合の醜體を否とするからと云ふとも、解放運動者をヘボ棋士に擬して、此の稱を鉅す事は甚だ失禮かも知れません、が、物の道理を同じふする譬ノ適切、甚だ妙なるものがあると思ふて、ここに、其の比喩を借りて解放運動戰線の泥試合に激情する鬪士に獻ずるのです。

更に、私をして所謂泥試合を避けしむるものは無産階級解放運動の鬪爭を任ずる私の信念です、之を簡單に一言すると日常不斷の活動を以て無産大衆と共に其の親しみを謳ふして居る純情の解放運動者は、如何なる死ぐ狂ひの泥礫を投つける謂ゆる解放運動者あつても決して、之に汚がさるる譯のものではありません亦、一般無産大衆との親しみを離間中傷せらるるものでもありません、從つて、斯ふした泥礫をウルサがるにも及ばず氣に止むるにも及ばず、之を相手として、多少でも、解放運動の進出を妨げられないやうにしなければ爲らないと思ふ、無産階級解放運動精神の信念です。

□

黎明の彼方へ

×

俺達は生きる
よりよくそしてより强く
澎湃たる××男兒の意氣と
燃えたぎる希望の光を抱き
自由を求め正義を望んで
冷靜に而も熱烈に
俺達は生きるんだ！

×

よし不治の病に犯されても
よし呪はしい貧乏が迫らうとも
黄金の搾取！血肉の剔抉！
[illegible]の刄に突き付けられても
俺達は不遇の病から
熱と力と意氣を以て
更に大膽に率直に
あらゆる障害をフツ飛ばし
俺達に生きるんだ！

――（山本忠次）――

けれども、一に屬する泥礫連に就ては、假令、其の泥礫が解放運動者に屆かなくとも、亦、之に依りて其の純情と潔白とを傷つけらるる事は斷じて無いとしても、之を一のやうに誤解獨斷したり、臆測漫罵したりするものがありとすれば、夫れは、甚だ憫諒すべきものですから、所謂泥試合の爲には左樣した泥礫を相手にする必要はありませんが、解放運動精神强調の爲に、之を解說して置く必要があると思ひます。

何故なら一に屬する泥礫を以て何んらのアパカルべき秘惡陰罪も無い純情の解放運動者に對して自己の身に持つ秘惡陰罪から其の心中を付度したり、態度を臆測したりするは、恰ゝ、短い竿を以て奥底の判らない水深を測る如きものだからであります。

タトへば、五尺の竹竿を以て、五尺、六尺、十尺、二十尺の水深を有する奥底を測らうとしても、結局、五尺の竹竿を以て測り得る水深は、五尺より深い奥底たる所が出來ません、譬に云ふ、己れを以て他を測るの比喩が、當に此の例で、五尺竿程度以上の解放運動精神を有せざる所謂解放運動者は、六尺程度十尺程度、二十尺、三十

尺、幾十尺無限の深い水を形容すべき純情潔白な解放運動精神を測るにも矢張り自己の五尺竿を以て測り得る五尺程度の解放運動精神を其の心事に付度したり、其の態度に臆測したりして居るのだから如何にも氣の毒に堪へないのです。

□

私は、此處に其の例を今度、「借家人」と謂ふ雑誌が、私の本誌三月號と生活運動に發表した「同人關係の斷絶と借家人運動の更生」を主題として誣妄中傷の泥礫を投付けた、例に取ますが、別に私には其の泥礫が届きもせず、亦、一般無産大衆との親しみを離間せらるる事も無いのです、けれども、今日迄、私の事を、私自ら、語らずに居た私に、今度の「借家人」は、「天は何事をも正しきものの爲に幸ひせざるなし」と云ふ平常の信念通り、圖らずも、私の幾分を語る機會を惠まれた二三を語つて置きます。

其の一は、本氣になつて新に雑誌「借家人」を讀んで呉れた人は、亦、必ず本誌か生活運動の三月號を讀み返して呉れたであらうと思ふ事です、そして幸ひにも雑誌「借家人」を讀まれた事に依りて、本誌の私か生活運動の三月號を讀み返して呉れられたら、前きに私の「同人關係の斷絶と借家人運動の更生」丈を等閑みにせられた時よりも「借家人」の浸潤と激情とを併せ讀まれた事に依りて、ヨリ善く無産階級解放運動戦線の一翼を占むる借家人運動の本質を解して貰ふ事が出來たであらう事を望ひます。

其の第二は、相當に眞摯な態度と、解放運動の闘爭を信じて居る私は、寸毫の誣妄中傷にも激怒するものの如くに思つてる人もあるであらうが、私は階級的の不正を憎み、不純を責むる事には一歩も假藉しない底の眞摯な潔さを期して居ても、個人の不正と不純とを俟つに甚だ寛容過ぎる人間である事が分つて貰ふ機會を惠まれた事を嬉しく思ひます。

私が、私の理解する個人の不正不純に對する眞摯な意識に、逆に反省して欲しい、と云ふ事を望むのみである爲に、どの位の受難を忍苦して居るか知れません。けれども私は左様した私の受難も忍苦も決して私の態度が惡いからだとは思ふて居りません。否、寧ろ、自らの個人行動を規する所の眞摯な意識と、他の個人行動を俟つ所の寛容憫諒とは、全人類愛に立脚する

殺人ラッパの響き

×

おゝ呪はしき物質文明よ！・・
立ち並ぶ洋館の下
都會を征服せんとする
殺人ラッパの音響よ！

×

人類の平和を破壊せんとする
肩章輝き拍車の光る
兇器所持者の濶歩！
おゝ呪はしき殺人ラッパの音響よ！

×

文明の誇り！
公園のベンチ、音樂堂の床は
失業者のベットと化す
呪はしき物質文明の誇りであることよ！

×

殺人ラッパと兇器の交錯
これ物質文明の凡てだ！

——（佐々木金次郎）——

解放運動者の常に試練せられなければ爲らない運動精神の進修だと思ふて居る私の所期が、借家人の激情漫罵に對する私の態度に依りて實證し得たならば、ほんとうに私の喜びとする所であります。

其の三は私が、借家人同盟の同人關係を斷絶しても、其の二に擧げたような考慮と態度を以て、悲しむべくも分裂した同人兩方に對して居るので、一般借家人大衆中には分裂した舊同人の兩方が各自に私の關係連絡を宣傳した事に、多くの迷ひを抱いて居た人もあるらしいので、分裂した舊同人兩方に對する私の態度を、モウ少しハツキリ聲明して貰ひ度いと云ふて來た人もありました。が、しかしながら私としては、同人關係を斷絶しても、決して、借家人運動を棄てたのではありません、所謂同人中心運動の同人關係を斷絶して借家人運動を進出する借家人自治聯合の一人として街頭に立つ事を發表したのであります、故に、苟くも、借家人大衆の爲に働くと云ふ團體のいづれに對しても、私を共同戰線の解放運動者として迎へようとして居るものに、私から其の不參加を聲明すべきものでは無いと考へて居りました。

我等の赤旗

×

汝の使命果せよと
聞け！黎明の鐘が鳴る
我等の頭上に閃めく
白刄のうなり！
鮮血の點滴！

×

審判の日だ！
資本滅亡の日だ！
一[illegible]への日だ！
頭上に輝く
我等の×××

×

起て農民！
奮へプロレタリア！
敵に向つて生命を捨て
勇敢に戰へ！
いざや進め！プロレタリア！

——（岩崎啓明）——

けれども、今度の雑誌「借家人」に依りて同人關係の借家人運動者が、私を反動者だと云ふて居りますから、今後は雑誌關係の借家人運動者は從前通り私に連絡ありと云ふ借家人大衆を迷はせるやうな宣傳も無く爲るであらう事を借家人大衆と共に喜びます。

□

其の四は、之れ迄誣妄中傷の記事等に就て名譽毀損等に關する相談を受けた際、私は敢然として誣妄中傷位で毀損せらるる樣な、名譽ならば回復するにも及びますまいと云ふて戒めたものですが、今度の雑誌「借家人」に依りて、左樣した私の信念を試練修養し得た事を心強く感謝します。

何故なら、私の本誌三月號に發表した同人關係の斷絶と借家人運動更生の一論は、意外にも、舊同人を窮地に陷れようとしたそうですが、私は決して、舊同人を窮地に陷れようとした事は誠に、御氣の毒だつたと思ひます。今度の雑誌「借家人」で激情漫罵をせられた何人かの筆は、明かに私を[illegible]す爲の論文だと云ふ事を宣言して居るけれども、私は、彼の論文に依りて、別に私は窮地に陷れられたとも思はず、亦、私と一般無產

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大衆との信任共動が離間せられたようとも思ひません又萬一にも、私と一般無産大衆との親しみが、斯ふした激情漫罵に依りて離間せられはしないかと氣遣ふ程のものであつたら、私は、自ら之を愧ます。私の信念する解放運動者の受難は、丁度、鍛へらるゝ鋼鐵のようなもので、鍛へらるれば鍛へらるゝ程、良き質の鋼鐵は、その光と强さが增すが如く、眞に正しき解放運動者は、誣妄中傷の受難を試練せらるれば、試練せらるゝ程、その正しさを增すものと信じます。と同時に『天は何事をも正しきものの爲に・幸せざる事なし』と云ふ覺悟が進修せらるるのであります。

□

其の五は、雜誌『借家人』に依る私の借家人運動と、私の率先提唱した普選運動が、各地各團體に依りて叫ばるる事に至つても、私が、其の中に這入つて普選實現の運動を共にしなかつた爲に、漸く世間から私の普選運動が忘れられんとするに至つたので、其の方向轉換を、極めて賢明な借家人運動に轉換したものだと云ふ事です。左樣言はるる普選運動の回顧に思ひ出づるものは、私の率先高唱した普選運動が、漸く既成政黨の問題と爲つた當時、私の議會入りと既成政黨共同の普選運動を勸誘するものの多かつた事であります。にも拘らず、左樣した勸誘に耳を傾けない私の態度が、煮切らないと云ふて多くの人達は、私の率先高唱した普選運動を、既成政黨の手に奪はるるものの如くに氣を揉んで呉れたのでありましたが、私は、敢て、其の人達に答へました。私の率先高唱した普選運動だからと云ふて、何も、私の參加に依りて實現せられなければならないものではありません。私の提唱した普選運動の眞理を認めて其の實現を期せられる人があつたら、何人の手に依つて其の實現を見ても宜しいではありませんか。只だ、私の慎思信念すべきものは、如何に普選運動を率先高唱したにもせよ、既成政黨と其の運動を共にする事の不純を避くる事でありますと。今から當時の慎思信念を回顧して私の喜びに堪へない事は、私が當時所謂普選運動自由主義者に陥落しなかつた無産階級解放運動精神の自覺です。

□

熱血の迸り

×

赤い血と
若い元氣でやつつけろ！
資本家[illegible]へ惡魔奴を

×

金持ちは强い樣で弱いんだ
强いと思はず
皆で一ぺ[illegible]！

×

狼のオリへ
貧乏人の娘が
欺されて入つて行つた

×

踏まるれば
踏まるゝ程に固くなる
ゴムマリに似る俺の心よ！

——（藤村喜代志）——

其の六は、借家人運動が所謂事件屋に腐敗墮落しては爲らないと論證した借家人運動更生に就て、私の前に提唱した、「借家人盟同」が、事件中心なりしが爲に、事件屋に墮落したのは私の責任だと云ふて居られるようですが、私は、今でも、借家人運動が、事件中心たる事を非として居るのではありません。只だ夫れ、事件の中心に鬪爭する借家人運動者の事件屋に腐敗墮落する事を戒めて居るのであります。私が、借家人運動を事件中心に强調した事は、決して「事件中心に結成するより外に仕様が無いぢやないか」と云ふが如き無理論ではありませんでした、當時、しばしば云ふた通り、他の解放運動でも、勞働運動でも、一度司法裁判の事件として法廷に追ひ込まれた塲合の鬪爭陣容が整ふて居らない爲に脅威せらるる事が多いから、借家人同盟は、妥斷に就て、一事件一鬪爭の法廷事件を中心に、日常鬪爭を强調しよう、と云ふた理論は、今日でも變りません。

借家人運動更生の方針を大衆的に徹底する事件中心の法廷鬪爭を借家人大衆の直接自活と、成るべく、係爭本人の勇敢なる鬪爭精神を以て、其の解決に當る事にしたいと云ふたのを、借家人の團結をバラバラにするものだと解釋し、更に、本人のみの力に及ばないものは、同番地、同丁目、同町内の協力に依つて、其の解決を期するようにしたいと云ふた、其の同番地同丁內全町内を官制の町會に頼むものの如くに解せらるるに至りては解するものの五尺竿があまりにも、短過ぎて、書いた私の眞意に届かざる事も甚だしいのであります。

更に、私が、勞農黨と勞農總聯合等の顧問たる事を以て、態度の矛盾を難ぜらるるのも、亦、五尺竿です。私は、自ら、無產政黨でも、組合運動でもの有利な運動戰線に身を入れ切らない顧問の立塲に於て、而も、無產政黨でも勞働組合でもの活動には、其の戰線に入り切つて居る人と同じように活動の犧牲を献じて居る私の心事は相當一致の理解を得て居る事を疑ひません。

□

其の七は、所謂事件屋としての借家爭議取扱と解放運動としての借家爭議取扱とを峻別して所謂放蕩三昧をしては爲らないと云ふたのに對して、直に資金消費問題を持ち出して居る所に、所謂五尺竿の問題があるのであります之れ以上、ここには此の論を進めませんが、只だ一事、序に云ふて置きたい事は、私の本誌三月號同人關係の斷絶と借家人運動の更生を讀んで、何んら舊同人を窮地に陷れる爲に書いたものと思ふて居るものの無い事です。

私としても、決して舊同人の秘密罪惡をアバイて窮地に陷れやうと云ふ意圖で書いたのではありません、期する所は將來の借家運動に參加せんとするものの自警と他戒です。從は夫れ以上何んの他意もありません。然るに、彼の一論が舊同人の秘密罪惡をアバイたものとして、逆上昂奮せらるるのは抑何んの爲なのでせう。私にはどうしても其の譯が判かりませんから、是非モー一度親しく見直し考へ直して貰ひ度いと思ふ。

最後に云ふて置きたい事は、經濟的危機が私の同人關係斷絶の原因だと言はれた。大正十四年度から昭和二年一月迄の犧牲に、到底、私の堪へ得ざりし現狀は、寔に其の通りです。と同時に、私は經濟の危機に堪へずして他の進出計畫かあつたと云ふ所に、私の借家人運動精神の眞髓を徹底して濫らなる事を戒めなければ爲らない所以があつたのです。

プロレタリア宗教政策

淺野研眞

一

第五十二議會には宗教法案が上提され、可なり多くの論爭が伴ひ出された。

宗教關係の方面からは、これに對する種々なる反對運動が試みられた。惟ふに、宗教關係方面の意向は、國家の特別なる優遇を受けんとするものゝ如くである。否國家は是とすべしと云つたやうな前提觀念から出發した者があるやうである。強く云へば、身賣りして、好遇されやうとするが如き態度がないでもない。

國家としては、宗教を以て、一種の統治手段とするのであるからして、その限度内に於て之を應遇せんとするのである。そのためには、時としては之を甘やかし、時には叱りつけやうとするのである。（拙稿「支配階級の宗教利用」參照）。

一言にして掩へば、宗教は支配階級に阿附してのみ其れに好遇されるのである。然し此の場合、被支配階級の怨嗟の的となることは、多言を要するまでもないことだ。かくて『宗教は民衆のための阿片なり』と云はれ初めるのである。

二

最近の日本に於ても、例へば水平社の本願寺に對する態度、農民組合の寺院に對して取らんとしつゝある態度の如きは、プロレタリアートの宗教政策の新しき芽ばへであると云はねばならぬ。然し今度の無産政黨は、その何れもが宗教對策について何等言ひ及んでゐないやうだ。

日本のプロレタリア宗教政策の歴史的背景も極めて貧弱である。明治大正時代を通じて、唯一度だけの其れらしき史實があるのみである。即ち明治四十年二月十七日、日本社會黨第二回大會に於ける決議案には黨員の隨意運動の一つとして非宗教運動を通過せしめてゐる。（拙著「日本勞働運動小史」大正十五年進め社刊五八頁參照）。然し此の決議は、多分に直譯的色彩を持つたものであつて、未だ充分に反宗教氣分は民衆の間に芽生えてゐなかつたやうであつた。元來、日本の既成宗團は、明治維新以後、殆ど何等の特權をも有してゐないやうだ。從つてプロレタリアートの直接的搾取が、それ程深刻でなく、之を不問に附して置いても良かつたのである。

然し沒落期に際會しつゝある日本の支配階級が、所謂めし粒で鯛を釣る式に、若干の經濟的特典を與へることによつて宗教法を制定し、以て宗教を制度化し、支配階級の心的壓迫の機械として利用さ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

れるやうになると、之に對する無產階級の宗教政策も、實際化されて來ることは、茲に云ふまでもない。歐米先進國に於ては、既にプロレタリア政黨は、その宗教的政策を表明し來つてゐるのである。

そこで吾々は其等歐洲に於けるプロレタリア政黨の宗教政策の主流を、若干見て置くを必要とするであらう。

三

先づドイツ社會民主黨に見るに、其の一八七五年のゴータ綱領に於ては、第六條に『宗教は個人的事項なりとの聲明』と規定してゐる。

然るに此の規定は發展して、一八九一年のエルフルト綱領に於ては、同じく第六條に於て次の如くなつてゐる。

『宗教は個人的事項なりとの聲明。教會及宗教上の目的のためにする公金支出の全廢。教會及宗教上の團體は、その事件を獨立に處理する私法上の團體として遇すること。』

而して此の政策は、甚だ實際的なものであるが、之が諸國に影響したことが多かつたやうである。

四

次にロシアを見るに、ロシア革命は、甚だしく教會を敵視し、既成宗教に痛棒を喰はしたことは、一般に知られてゐる所である。然し新憲法に於ては、次の如き放任主義の立場にある。

『第十三條　勞働者に良心の事實上の自由を保證せんが爲め教會を國家より、而して學校を教會より分離する。そして宗教的及反宗教的宣傳は、之を總ての人民に附與する』。

即ち、勞農ロシアに於ては、宗教的宣傳も許されてゐるが、特に『反宗教的宣傳』が許されてゐることは注目を要する點である。

ロシア革命直後は、所謂『教會撲滅運動』が盛んに行はれたと云はれてゐる。

然し昨今は、新しき勞農宗教としての『生ける教會』の運動で起りつゝあるとも云はれてゐる。

尙ほ進んで、ロシア共產黨の取つた宗教政策の基調として、レニンの意見を見て置から。

レニンは『宗教に對する勞働者黨の關係』なる一文(露語『プロレタリア』第四十五號、一九〇九年五月號所載、獨譯レニン選集『社會革命のための鬪爭』收錄、邦譯『マルクス主義』大正十五年四月號、英譯『レバー・モンスリー』一九二六年十二月號)に於てボルシエビイキの宗教政策を吐露してゐるが、要するに宗教は阿片であると云ふにある。而して宗教は滅亡せしむべきものであるが、過渡期に於ては『個人的事項』であるが故に、餘りに反宗教運動に努力することは、結局は宗教的な部分の後進分子をして分裂せしむるの不利があると說く。從つて『凡ゆる犧牲を拂つて神に對する戰爭を說教する無政府主義者は、實際に於ては、牧師とブルジョアを援助するのみであらう』(英譯七五〇頁)ことになる。

五

兎に角、日本のプロレタリア階級も、宗教政策を考へる時に來りつゝあることは忘れてはならない。少くとも宗教が支配階級に利用されてゐる限りは、プロレタリアートの宗教反對は必然的なものであるだらう。(一九二七、三、二三)。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

消費組合の發展を望む

安藤國松

近時何れの勞働組合、農民組合大會の議案の內に消費組合確立の件が附議されてゐる。そして何れも滿場一致を以て可決されてゐる。が私の知つてゐる範圍では未だ之れと言ふ程の具體化されてある事を聞かない。

無論政治運動とは違つて大會で通過したからと言つても直に社會へ發表され、知れ渡る程の派手なものでもなく、極めて地味な運動であるのが消費組合それ自體であるのであるから、目覺しからぬが本當であらふ。

然し今日迄も度々繰返した事は其準備中に早くも種々な支障が生じ挫折しやすいのである。理由の多くは消費組合運動が餘りに無駄骨の多いにも拘らず成績が上らない事に依つて倦怠が生じ易い、又此の運動は資本主義に依る商取引の中へ割込みに行かねば初めから生産機關が我々の內にない爲に彼れ等商人以上に行かねばならない故めに彼等に感化せない迄もある點は生一本の社會運動者の態度では都合の惡い場合が生じて來る。其故に同志の內で消費運動に充分理解のない人々はやゝともすれば冷笑を以て迎へられるのである。

一般組合員中には利己的の人々が多いのが常であるから少しの手落ちが生じると意識的にでもなされた如く考へ、其儘遠ざかつて行くのである。利用者が少くなれば元より、薄い資金の運轉が直に止まる。實に泣き面に蜂の情態に落入るのである。遂に投やりになる。全般の人々は唯中心當事者が惡いかの如くに言ひ終るのである。

各種の運動に於て如何程中心人物が手腕家であつても中心人物だけで成立するもの無いのは無論であるが、殊に此消費運動は全般の人々には目前の利益が餘り目立たない爲めに又今日迄の商賣法が購買者の爲めに表面上非常に便利にされてある關係上、消費組合から物品を買ふのであると言ふ間違つた考へが生じ易い。その前提の爲めに苦情と不平が生れて來るのである。

消費組合は自分達の生活必需品を買ひ調へてある、自分達の店舗であつて決して他人のものでない。故にモシ手落不都合のあつた場合は自分達の責任である。經營方針及總ての處分權については發言權と決定權を持つてゐるのである。幾等商人が頭を下げても其の商人の店の利益金の處分について顧客が一言半句の容喙をも許されないのを見ても根本的相違がある。

組合大會の決定の具體化及其の成功不成功は幹部の責任と云ふより寧ろ一般組合員諸君の自覺如何の程度に依つて決定づけられる。

我々の解放は政治方面よりするが最も近道である故に其方面に進まなければならぬが經濟方面殊に消費組合運動も亦大いに進まなければならぬ。

因に農村消費組合の設立について御盡力下さる同志があれば左記の場所へ御手紙下されば共に御相談に應じ度いのであります。

大阪市西區江戸堀下通り五丁目
農村消費組合協會

ブルジョア觀念形態を克服せよ

澤井龍之助

序

『人類は、彼等の生活の社會的生產に於いて一定の必然的の、彼等の意志より獨立したる關係に、卽ち彼等の物質的生產力の一定の發展段階に適應する所の生產關係に入り込むものである。此等生產關係の總和は社會の經濟的組織並に一定の法律的及政治的上部構造が據つて立つ所の基礎、從つて又一定の社會的意識形態が、之に適應する所の眞實の土臺である。』かくて『人類の意識が其の存在を決定するのでなくて、寧ろ之に反し、彼等の社會的存在が其の意識を決定するものである。』

一、社會的意識形態の眞實の土臺

之は有名なる唯物史觀の公式?と呼ばれる文章の一節である。是れに依つて見るも我々の住む社會と云ふものは天降り的に神様が造つたものでもなく又人間が故意に拵へあげたものでもないと云ふ事が判る。

我々の居住する社會は生きた社會であり、從つて色々雜多の思想と觀念が織込まれて居るであらう。然し、それ等の思想や、觀念はやはり、天降り的に醸成したものでなく、我々の棲む、若しくは我々の組織立てられた社會組織の下部構造の上に建設された上層建築に他ならないのである。

例へば現今の社會の組織は云ふ迄もなく資本主義的經濟組織に據つて以て構成され居るものである。從つて此の社會組織下に居住して居る所の我々は此の生產關係の上層建築をなす所の社會的意識形態に制縛される。具體的に是を云へば資本家階級に據つて代表される所の既成權力←關のブルジョア政府は、資本主義が胎み出した所の總らゆる觀念形態に對してブルジョア的自然發生意識より、積極的に資本主義を肯定せしめ、讃美せしむる如きイデオロギーを宣揚する事である。

マルクスの言を假りて云へば、『——此等生產關係の總和は社會の經濟的組織——並に一の法律的及政治的上部構造が、據つて立つ所の基礎、從つて又一定の社會的意識形態が、之に適應する所の眞實の土臺である。』卽ち、我々は、現代の社會生活及國家生活を支配し、規定してゐる所の、總ゆる政治的機關——若しくは立法機關

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

従つて又政治上、法律上の諸制度は全て是れ皆『生産關係の總和』は社會の經濟的組織——並に一の法律的及政府的上部構造が據つて立つ所の基礎』より發生し、建設されて居るものなる事を知らなければならぬ。

二、『時勢の流れ』＝生産力の發展

明治維新時代前後は我國の最も花々しき且最も若々しき氣魄に滿ちた時代であつた。

當時にあつては未だ封建的勢力が根を張つて居り、幕府と云ふ中央集權的勢力があつて全國の諸大名を抑へて居たものである。然し乍ら漸く勤王の聲か、即ち王政復古の旗印が其の鋒鋩を現はし始めた頃より漸く幕府は其の姿影を薄らぎ始めた。かくて全國到る所の各地方に尊王攘夷の喊聲が昂り始めるや幕府は周章狼狽し、其の聲を塞はんが爲、總ゆる奸策と陰計を繞らし、勤王の志士をして根絶せしめんとしたのであつた。

然し乍ら、何が故に尊王攘夷の聲を抑壓し得なかつたか。何が故に明治維新になつて彼の喊聲が昂り始めたか。何が故にモツト以前から叫ばれてゐなかつたか？

等、々の疑問は當然起らねばならぬ筈である。そして何が故に明治の御代になつて、さしも三百年の榮華の夢を見つゝあつた德川幕府を始め、諸大名はムザ〳〵土地返還を斷行し藩籍を還附したのであつたか。

是れ即ち唯單なる尊王攘夷と王政復古の聲に依つて明治革命が建設されたのではない。其聲を動かす何者かの大きな原動力がなければならない筈ではないか。

德川十五代將軍の時代には幕府も漸く財政が心許なくなつて來た●又各地方諸大名も追々と懐中具合が空虛になり始めた。是れを約言するなれば、素町人——即ち商工ブルジョアジー——は、愈々益々財布が膨れ上るに反して幕府を始め諸大名は愈々益々、財政が苦しくなつて來た。而して遂に諸大名は自らなる面目を拋棄して素町人に頭を下げるまでに至つたのである。是れ即ち當時の生産關係なるものが——封建的生産様式——自らの生産力の發展に堪え得られずして自己の包藏する内部的矛盾に據り自壊作用を行ひつゝあるものに他ならないのであつた。而して素町人共は益々、諸大名の財政の困難せるに附込んで故意に物價を暴騰せしめ、自階級の利益になる事ばかりをやり出した爲、遂に武士階級の經濟は根底より破壊され破壊されるに至つたのである。明治維新が——即ち、尊王倒幕が——來なくとも德川幕府と封建制度とは經濟的破綻によつて早晩倒壊したであらうとは一部の經濟史家によつて云はれて居る。

所で、此の生産力の發展と生産關係の矛盾に據り幕府が死物狂ひの最後の努力即ち尊王倒幕の志士、浪人をば根絶せしめんと、時の最強大なる天下御免の暗殺團體『新撰組』をして暗々裡に勤王志士をば虐殺せしめんとしたけれ共、新撰組の隊長、近藤勇をして遂に『如何なる努力も時勢の流れに逆らふ事は出來ない』と嘆せしめたのであつた。

『時勢の流れ』とは何ぞや？それはマルクスの云つた社會進化の原動力、即ち生産力の發展過程に外ならないのではあるまいか。

三、ブルジョアイデオロギー宣揚の諸機關

現今の資本主義制度も此の『時勢の流れ』に随ひつゝある事は否

む事が出來ないであらう。如何なる反動主義的頑固思想の所有者と雖も『時勢の流れに逆ふ事は出來ぬ』と云ふ事は知つて居る。然し『時勢の流れ』の正體が何者であるかと云ふ事は見極めようとはしない。否、單に見ようとしないばかりではなく、努めて見まいと欲して居る様である。而して古典へ〳〵と回顧的た憧憬と老人的頑固思想に憑かれ切つて新しい總ての思想と事物を排擊せんとする。此の哀れなる人々は自らの階級が自らの足場が將に崩れかゝらんとし滅び行かんとするのを强て踏み止まらうと焦る滅亡階級の精鰊人である。

今や、資本主義は爛熟の最高潮に突つ立つて居る。而も自己内部の矛盾に據る[illegible]最後の踠張りを突き通さうとして居る。即ち搾取制度の下に呻吟しつゝあるプロレタリア階級の擡頭と勃興に對して恰も幕末維新前に於ける幕府及大名共の如く、新興商工階級の擡頭と勃興に對して恐怖し、自ら沒落し行かんとするのを意識しつゝ公家尊崇のイデオロギーを宣揚し、且新興思想を抑壓せんとしたるに彷彿たるものがある。

國民のイデオロギー及思想と云ふもの程恐ろしいものはない。然し、國民のイデオロギー及思想は概ね、時の支配階級のイデオロギーと一致する。何故なら支配階級と時の生産關係、從つて其上に建築されたる社會階級に他ならぬからである。而して支配階級は現存の制度を永遠に存續せしめんが爲、又自階級の榮華と淫逸を强欲せんが爲、且亦、自らの飽くなき搾取慾を充し、利己主義に依る永遠的徳利の儚なき夢を飽喫せんが爲、自己の有する總らゆる文化制度と文化的機關に據つて新興階級の口を蔽はんとする。

彼等の最も怖るゝものは又我々に取つても惧るゝ所のものでなければならない。彼等は無産大衆の眼が輝き始め、眞底から覺醒せんとしつゝあるのを最も恐怖して居るのである。而して彼等の政治上、法律上、教育上、哲學上、宗教上、藝術上等の總機關は全線的に彼等のイデオロギーの宣傳機關と化し、無産大衆及其子弟をばして資本家的觀念學を注入せしむる事となるのである。我々は此の最も强大なる文化的機關として左の如きを擧げる事が出來るであらう。

イ　小學校の義務教育
ロ　無産青年の補習教育
ハ　壯年者に對する公民教育
ニ　青年訓練
ホ　新聞雜誌、一般印刷物等
ヘ　映畫、劇、ラヂオ講演會等
ト　其他諸々の權力機關等

先づ右の六種を一瞥しただけでも我等は果然として口を閉塞せしめられる感がする。義務教育に依つて支配階級的イデオロギーを散々注ぎ込まれ、殆ど本能と稱して好い程其觀念は到底拔き切れない。而もそれを卒業すれば、上級の學校へ行くブルジョアの伜に知らず無産者である所の卒業生は尙且其上に補習教育、青年訓練、公民教育等の美名の餌に釣られて憐れむべき支配の奴隷と化せんとして居るのである。

然も又單に是れだけに非ず、日々、新しき事件を報ずる所の新聞は其偉大なる宣傳力に於ては現代の何物を以てしても比較するを得ない程の魔力を持つて居るのである。所謂『社會の木鐸』と自稱して居るのであるが、其正體は正しく資本主義精神に基く無産階級抑

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

惡の道具に外ならぬ事は日々の新聞を眺めて見ても判り得るであらう。

亦、我々は一日、勞働の餘暇及休日に民衆の唯一の娛樂機關とされる、映畫、劇等を見ても何れ一つとして我等を喜ばしめる樣な作品がない。否寧ろ、嫌厭と反抗心とを激發せしめる。何故なら其處には勞働者及百姓が、資本家の小伜や地主の野良息子に侮辱され、或は又時代劇とやらには專横極まる遊蕩武士共が百姓を虐め、斬捨御免等と云ふ人間性を沒却したるイデオロギーを宣揚する如き殺伐極まる觀念を吹込んでゐるではないか。或は近來、軍事劇等の如き政府の命を受けて『特別大興行』等と呼稱して戰爭を題材としたる軍國主義映畫等に而も觀客の大部分たる無產民衆は、否、無智蒙昧なる憐れむべき觀衆は此の自發的映畫を嬉々として觀、且それに對して拍手と淚をさえ催さしめて居るではないか。吾等は唖然として云ふべき言葉をさえ發見しない。吾々は彼等無智なる觀衆に對して憫殺するよりも寧ろ腹立たしさに泣きたくなる位である。而して愈々、ブルジョアイデオロギーを吹込められ、かくて晝となく夜となく、再搾取に苦しめられつゝあるのである。

結論、プロレタリアイデオロギーの把握

資本主義最後の段階たる資本帝國主義は今や世界を席捲し嵐の前の靜けさに似た不氣味な氣を釀成しつゝある。而して對外的に第二次軍備縮小會議開催の如き平淸盛式——外に袈裟を着け內に鎧を纏ふ——の極めて御目出度い軍備縮小を行はんとし又對內的には積極的に最後の總逆襲を全無產階級に叩き付けんと構へて居る。否今や我國に於ては其の鋒鋩は遺憾なく具體性を帶びて實踐されつゝあるものである。

『資本の攻勢』は益々、具體性となつて現れつゝある。而も我々、全無產階級は未だ此の殺到せんとしつゝある『最後の攻勢』に對して何等爲す能はざる有樣である。蓋し、我々の陣營の整はざるに先んじて一擧に粉碎せんとの魂膽であらうか。かくて漸次、各階級層に彼等のイデオロギーは浸透して行く。そして無產大衆をして資本制度の搾取網の外に出さしめず飽く無き不義の快樂を貪らんとしつゝあるのだ。

此の危急存亡の最後の段階に於て我々は徒に安閑としては居られない。而して最も必要と目されるのは總てのブルジョア觀念形態に對する辨證法的認識の批判力である。這は現存の既成教育に毒せられ、去勢せしめられた無智蒙昧の輩に於ては恐ろしい事であるかも知れない。而し、我々、無產大衆は是が非でも此の批判力を備えて置かなければならない。依つて總ての文化現象に眩惑することなく、又種々雜多の思想や觀念に惑さるゝ事なく我等の進むべき道をヘツキリと認識しその過程に勇往邁進しなければならないのである。かくて資本主義は花園に咲く色々な艶い毒草や毒の花に傳染する事なく、換言すれば自由主義思想や國家主義の如き又階級性と自惚れるデモクラシーの眞の正體を曝露してそのブルジョア性を白日の下に曝さねばならない。即ちブルジョアジーの現存する中はプロレタリアは永久にその姿を沒しないであらう。然し乍らブルジョアジーの姿のなくなつた時には被搾取者たるプロレタリアの姿も又無くなつて居る事であらう。我々のイデオロギーを確立せよ。無產階級唯一の辨證法的認識を把握せよ。かくて總ての中間的糟粕物を止揚し、ブルジョア觀念形態を完全に克服せよ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大阪市の勞働共濟會に
大反對運動を起せ
許す不可市立紹介所の有料化

永田繁澄

大阪市が昨年所謂勞働者救濟、特に失業勞働者救濟（救濟の意味らしい？）意味から官製の大阪勞働共濟會なるものが設立されたらしいが、その組織の中に勞働者が居るか否かと云ふに一人も居ないその共濟會の役員の顔振れを見ても市長だの、社會課長だの、助役だの吏員だの等々である。

彼等は如何にも吾々を救濟するかの如く見せ掛けて居るが、その實吾々の實狀等は全然知らない、所謂机上の勞働問題屋の寄り集まりだ。吾々を救濟と等は實に以て片腹痛い。

その共濟會なるものをよく調べて見るならば、稀代の惡法健康保險法と何等變らない位のものである。その仕事の一つ二つを拔いて見るならば、

一、醫療の疾病（負傷を除く）の爲め醫療を受けたる時は一日に付入院治療に在りては金一圓五十錢以下、院外治療に在りては金五十錢以下

二、保養手當疾病（負傷を除く）の爲勞務に服する能はざる時は休業一日に付金五十錢以下

三、分娩費　助産を受け分娩したる時は休業一日に付金五十錢以下

四、出産手當分娩の爲勞務に服する能はざる時は休業一日に付金五十錢以下

五、葬祭料死亡したる時は金二十圓以下

補償金　雇傭主に對し過失に依らずして財産上の損害を加へたる時は五十圓を限度とする損害賠償

即ち是れが共濟會の仕事なのである。一、二を見るに疾病の爲醫療を受けたる云々とあるが抑此の疾病なるものは如何にして起るか、取りも直さず工場の設備の不完全からである。最近の新聞に見るも、内務省の調査に依れば『職工の九割迄は總て呼吸病者である。此れは工場の設備が不完全であるから』と、已に政府ですらも工場の設備の不完全が吾々を疾病に陷らすと云つて居る位である。此の疾病の治療費を資本家が負擔せねばならぬと云ふ事は餘りにも明白な事實である。

然るに拘らず、その治療費を更に吾々に負擔せしめやうとは斷じて許す可からざる事である。醫療費に於ても然りである如く、葬祭、出産等にホンの涙位の金を出し、然して何の役に立つか、又補償金に於ても、已に吾々が資本家の金でも持逃げする事を前提として居る、吾々は更に云ふ、剩餘價値はその儘掠奪して置き乍ら、若しもの時に補償金を取る等は如何に資本主義の社會とは云へ、矛盾も亦甚たしいものである。

斯く考へて來るならば、大阪市が如何に資本家共に忠實に××振りを發揮して居るか、勞働者救濟とは只ツ赤な嘘で救濟とは窮乏であると云ふ事が餘りにも明白な事實である。

而してその加入方法たるや之亦驚かざるを得ぬ、吾々にして若し不幸にして失業でもしたら必ず一度は紹介所の門を潜るであらう彼等

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

等は茲に着目して、斯うした失業勞働者を相手に一圓五十錢共濟會一ケ年分會費をフンダクルのである。希望條件が一致しても彼等は共濟會に加入せねば紹介はしないと云つた調子である。失業勞働者——紹介所の門を潜る勞働者に——大枚一圓五十錢ナンて何であらう。一圓五十錢あるならば、又何とか喰ふ事が出來るではないか、然るにそれがなかつたら紹介しないと云ふに至つては、そんぢよそこらの口入屋と何等變る所はないではないか、茲に市立紹介所の口入屋化——有料化と叫ばざるを得ない。

而しその有効期間の條文に

加入當時の雇傭先を退職し又は休職となりたる時

はその効力は消滅する相である他の勞働者は別とするも、吾が印刷工に在りては一人の資本家に永く酷使はれる——搾られる——と云ふ者は稀であつて——でなく共資本家が勝手に解雇する——所謂飼ひ殺しと云ふが如きは全然皆無である。

失業した度毎に紹介所から一圓五十錢宛フンダクられるならば、無料——社會政策上——を標榜する市立紹介所に行く者の大なる脅威である。

而して弱者の所謂自治機關でも何處に、如何な手續をして支給を受けて良いものやら全然分らない。

斯くの如く、仰々しくも勞働者救濟とは全然虚僞であり、吾々を飽迄も資本家に盲從さす可く倒壞しつゝある資本主義を寸時でも支へんとするのが此の共濟會の全生命である。況してそれが失業勞働者を相手の者である、吾々は寸刻も俟たず直に此の共濟會加入拒絶加入者の脱退、給付額の増額、共濟會の管理權の獲得、のスローガンを掲げて大反對運動を起す可きである。

無暴も亦甚だしい此の共濟會の内面を暴露し、全無產階級の奮起を促し、特に大阪市の勞働者、失業者——共濟會加入者——の一大反對運動を起さんとする者である。

無產婦人の叫び

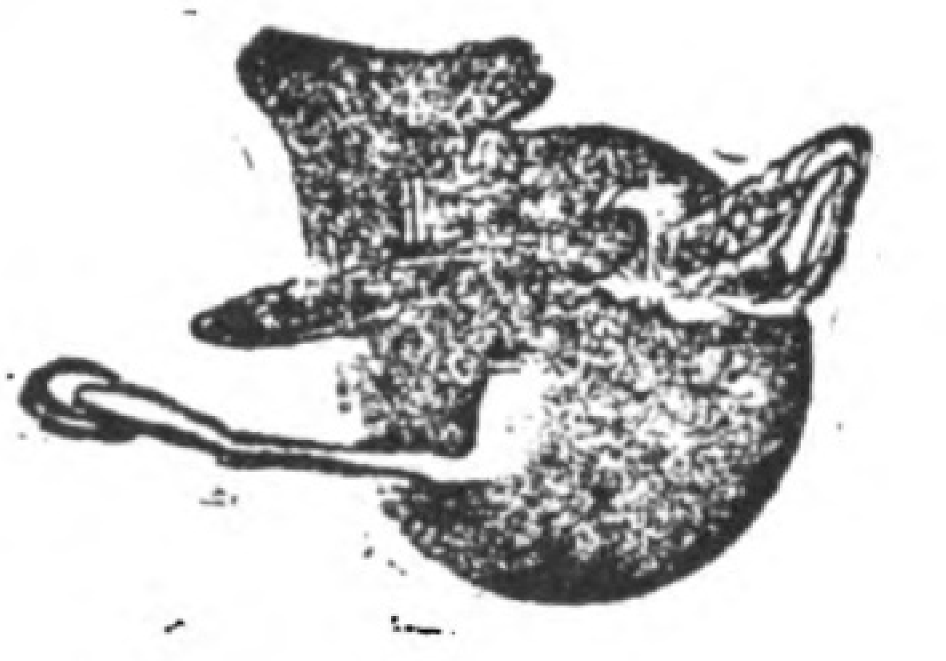
越後は地主王國と言はれてゐる事は今迄云ふ迄もありません。此の地主王國、殊に、私の郷、北蒲原は縣内で最も、地主對小作人の鬪爭の激しい所です。

私達は、貪慾飽くなき越後の地主と戰はなければなりません。今迄、私達はブルジョアから搾取されると共に、男子から家庭奴隷として虐げられてきました。然し、時代の進化は、水の流るゝ如く、何時までも私達を奴隷の狀態に置くことを許しません。私達は今日迄は、男子の力を頼つて來たが、最早、私達は、私達自身の力に依つて×××の第一線に起たなければなりません。

先年、木崎村爭議の時、女宗五郎と言はれ農務省に出頭して地主を糾彈し、社會の輿論を喚起せしめたことは、無產婦人の如何に×××に殉ずる精神の燃ゆるが如きものであるか?と言ふことを立證して餘りあります。

越後の無產婦人は既に目覺めてゐる。地主とは何ぞや?小作人とは何ぞや?と言ふことを明確に理解してゐます。私達は此の横暴な、封建貴族の如き擬態なる行爲を敢てし、小作人を窮状に泣かしめてゐる地主をして、××××××××××やうではないか。

（新潟縣　相澤雅子）



警部補殿に體現された國家

細野三千雄

（一）

警察官の没常識については從來色々な批難を聞く。私共の關知する範圍内では社會運動勞働運動といふ樣な、從來の行政警察史になかつた新しい社會現象であるだけに、此れを取締る警察官も隨分突飛な事を眞面目で仕てのけるのを見聞することがある。特に言論の取締に付いては或ひは聽衆となり、或ひは演者となりして種々の場面に遭遇するのであるが、臨監の警察官の素質の惡いのに出會つた最後、全く百年目である。自身演壇に立つた場合に、「辯士注意」「辯士中止」を受けた事は少いが、友人諸君がそう云ふ命令を受けた時など、演壇の裏の辯士席で聽いてゐて屢々考へさせられる事がある。そして、臨監の警官が如何に教養の足りない者であつても、兎も角あのスジの入つた制服制帽を着た人間が「注意」なり『中止』なりを命ずれば、それがどんな没常識な命令でも、それは背後に國家權力を背負つており、從つてそれは國家の命令であるから、服從しなければならぬのだと思ふと、飛んでもない國家もあつたものだ、もし國家に靈魂があれば、これを聞いて何と感ずるだらうなどと考へることがある。東京はまだよい、地方へ行くに從つて制服制帽に體現された國家殿の素質が惡くなつて、可成り演說馴れのした友人などでも、何を如何にしやべるといけないのか、とんと見當もつかず、思はぬ處で中止を喰つて不覺をとるのを見ることがある。東京よりも地方、そして臨監も警部よりも警部補の方が、没常識なのが多い。彼等の命ずる注意、中止で、その全部が全部没常識だといふわけではなく、私は可成り警官の立場に立つても考へては見るのか、彼等を理性ばかりの國家としてのみ觀察するわけではなく、同時に血もある人間として見て、此の取締りは已むを得ぬだらうと思ふ場合もあるが、どう考へても、どう眞面目に見ても承服出來ない不當な取締りも可成り澤山見聞してゐる。

（二）

（一）言論自體よりも演說者その人で取締を甲乙にするのがある。臨監の警官がその演說者をよく知つてゐる場合に多い。平常あの人

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

間は温和しいと見てとられてゐて、又今まで二三回演說したが一度も特に制止を必要とする樣な不穩な言說もなつたと一度相撲が定まつたら占たものだ、その後その人がどんな不穩な言句を吐かうが、一向木戶御免だ。處がこの反對の相撲をつけられた男は災難である。どんなに注意して喋つても、若干の時間さへ經過すれば、いきなり中止とくる。演說する者も馴れたもので、サッサと引き下がる。こんなのはまあ全然見も知らぬ國か、聞く人もゐない彼岸へでも行かない限り、口といふものは、ものを食ふ爲めだけの器官と諦めるより仕方があるまい。

（二）演說する人によつて取締を二三にせず、言論それ自體に就いて取締る場合でも、

（イ）具體的な事實を喋つてゐる間は問題はないが、一度抽象的に社會制度とか、財產制度とか所有權とか、云ひ出したが最後、ズバリとやられるのがある。平易な言葉で喋ることは總て穩健なことで、少々四角張つた言葉を羅列するのは皆これ、國家の基礎を危くする過激極まる思想だと解してゐるのがその場合の國家殿の頭なんだ。そしてかゝる場合、聽衆はと見てあれば、某地主が某月某日、某處に於て何々の事實があつたといふ樣な具體的な事はよく判るが、社會制度がどうしたこうしたといふ樣な抽象的なことは馬の耳に念佛のチンプンカンプンの田舍爺婆なんだから益々以て面白い。

（ロ）反對に具體的な事を云へば云ふ程、臨監の御機嫌斜なる場合もある。友人A君は曾て、東京の丸の內三菱銀行の建物の結構壯麗なること、夜になると、その建物の石の上に勞働者がゴロ寢せることを說いて中止を喰つたことがあつた。貧富の對照を目前に彷彿せしむるが故にといふのがその時の中止理由であつた。こう云ふ先生にかゝつちや、とんと不得要領な駄ボラでもふいてゐれば間違ひはない。友人A君は今春某縣で震災手形法案はとうとう議會を通過したと喋つたら中止となつた。虛僞の事實を發言するからと云ふ理由である。これが每日日本字で書いた新聞の行き渡つてゐる某縣の出來事だからね。此の國家殿は其後警部に昇任したとやら云ふから末恐ろしい。

（ヘ）地主又は資本家を攻擊するのは如何に具體的でも、全然放任するが、一度官憲特に警察の批判になると、全然口の開けない場合がある。惡地主を罵れ位のことは農村青年辯士の常套語だから、問題外としても、某々地主を××せよといふ樣な事を云つても我輩は聾であると云ふ樣な顏をして、臨監殿はソッポを向いてゐる。聽衆や司會者の方が、冷汗をかいて微苦笑してゐる。然し、筆者は此取締方針に實は感服してゐる。此時だけは見上げた國家殿である。地主に對する惡感情が、こうした青年客氣の辯士が思ふ存分鬱氣を拔くことによつて、どれだけ緩和されるかは蓋し餘想外なものがあるだらうと思ふ。苟くも國家としては斯く迄の心構へがなくてはならぬ筈である。然し此國家殿も話が官憲の事になると、國家の衣をぬぎ棄て忽ちにして、神經過敏なる一個感情の動物と化せられ給ふ。特に言一度警察關係のことに說き及ぶや、彼の頭腦は剃刀よりも銳く、婦心よりも纖細に活躍し始める。と云つた處で筆者はこれ亦當然だと思ふ。制服制帽を帶したればとて、如何に國家を體現したればとて冷血動物の如く冷やかに、理性ばかりで取締れと要求するのは、要求する方が無理を求めるのだ。臨監する者も人間である。面前にだて自分の屬する警察署なり、同僚なり、上司なりを批評せられて默視出來ないのは當然である。處が筆者が云ひ度いのは、反語的に、若

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

しくは諷刺的に、演説されてゐる場合のことである。例へば、言葉の上に於て警察は公平なりと演説者は滔々懸河の辯を振つてゐる。然しもその意たるや、その場の情況上、明かに警察は不公平なりと大聲叱咤してゐるのだ。演者にその意思あり、聽衆亦此れを理解し、總ての聽衆の面上には冷笑浮かび、總ての視線は國家殿の上に注がれてゐるにも拘らず、警部補殿は寛大にも――無神經にも聞き流してゐる。或は演説者は犬の話を微に入り細を穿つて論じ、聽衆は大向ふからワンワンと彌次り、其場合巡査が犬に諷刺して論ぜられてゐること一點疑ふの餘地なきにも係はらず、演者は無事演説し終ることもある。

(ニ)説かれつつある思想そのものよりも言葉の末に拘泥する臨監がある。多くは經驗淺く、金モールの光り新しき新米の警部補殿である。彼極めて職務に忠誠にして、演説の一言一句をも聞き漏らすまじと聞耳を立て給ふ。壇上の人は説き去り説き來り、最後の勝利の日は近付いた。我等は此の固き團結の力を以て極惡資本家何某を――と説き及んだ時、次いで出で來る言葉は「やつつける」又は「葬る」であらうと豫想した臨監は、佩劍の柄に力を入れて云ふや遲しと待構へられた次の瞬間、壇上の人は「何某を我等の正義の前に屈服せしめねばならぬ……」と言葉巧に論旨を進めて仕舞ふ。

(ホ)一歩進んで、更に職務に忠實な臨監殿は、何等不穩の言辭なきにも拘らず、多分不穩なことを云ふだらうと想像して、云はぬ前に中止を命じて仕舞ふのがある。云はぬ前から云ふことが判るといふのだから頭腦明晰後世恐るべしである。尤も筆者が警官であつたならば、云ひ分はある。臨監するのは不穩の言動なからしめるのが目的である、喋つて仕舞つた後になつて注意し、中止しても、無駄である。だから喋らぬ前に注意し中止するのだと。かゝる場合警部補殿は理性による判斷力で、何を喋るかも豫知するのではなく、感情でそれと察せられる。然もいたましくもそれは的外れが多い。壇上の人も、憤慨する前に憫然の情を感ずる。友人M君は自由法曹團より派せられて、某縣に赴き挨拶の言葉に「自由法曹團は官憲の横暴や」と云ふより早く中止となつた。M君の意や蓋し同團の趣旨は官憲の非違横暴を糾彈するに在ることを説かんとしたものである事は明かなるに、臨監は某縣某警察署の横暴を糾彈すると説明するものと早合點したものである。筆者は總ての聽衆と共に此の中止を聞いて、某縣某警察署に公憤をはばかる如き非違の行爲あることを反つて確信したものであつた。此の中止は正に一語最も雄辯にそれを物語つたものと云つてよい。筆者もその際其警察の言論取締について「警察に一言」(希望を述ぶる意思にて)せんとせしに、臨監は「警察に一言」惡口又は批判あるものと獨り合點して即刻中止を命じた。目下爭議中のF縣I炭坑の先日の出來事である。

(ヘ)某日某處に於て「葬る」と云ふ言葉を辯するや、臨監は突然辯士「葬ると云ふ言を説明せよ」と命じた。此んな妙な取締に遭遇したことは初めての辯士は面喰つて壇上に目をパチクリして臨監を見たまま、暫らくは言葉もなかつた。「説明が出來なければ中止を命ず」と來た。蓋し「葬るとは屈服せしむる意であつて、殺す意ではない」とでも釋明すれば事は無かつたのであらう。A君は雄辯に論じ來つて、「諸君、最後は此の力だ」と云つてたくましい握り拳を突き出した。臨監は又もや説明を命じたので、「早速これは團結を意味する、腕力を意味せず」と釋明して今度はパスした。斯ういふややこしい取締方もある。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

ブルジョアの腦裡

間島辰男

没落過程にあるブルジョアジーは最近議會に於いて既にボロを出してゐる。そして選擧、出版法案で恥の上塗をなし飽くまでも濃厚な帝國主義色彩を出さねばならなくなつた。これは恰も毒虫の死に際に於ける蠻勇に似たものである。

所謂思想善導

ブルジョア意識に満てる總ての政策、(選擧、出版、小作、組合法案等々)を以てプロレタリアを壓迫せんとする一方又彼等は我國の青少年に對して所謂思想善導、精神教育、國家思想等の毒々しい美辭麗句をもつて反動思想の普及に汲々してゐる。又一方では無料入場の芝居をやる。即ち、三黨首受難劇、政權たらひ廻し劇、幾百流血劇等々。

あゝ！×××等よ、お前等の總ての陰謀が永遠なる汝の薄弱たる事を知らないのか。

ブルジョアは軍事教育を説明して曰く「軍隊訓練」と「精神教育」の爲めだと言つてゐる。そしてこの所謂「精神教育」の中毒症に罹つてゐる現在の學生その他青少年に對しては今度は又、思想善導なる美名の下に反動思想を普及しやうと焦つてゐる。

彼等は又、社會進化の法則の客觀的認識であるところの、科學的真理に基づけるところの總ゆる思想、行爲を抑壓しやうとするのだ。政治の根底たるべき社會科學を蔑み又敵視してゐる。そして彼等は自己の權力的暴威をもつて、眞理を探求せんとする善良なる學生その他の青少年をブルジョア意識圏内に引き入れやうとするのである。

然し學生等よ、青少年等よ、ブルジョアジーの側に立つか？プロタリアートの側に立つか少くとも思想上に決定しなければならぬ。即ち、社會進化と人類進化の方向に沿うて進むところの階級的利益を追求するところの進歩的階級の味方となるか又は社會進化、人類進化と相容れ難き階級的利益を追求するところの保守的反動的階級の味方となるかを思想的に決定せねばならぬ。言ひ換ると、壓制と搾取と暴力と貧乏との根源たる制度に對して闘爭する黨派と共に進むべきか、之等の人類の諸害惡の根源たる制度を擁護維持せんとする黨派と共に進むべきかを、少くとも思想的に決定しなければならぬのである。

「思想善導」「精神教育」等の美辭はプロレタリアートに對する毒藥である。我等は、ブルジョアジー意識を撲滅しなければならない。如何に×××が壓制と迫害を與へやうとも我等の意識は微動だもしない。×××は現代の階級社會を改造するより以外に、プロレタリアの解放運動を撲滅する方法をもつてゐないのである。治安維持の名の下に、没落期に近づける資本主義は最後の蠻勇を振るふのである。

見よ！ブルジョアジー等よ！和本若草の如き新興勢力の擡頭を。「風雨霜雪過ぎ去つた後、一樹花開き萬樹春となる」と。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

朝鮮總督府の出版物輸入取締

沒落期に於ける日本の資本主義は近頃に至つては旺に勞心焦思してゐる、殊にブルジョア政治の頑迷固陋無智は愈 顯著になつて來た。

一片の法令をもつて人間の思想を抑壓しやうとする、宛然、火事を見て劍を抜くと同樣である。

朝鮮總督府の×××共も本國の厳命に依つて朝鮮に輸入される出版物を厳重に取締るさうである。しかも何の理も知らないブルジョアジーの番犬共は、上の厳命を受て賢くも服從するのである。

そして表紙が赤、とも、又は内容の如何に拘らず表紙に社會何々とさへ書いてあるものは書物の如何に拘らず押收すると言ふ。

去る冬休みに歸鮮する學生が社會學の書籍を二三持つて居つたら早速××に取上げられた。如何に馬鹿であつても社會學の書物を危險視すると言ふのには實に開いた口が塞がらない程だ。沒落途上におけるブルジョアジーは、今恐怖病にかゝつてゐる。そして最後の斷末魔を振ふべ、、彼等に努力するのである。

何故に赤い表紙は惡いのか？又何の爲に社會と言ふ文字はそんなに怖いのか？既に理解に苦しむ程である。

眞理を探求する社會科學に對して、彼のブルジョア政治家が如何なる政策、法律をもつて權威と彈壓を加へやうとも、それは絶對に不可能な事である。

眞理は何處までも相對性である。ブルジョアの唱へる如き、絶對性眞理は存在しないのである。そして永世不變の道徳なるものも、この世には存在しない。

治安維持法、出版物取締法を彼等ブルジョア政治家達は、これがプロレタリアートを撲滅する武器と思つてゐる。

プロを殺すべき大砲、銃劍は正に之だと思つてゐる彼等の腦裡は何處まで馬鹿であり、頑迷な奴等であらう。

燃ゆる焔の中に如何に劍を振つても燃ゆるものは燃えずには息まない。火中に劍を振る者こそ哀れなれ！

自己の焼け死ぬべき運命を知らずとは。

朝鮮總督府當局者等よ！

總ゆる人間には隱たるものがある。そして記憶力も判斷力もあるのだ。如何に出版物の輸入を厳重に取締らうとも思想そのものは如何ともなす事の出來ないものである。

しかも必然的に擡頭して來るその新興勢力を撲滅するには、沒落途上にある、お前達の××は餘りにも弱いのである。日々に助長し益々基礎を固くしつゝある新興階級に對して、加へらるゝ無智なる壓制、迫害は我等の×××を増すばかりである。彈壓が加へられる程××の熱は昂るのである。

ブル等よ、聞け！

もう我等には所謂思想善導の注射も、國家思想の麻藥も何等の効をなさないのである。

そして、お前等の如何なる撲滅にも、迫害にも、決して驚かないばかりか、逆襲して勝利を得やうとさへするのだ。

茲に於いてか、ブルジョアジーの腦裡の錯亂せる如何にも闘へ、焦つてゐるブルジョアジーの事が可哀さうになつて來る。

我が戰士よ、同志等よ。

勇敢なれ、健鬪せよ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

全國的應援を受けつゝある

野々宮爭議に注目せよ

北本一造

「春宵一刻値千金」等とは詩人の寝言としか思へない。日畑にのびゝ小麥大麥。其時農村は病人を放つておいても、又乳のみ子の火の出る様な泣き聲もそつちのけで働かなければ食へなくなつてしまうのだ。雨の中にみのかさ姿、づぶぬれになつて土を耕す、田植の準備だ。苗代の世話――壯年と青年は勿論、女も老人も子供も不具者でも一家總出で働く。夜に日についで目が廻る騒だ。緑に染つた麥畑の上を吹く心地よい風も空にさへづる長閑な雲雀の歌も何のその、文字通りの不眠不休である。――麥刈りと田植と田の草取それが終れば稻刈りとその後始末、忙しい中にもうるさい産米檢査、そして稻を刈つた後は、又麥を蒔かねばならない。活動も芝居も音樂もなく強て娯樂と云へば年一回か二回かの村の鎮守祭の大神樂で濟ませ、一年三百六十五日が汗と疲勞で暮るゝば新しい年は又同じ單調多忙た土色の生活を繰返すために迎へられねばならないのだ。

ブルジョアの子供が海岸と別莊に暑さを避ける夏休みも、農村の子供に取つては亦、炎天下の草取りと足の甲に焼きつく、地熱の上の勞働の爲めに旅行の時間を與へられる休みに外ならない。農村の生活は、大人にとつても小供にとつても、誠に暗い單調の多忙な生活だ。

こうした生活の吾等小作人が遂に年貢米の減免要求をしたならば、地主は、地盗は、なんと云ふか。吾等は食へない爲め、働いても生活が出來得ない爲の要求に地主は此れに應じない。それどころか吾等小作人を此の耕地から離るべく否要求する小作人には田を耕作せない様な實に惨酷な非人間的な行爲を敢てする地主は「大阪府下三島郡宮島村野々宮の地主である」記せよ！天下の小作人諸君よ！野々宮村は小作人卅四名其家族が餓死せんとしつゝある。悪地主西川太郎外四名は土地耕作を禁止しあらゆる權力を持つて攻勢しつゝある。小作人は日本農民組合を根據にし、餓死するとも**戰ふと云ふ**覺悟込みだ。三十四名の全別反を**立入禁止**三回に取つてしまひ、今は野々宮の小作人は一反の田一畝の畑もない。骨をけづつて土を掘り返した報償は借金ばかりだ。

近所の村々からは同情米が來る、同情金が送らる、將に餓死せんとする野々宮支部が先々月火蓋を切つた彼の大ストライキ**郵從爭議**に際し、同じ無產階級である・同じ血肉を分けた兄弟である、郵司同僚の方々を五十餘人其苦勞せる、生活も打ち忘れ茲に喜んで迎へた事は遂に類なしにま見る事の出來ない、吾等無產階級の一大**模範**的行爲であらねばならない。

諸君よ！　諸君は農村生活のどん詰まりを之以上々の苦しみを體驗して知つて居るだ。其の諸君が、若し眞面目に將來の[illegible]全人類の[illegible]を考へたら、其處に諸君は[illegible]らしい使命を發見するであろう[illegible]の科學的搾取に依つて吾等の×××××××××を進むるに依つて、農民と勞働者の自由の新社會は、やがて止むなき鬪爭によりて建設されるであらう。諸君の兄弟を救ひ、諸君、自らを救ふ爲に、失はれたる田園生活の清純なる空氣を呼ひ返す爲めに將に餓死せんとする野々宮支部を應援せよ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

進め特蒐・革命歌

××歌

（「アムール河」の譜）

一

[illegible]

二

[illegible]

三

[illegible]

四

[illegible]

I・W・W 赤旗の歌

一

[illegible]

二

[illegible]

三

[illegible]

四

[illegible]

五

[illegible]

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會主義の歌

明治三十七年十二月平民新聞第五十六號より拔萃

一

富の鎖を解きすてゝ
自由の國に入るは今
直しき清き美しき
友よ手を取り起つは今

二

山をもい抜く大力に
天地もどよむ聲あげて
歌へや讃き愛の歌
進めや直しき人の道

三

迷信深く地に入りて
拓くに難き荊道
毒言辛く襲ふ共
毒手苦しく責める共

四

我等は常に大道の
ソシアリズムに捧げつゝ
[illegible]むは近き今日の[illegible]

五

望むは遠き世の光り
[illegible]
國と國とは攻めげども
我等は常に同胞の
四海友なる天の民

六

頼むは結ぶ手の力
醫すは高き義の心
富よ力よ地を占めて
よし今獨り荒ぶるも

七

滴る汗に誠あり
打振る小手に命あり
行かで止まめや此の歩み
成さで止まめや此の叫び

××歌

（「一高寮歌」の譜）

一

[illegible]

二

[illegible]

三

[illegible]

四

[illegible]

五

[illegible]

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

[illegible]

六

[illegible]

七

[illegible]

露西亞虛無黨歌

（「一高寮歌」の譜）

一

[illegible]

二

[illegible]

三

[illegible]

四

[illegible]

五

[illegible]

六

[illegible]

七

[illegible]

八

[illegible]

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

[illegible]
[illegible]

九

[illegible]
[illegible]
[illegible]に[illegible]
[illegible]
[illegible]の天[illegible]の
[illegible]の[illegible]を合[illegible]

一〇

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]に[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]

××歌

（「マルセイユ」の譜）

[illegible]
[illegible]
[illegible]を[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

水平歌

（「一高寮歌」の譜）

一

[illegible]の[illegible]
[illegible]に[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]に[illegible]

二

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

三

[illegible]く[illegible]
[illegible]も[illegible]

[illegible]
[illegible]に[illegible]
[illegible]

四

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]に[illegible]

五

[illegible]に[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]への[illegible]
[illegible]

六

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]手を[illegible]
[illegible]

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

七

[illegible]

學生社會科學聯合會會歌

（「赤旗」の譜）

一

[illegible]

…共に…

（折返し）

[illegible]

二

[illegible]

三

[illegible]

四

[illegible]

五

[illegible]

農民××歌

（「一高寮歌」の譜）

一

[illegible]

二

[illegible]

三

[illegible]

四

[illegible]

五

[illegible]

[illegible]

テロリストの歌

（「ワシントン」の譜）

一

[illegible]

…るテロリスト

二

[illegible]

××××[illegible]

×××××[illegible]

三

[illegible]

××××××××××[illegible]

ギロチンの歌

（「馬賊の歌」の譜）

[illegible]

一、[illegible]

二、[illegible]

三、[illegible]

四、[illegible]

五、[illegible]

六、[illegible]

七、[illegible]

八、[illegible]

九、[illegible]

一〇、[illegible]

一一、[illegible]

一二、[illegible]

一三、[illegible]

一四、[illegible]

一五、[illegible]

一六、[illegible]

一七、[illegible]

一八、[illegible]

一九、[illegible]

二〇、[illegible]

二一、[illegible]

二二、[illegible]

二三、[illegible]

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

二四、[illegible]
二五、[illegible]
二六、[illegible]
二七、[illegible]
二八、[illegible]
二九、[illegible]
三〇、[illegible]
三一、[illegible]
三二、[illegible]
三三、[illegible]
三四、[illegible]
三五、[illegible]

（了）

インタナショナルの歌

立て！呪はれしもの！
立て餓へたるもの！
正義の焔は
今こそ燃ゆる
過去をば捨てゝ
奴隷よ　立て！　立て！
世は覆へる
無より總てに！
此の戰ひに
集へよ！　明日は
インタナショナル
吾等がもの
此の戰ひに
集へよ！　明日は
インタナショナル
吾等がもの

農民歌

（「あゝ王杯に」の譜）

一

あゝ鋤鍬を友として
生きんとし生ける農民は
此の世の糧の生産者
寒暑いとはず野に出でゝ
働く我等の血と汗を
搾りて生くるは何奴ぞ

二

身惜まず懸命に
土に耕し土に生く
働く我等が血と汗を
搾りて生くる地主等の
不正を懲らす農民の
天に轟く意氣を見よ

三

我等今より自覺して
理想の社會を築かんと
農民組合組織して
横暴極まる地主等の
頑迷不戻の地主等の
壓制不義を打ち破れ

メーデー歌

（「アムール河」の譜）

一

櫻も散りて貴人等が
榮華の夢の覺めし時

進め

青渓の風の返り来し
プロレタリアの記念祭

二

人類文化の柱なる
この双腕をさし伸べて
天下に示せ我々の
意氣と希望と友愛を

三

暴虐無道の資本主義
迫る使命は我にあり
友よ今日の日諸共に
堅く奪はん自由權

四

あゝ今日の日は萬國の
同志の意氣は天を衝き
敵の牙城に迫るらん
飽かなれた同士等よ

五

あゝメーデーは何の日ぞ
世界の敵の恐るゝ日
世界の味方の祝する日
正義の赤旗ひらめく日

勞働歌

一

貪婪飽くなき資本家の
腕の手は永く勞働の
精華を奪ひ貪りて
根幹堅き資本主義

二

天地も許さぬ暴虐に
虐げられし勞働者
以前は[illegible]よう
恨みは深し幾世紀

三

起て勞働者奮ひ起て
資本の砦陥れ
我が手に巳が生産を
奪還すべき時は今

四

起て勞働者奮ひ起て
永き此の世の不合理を
一擧に屠り打ち立てよ
勞働自治の新社會

牢獄の歌

晝でも夜でも牢屋は暗い
いつでも鬼奴が窓から覗く
覗ことまゝよ塀は越されず
自由に焦れても鎖は切れず
あゝ此の重たい鐵の鎖よ
あゝ見よズタ〳〵に引き裂け千切れ
如何に仕様とて籠の鳥よ
あゝあの鬼奴が休まず見張る
あゝこの肉體なるよ
泣いたとて笑つたとて世はさま〳〵よ
陸の果には海がある白帆がゆくよ
涙を枕に獨り寢の旅でも
日も照り月もさす風奴が撫でる
自ら繩なひ自ら縛る
獄は獄に暮して行きやれ
自由の足枷[illegible]の鎖よ
あゝ見よズタ〳〵に引き裂け千切れ
あゝこの肉體なるよ

附記

以上に掲げたものは、凡て一般に唱はれてゐるもののみであるが、未だ此の他に、多くの革命歌、勞働歌、戰鬪歌が作られてゐる。然し、それは今日の檢閲制度の下に於いては到底許さるべくもないから、其の代表的なものだけを、公にした。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

戯曲

素地を作る（一幕）

佐根泰郎

現代＝南國農村の一小學校。
ＡＢＣ＝敎師（Ｃは女敎師）。Ｍ（村の青年）。
査公、（駐在所）。

舞臺＝勅語奉讀臺。實驗器具書籍等を入れた大きな棚箱を背景に丸テーブルを圍んでＡＢＣ雜誌に讀耽つて居る。古風な椅子が四五脚傍に積まれてあり。これは放課後の敎員室である。
和服姿の査公戶籍簿を抱へて登場す。ニヤ〳〵と笑ひ乍ら持前の愛嬌を見せる。

査公『ヤア、今日はね、彼の內へ監視に行つたのだ、彼に悟られまいとこれを持つて隣家を一巡して來たのさ』
　と戶籍簿を示す。

Ａ敎師「ハヽ……仲々活動ですね、與へられた職務に對し誠に忠實だね。それでなくちや僕等が幾等敎壇で喋つても駄目なんだ僕等は唯六ケ年の間にソノ地拵らへをする丈けのもので如何なるものが建つかそれは君等の責任だ否要するに兩全を得てイヽ者を造り上げるんだね。怎うですか」

Ｂ敎師「Ｍ邊りに何が判るもんか不平を並べるに過ぎないんだ。幾等宣傳しても靑年は動きはしないよ。」

査公「イヤ君最近怪しい點があるのです縣下で結社を造る心算らしいよ。同志の人々と聯絡を取つてね村の靑年も大分に彼に贊成な樣子です。」

　Ｃ女敎師落付いて三人の話を聞く、緊張した態度。

Ａ敎師『困つたもんですね。村の靑年が彼に共鳴したつてそりや大變だ。今度の總會には詰問し忠告し樣。君が臨席して吳れ給へ。」

Ｂ敎師「主義だ思想だなんて彼等が騷いだつて僕等が敎壇にゐる內、君等のサーベルの光る內は、天下泰平だ。大和魂の帝國だもの外國とは柄が違ふよ。然しまあＭには村の靑年を近付けさせない樣にすることですね。總會の折り僕が嚇かしてやる。何度お灸をしてやる。」

査公「不滿不平を並べる前に働けばよいのに圓滿に行けるんだがね稼ぐに追付く貧乏なしであんなことは怠け者の云ふことだね。よく注意して吳れ給へ。夜學の晚、總會の時は充分に說き聞かせて吳れ給へ。今度の總會には僕も出る。」

Ａ敎師『靑年には必ず村田氏の出して居る『使命』か『希望』かを讀ませることにする。各自の一ケ年間の誌代を纏めて僕が送ることゝする」。

B教師『世の中を平等とか一世帶とか共有にせよとかつて其んな事が出來るもんか。馬鹿な考へを持つもんだね。』

A教師『よし出來たとしてもそんな社會で働くものはなくなる。働くものだけ馬鹿だからね。丸で盗棒達の言葉だよ。』

女教師美しい瞳を上げて靜かに、

『あなた達の云はれる樣なもんでしたら政府も恐れなくてもよいのにねえ、主義者の爲めに、莫大な經費が使はれて居るぢやありませんか。』査公變な眼付で頓狂な聲、

『そりや彼等の思想は怖くないが行動が怖いのだ。彼等が捨身で掛るのが怖い丈けだ。』

女教師『捨身それだけ眞劍なんです自己の信念に對しては勇敢なんですよ。貴下等の中にはその職務に對して眞劍なものがどれ丈けありませうか?主義者や思想家は益々出來て來る許りです。殊に大學教授や學生達に多いではありませんか。本縣の1男爵の息子さん迄りみなさい智識階級に多いですよ。頭の良くないものには判らないんだよ。』

A、B、査公三人氣に喰はぬ態度で、

A教師『あなたは急進派ですね。主義者的氣味がありますよ。』

B教師侮り顔に『今醸成中よねえ——全くM黨だよ。M君贔屓だよヘツヘツヘ……』

査公何か考へるらしく默る。

その時M青年登場す。皆狼狽て靜まり調子抜けな樣子。M青白い顔で一禮して傍の椅子を引寄せてかける。

査公『さつきは失禮』

M意味ありげに

『イヤ戸籍調べ御苦勞です。すみましたか。』

査公『今この三名を記入して居る處です。』

戸籍簿を擴げる

M、A B C教師を見廻して、

『今度の青年總會には雄辯競技もあるつてね。』

A教師『やります。皆眞面目に掛つて居ります。餘程練習が積んだからうまくやれると思ひますが。』

M『それにせよ、演說は態度が第一ですね。稽前に掛らなければいけないね。が然し早口の稽古よりはその云ふ所の内容が大切だ。』

B教師『内容は彼等自身では作れないから僕等が作つてやるのだ。空讀の練習だよ。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

M『一昨晩から僕の内に集まつて、暗誦の稽古をして居るが、皆うまく覺へたらしいです。僕もね、一寸内容を補足したり、改作したりして彼等に練習をしめてゐます。』

A、B、査公一齊に吃驚りして、

『エツ毎晩君の處へ集まつて居るんですか！』

M『そうだ。仲々若い連中であるがよく判つて居ますよ。僕の書籍や雜誌を面白がつて讀んで居ます。あの雜誌の讀者になるでせう』

益々驚く

AB査公『……』

『そんなに驚かないでも良いんだよ。別に惡い事はしないからね。あの雜誌を讀むのが當然な行き方ですよ。あれを排斥、批難する人達こて不自然な判らずやです。見給へ、村の状態を！生活の安定を得て地味に百姓をやつて居る者が幾人あるか、その八割は貧乏ぢやないかね。小學六ケ年をすめば大底子守りや大工や工場へ行くではないか。十七八歳が來れば、長男も次男もなく離村し都會へ行く。この原因は君等には判るまい。只教育制度や警察制度が不備だ位に思つて居るのだらう。君等が僕等を笑う樣に僕も又君等を侮蔑するのだ。始終資本家共の忠實な機械として働いて居るのがだ。要するに自分の思ふ處、信ずる方向に動くのは各自の自由だ。まあ思ひ〳〵に進み給へだハツヽ』

A、B、査公、啞然たり。

C女教師、獨り微笑む。愛人にでも會つた樣な表情で、

『判らず屋の多い世の中だから困りますネ。私達の職は實に罪惡の極です。この儘では非人道的な仕事としてをはるより外ありません。私は教壇に立つて生徒に向ふ時悲しくなります。本當に未知數のもの丶新芽を出けるのだと思へば。現實が苦しいのです。機械的、冷血的なこの生活を嫌でなりません。（半ばMに告げる樣に、半ば獨りで叫ぶ樣に。）

その時、隣り教室から『萬歲萬歲』と生徒の叫聲が擧る。

AB教師驚いて立揚り、

『マダ歸らずに居たのか。しまつた！馬鹿』

荒々しく教室へと舞々を去る。

査公怒氣を含んでブルブル震へて居る。

M、女教師、冷然と笑つて居る。

『萬歲々々』又叫聲擧るA、B教師の怒號と共に。査公怒り顏で キヨロ〳〵と邊りを見廻しMと女教師を睨む。又『萬歲萬歲』の聲擧る。

……幕……

創　作

冬のルムペン「彼」

岡本壽夫

今日も又とうとうあぶれてしまつた。
三日目だ。

まるきり仕事が無いと云ふわけでもなかつたが、彼にしてその仕事をすることは、なんだか只働きでもする様で、馬鹿々々しくてやれなかつた。馬鹿々々しいと云ふのは彼ばかりではなかつた。他の者も皆異口同音に何日もこぼして居る。

小石川のヽと云ふ地方の二階の十畳に、十六人からの若い者がごろついて居た。一人に一枚宛て渡された狭い煎餅布団の中に、身體をはみ出させない様にかしわ餅で行儀よく寝て居た。常に出入の激げしい此の種の生活の特色として、壁といはず夜具といはず垢とほこりで眞黒に汚れて室中でさえ臭氣に鼻をついた。

彼は晩飯も朝食も摂つて居なかつた。

昨日までは前に稼いだ殘りの六十錢で、一日一日は凌ないだものゝ、今日は一錢の金も無かつた。無一物だと思ふと餘計空腹はこたへて來るのだつた。朝小便に行つた時、水を呑んで歸つた切り、身動きもしないで、ぐつたりと寝るともなく目をつむつてゐた。

彼にはもう色んな事を考へる勇氣もなく、そんな事を思つて見るだけでも嫌だつた。

×

全くヒドイ仕事だつた。

朝は五時には必ず起きねばならなかつた。そうして一番電車の來るのを待ちもうけて小石川のY町から郊外の大崎中延まで七時にはきつちり着かなければならなかつた。けれども彼等は時間に遅れてはよく事務所の連中に文句を聞かされた。

それはツイ四五日前から小山大崎方面の電話架設工事の工夫の手傳ひ人夫だつた。工事もまだ始めたばかりなので本局から運ばれた柱の配置がおゝだつた。二八、三〇の切立ての柱は無性に重かつた。その上タールを塗られたブロクはかついだが最後頭から身體までベトベトの油で眞黒になつた、丁羅のハンテン丁羅のズボンの彼等には眞實に苦しいことだつた。新開地の急造道路は實に悪かつた。彼に付いて居る工夫長は邪

信省あたりに珍しい位理解にとんだ親切氣な男だつた。
晝食の休みも煙草の時間も充分に與れた。けれども夕方には申合せた樣に皆つかれてしまつた。
六時に仕事を終へて彼等が電車でつかれ切つた身體を宿に運んで來る時分は、どうしても八時になつてしまつた。
タイルに負けてヒリ／＼する腕を我慢して風呂をすませぐつたりと萬年床の上にくずれる樣に座り乍らその日の勘定をする事だけは決してわすれないで覺えて居た。

市内電車が割引往復九錢、
郊外電車往復十錢
宿料二十錢
風呂はどうしても五錢
一番電車の通る頃は市内の飯屋はどうせ開いた所はない。だから十錢で濟む所が郊外で十五錢かゝつてしまふ。
晝飯二十錢
夜二十錢
なんの慰安もない彼等は一箇のバツトがほしい七錢
入費合計金一圓六錢
手取出面一圓二十錢
　差引十四錢
淋しいことだ。
時には手袋も入る。
足袋も安くない。彼等がつく／＼そこを嫌がるのも無理がなかつた。だと云つてこの不景氣に仕事のない二月の月にどこへ行つたつて其日の飯代にさへ困る彼等には取りつく島もなかつた。

×

『飯を食はう』
そう決心し彼は寢床から起き上つた。そうして所々穴のあいた合せに尻切りの古ぼけたマントを着こんで、仕事の時外出の時も何時もかむる小豆色のさめ果たソフトに紙包を持つて宿を飛び出した。
まだとけ切らない夕方の殘雪の道はドロドロになつてゐた。板草履ばきの彼は、はね返るのもわからないで歩いてゐた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

紙包の中には、ダーキンの種の起原が入つて居た。去年極度の勉强と過度の勞働のために肺をそこねて淋しく一人歸つて行つた北海の友Mのかたみだつた。第一頁には所もあらうに印刷文の上に赤インクで麗々敷く彼れへ贈る旨が書かれてあつた。お定まりの文句ではあつたけれども彼れには懷しい思ひ出の一つだつた。

『濟みませんが幾何でも好から買つて吳れませんか』

彼れがこう云つて古本屋の店頭に立つたのはそれから十分程後の事であつた。主人はいやに物なれた男だつた。

『不景氣でてんで本も値が出なくなります。そうしておまけにペンでこんな所に落書してありますからね！

ま、よければ五十錢でなら戴いて置きませう』

ときせるを火鉢にた〻きつけ乍ら小さく笑つた。

いくらでもよいと云つた彼れは、しかし食はなければならない。彼れはしかたなかつた。

彼れは五十錢玉をしつかりにぎりしめて道のよい所をよつて靜かに歩いた。人一倍背の高い力のなさゝうなそうして薄汚い彼れの姿に言ひ合した樣に一ベツをし乍ら幾人もの男や女が元氣よく組をなして通つて行つた。

彼れの頭には飯の食へると云ふ樣な喜びも無かつた無論希望もなかつた。

ピプーーピプーー

豆腐屋の吹くラツパの音が黃昏の色の濃くなると共に消えて行つた。

×

俺は明日からきつと働く、働かなくてはならない。俺はどんなにしぼられても、どんなに嫌な仕事でも、喰ふためには生きるためには、――どうしても從はなくては、働かなくてはならないのだ。

『そうだ到達の日までは。そうだ到達のその日まではだ。大きな丼に盛られた牛めしの其の集團の山からはあの噴火山の炎の樣に白い湯氣がふき出して居た。

彼れは差出された湯呑でせわしげに箸をゆすいだ。

×　　×　　×

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

戯曲

ストライキ

下山利基智

第一幕　第二場

舞臺　靜かに幕開く。正面に署長の席、机所々に十ケ程配置してあり四周に保護鳥の掛圖、衛生に關する各種の統計表、警察署の管轄區域表等其他數種の掛物は帖られてある、

第一場に登場した巡査どやどやと室內に登場す。

各自の机に着く、或者は煙草を飮み、或る者は腕を組み合せて考へ込んで居る。やがて署長凜然たる態度にて登場す。巡査一同擧手の禮をとる。署長靜かに席につきポケットより手帳を取り出して一同を見廻し乍ら

署長「本日は先づ第一に之れから川田製絲會社の勞働爭議の警戒に出張しなければいけない。(やゝしばらく沈默)一同も承知であらうが、之の種の爭議は當地には始めてゞある。時代の思潮は之の素朴な東北に迄も押し寄せて來た。吾々は最も眞摯な態度にて之の勤に當らなければならない。そして彼等に少しでも不穩な行動者があつたなら、ヨウシヤなく檢束して差支ない。(一寸息を入れ口ヒゲをなでる)――・

丁度その時智識のある巡査が、やをら身を起し眞面目なる態度を保ちて、

智識のある巡査『署長殿……場所はどこですか。』

署　長『場所は?(ポケットから再び手帳を出して見乍ら)三五五番地　製絲會社工場附近である。』

すると又一人の巡査が起立して、

巡査一『署長殿!變な事をお聞きする樣ですが、彼等の斷行するストライキとは一體何に原因を發するのですか。』

署長驚きの目を見張る。すると又一人の巡査が身を起こして、

巡査二『署長殿！私達は何の爲めにストライキを防害せねばならないのです。』

署長益々惑きの目を見張る。又一人の巡査が今度は少し笑を含んで、

巡査三『署長殿へ申上げます――。吾々はお上の御飯を戴いて居ります。政府の命令は何でも致します。例へ火の中、水の中を潜ぐるのは承知して居ります。でも私達は正義を足踏みにじつて眞理を裏切る事は出來ません。私達も人です血が通つて居ります。私達は毎日〱正義の爲めに苦しみ乍ら内的には貧困と戰つて居るのです。署長殿！彼等の釜は――米箱は何時も空つぽです。服は汗と脊とにまみれて洗濯する暇もありません。署長殿！吾々は不正なる一會社の爲めに――例へどんな恩澤に預からうとも正義のストライキを阻害する事は』

丁度其の時、署長は堪えかねて『馬鹿！』破れ鐘の様な大聲を發すそして一同をにらみ付け乍ら、

署　長『――(憤怒の情を現はし)何故！ストライキを取締らないのだ。――吾々は資本家や、お金持が居なければ毎日の御飯を戴く事が出來ないのだ。――馬鹿奴！世の中の職工や土方なんて云ふものは皆國家の混蟲なのだ。――資本家やお金持が居ればこそ吾々も亦、人としてのお仲間入が出來て居られるのではないか。――それに――大膽にもストライキなんて――』

巡査五『署長殿！署長殿！それはあんまりです。無理です。――彼等は正義と眞理と――』

『そうだ彼等は正義と眞理を――』

署　長『默れ！僕の命令を尊重しないのか――』

巡査六『ハイ――署長殿承知致しました。之れから直ぐ現場へ參りませう』

一同拳手す。其の時室のドアーを開き、小使小さな紙片を持つて登場す――そして小使其の紙片を署長に示し乍ら、

小　使『只今丸三製絲工場長より使ひがお見えになりましてこれを署長殿にお上げして貰ひたいと云つてよこしました。』

小使云ひ了はると一同を見廻し乍ら退場す。室内暫く沈默――やがて署長紙片をポケットにしまひ込み乍ら、

署　長『――(いら〱した面持ちで)上官が改めて命令する。現場へ急行すべし！重ねて云ふが、不穩と認めた者は、誰彼を問はず直に送署すべし。――』

署長退場す。――一同の巡査も互に淋しく笑を浮べ乍ら退場す。

第二場了はり幕静かに閉ず。

第三場　工　場――大號へ――

×　　×　　×

戲曲

鬪士の家出

清水辰雄

梅太郎……………日雇人
榮　吉……………梅太郎の子
菊　枝……………同　子
三　郎……………同　子……大工の弟子
淺　島……………百萬長者
千代子……………淺島の一人娘
巡　査

日雇人梅太郎の家破れ障子にボロ疊正面に梅太郎菊枝火鉢を中に榮吉奥にて机に向つて居る

梅太郎　――榮吉や――一寸こいや――

榮　吉　親父何だ？　何に用だ

梅太郎　あの俺あいつも云ふ通り苦るしい〳〵でお前や菊枝を卒業さしたでなお前や私立でも大學生だでな俺あうれしいだぞ世間様へ大きな面が出來るだぞ

榮　吉　親父さまねえ隨分苦勞を掛た親父此れから少しや樂くも出來る様にするからな――

梅太郎　おゝ俺あこれこ最早孫子の顔でも見れば――又菊枝も年頃でな
（菊枝不思議さうな顔して二人を見る）

榮　吉　取越苦勞はまだ早いよ

梅太郎　餘り早くもないや早くしねいと菊枝は女だ惡い虫が附くでな

菊　枝　――（赤い面して娘らしく）――虫つて何？

榮吉　――

梅太郎　ヘヘ…（突然思ひ出した樣に）榮吉金はどうするんだ淺島の旦那の

榮吉　だから東京にやつてくれと云ふんだ

梅太郎　（にがい顏して）われ田舍に居てお役所に務める氣持はねえだか？

榮吉　俺は役所は大きらいだ俺は社會の爲め！　人類の爲めに！

梅太郎　われは社會主義者！惡徒！危險思想！過激思想！恐ろしい注意人物！俺あわれを學校へやる時に社會主義惡徒危險思想過激思想！になれと云はなかつたがあゝ恐ろしい惡徒だ！

榮吉　――

菊枝　親父には解らない今の若い靑年達にも解らないのが多いのだよ親父には無理はないよ親父兄さんは惡徒じやないよ此れから段々親父にもなるほどと解る樣にする心算だよ親父

梅太郎　いられえだ〱俺あそんな恐ろしい惡徒の云ふこと聞かねいだ……（泣き出す）

（やゝあつて三郎歸つて來る）

三郎　親父今歸つたよ

梅太郎　おゝご苦勞〱

三郎　（袂から金を出す）親父今日は仕事が出來上つて親方から祝儀をもらつたよ

梅太郎　こら五圓だねいか（驚く）

榮吉　給金はいつだ

三郎　まだ給料はないよ

榮吉　何に給料はない！働いて給料くれねい――ちえ――馬鹿らしい（腹立たしく）
明日から仕事など行くな！

三郎　田舍じや見習中はそれで通つて居たんだよ

榮吉　馬鹿！其つて通つて！

三郎　――――
前の家からけたゝましく「梅さんや隣村の病院まで至急なお醫者を向ひにな」）

梅太郎　榮吉どん聽いだか？

（前の家から――大變惡いだ苦しんで居るだよ）

梅太郎　榮吉一寸お醫者迎ひに行つてくるだぞ――淺島の旦那が來たら金は四五日もな待つ樣にな――

榮吉　あゝ心配ないよ親父夜になるから氣を附けてな

（梅太郎大急ぎに出て行く）

三郎　兄さん風呂に行つて來るよ

榮吉　うん

（三郎出て行く菊枝奥より紅色の封筒の手紙を榮吉に差出す）

菊枝　兄さん手紙？

榮吉　何だ？此れは

菊枝　女からさ幸福者だよヘヘ……（苦笑）

榮吉　――（封筒の裏書を見て）淺島千代子？金持の娘から――（不思議さうに開く）

菊枝　ラブレター――金持の娘――無智な女、血のない人形、白い首、手足、細い指のどこがいゝの？

榮吉　――（身顫をして）おゝ菊枝同志だ女の同志を得た、金持の千代子さんも――（殺氣立つた血走つた眼――菊枝の前に手紙を突出す――手を組んだまゝ考へる）

菊枝　――（突拍子に）ア、千代子さんが覺悟を！家出を！

（其の時表で戸をたゝく者がある）

榮吉　お入り……菊枝と二人きりだよ

菊枝　千代子さん！、（無人でも迎へる樣にして飛んで出る）あゝ旦那だ警察だ！

榮吉　警察？

巡査　淺島さんの娘千代子さんは來んか？

榮吉　來ません！あんな娘が何故僕等の所へ――

巡査　かくすなつ――

榮吉　失敬なことを云ふな！歸れ！

巡査　――

（その時あはたゞしく電報配達）――榮吉さんの家は？

榮吉　榮吉は俺だ（電報を披いて拳を握める）あつ――とう〳〵やつたな――

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

巡査　何だ？

榮吉　君等の知つたことでない！歸れ！（顔をしかめ歯を食ひしばつて出て行く）……菊枝洋服を出せ！

菊枝　電報は何？　どこへ急ぐの？

榮吉　ストライキだ！×××會社の同盟罷業だ！

菊枝　×××會計？

榮吉　早く出せ！早く

（菊枝奥へ飛込む表からはけたゝましく淺島飛込んで來る）

淺島　梅さん居るか？

榮吉　留守だ！金のことなら明日こい！

淺島　金はどうでもいゝ娘の家出だ！

榮吉　馬鹿！　貴様の娘の家出を誰が知つて居るか！

淺島　（うろたへて）――千ヽヽ千代子は居るか？

榮吉　何の用があつて來るか？

淺島　皆な！　貴様等の悪化だ！惡化されたのだ！

榮吉　馬鹿！　歸れ！貴様等は一歩〳〵死に行くのだ！我子の刄を受けて自分の子の爲め殺されるのだザマ見ろ！我々の社會は必然的に來るのだ！　貴様も早く生れ變つて來い！

淺島　うゝん――

（發狂したかの樣になき狂つて千代子〳〵と云ひつゝ出て行く菊枝榮吉に洋服を渡しかたはらの新聞紙に何事か書き付けて居るその時又もけたゝましく足音立てゝ千代子飛込んで來る）

千代子　榮吉さん――（息苦しくふうふう云つて居る）（戸外にてあはたゞしい自轉車のベルの音がするやゝあつて電報と云つて電報配達投込む菊枝急いで取上げて讀む）

菊枝　スグオヽエンタノムウナ

（其の時醫者を迎へに行つた親父が歸つたのか向の家に騷がするので驚いて時計を見る）

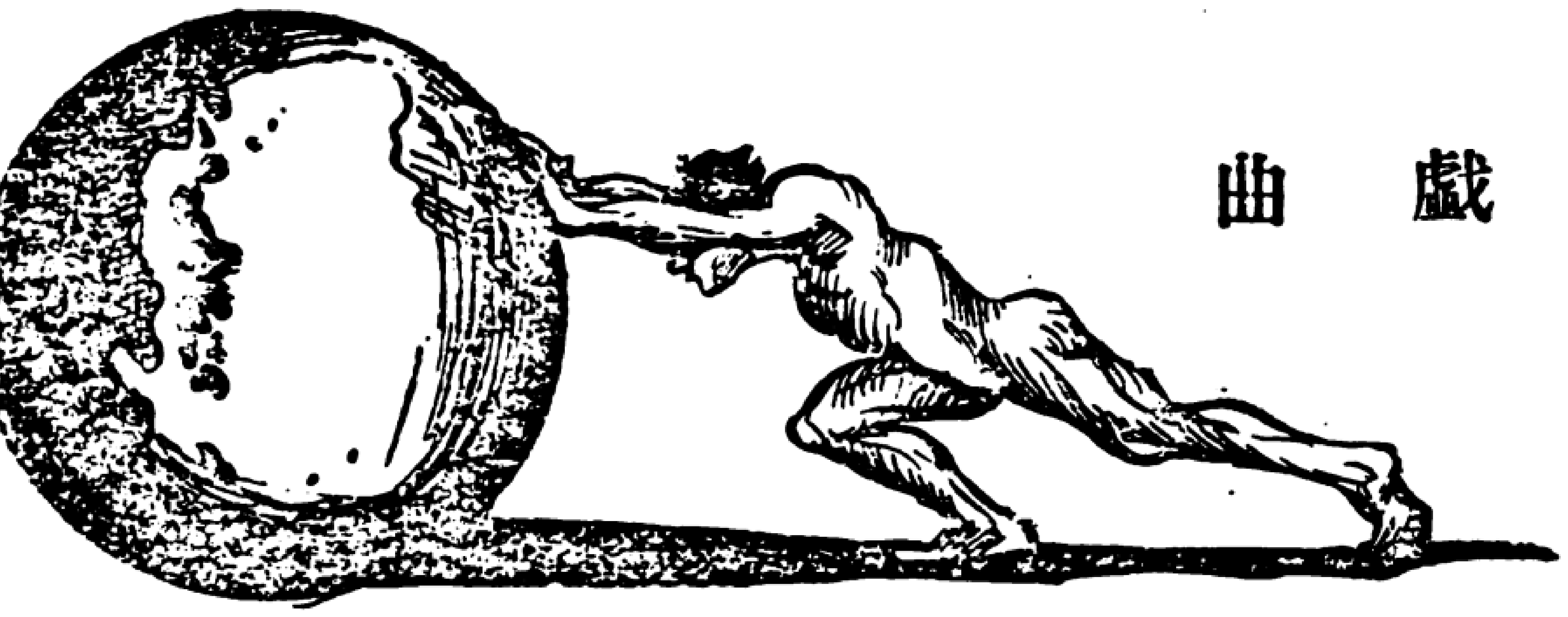
榮吉　おゝ親父が歸つた樣だ家へ來ん內に……

菊枝　發車まで十五分だ！

榮吉　さあ菊枝！千代子さん！行かふ――戰地へ××××××××は我等のものだ！

――幕――

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



戯曲

巡査と女給

吉田金重

(人物)巡査、A、B、C、番部補、D、カフエーの女給、E。その他、群集——。

(時) 大正七年秋の米騒動頃のある夜更け。

(場所)郡部によつた、市内の交番の休憩所の内部。

幕上る。一間四方ばかりの、箱のやうな休憩所の正面には外套や手拭なぞがだらしなくかけられてある。ぐるりの棚には、色んな書類が載つかつてゐる。それを五燭光くらいの電燈が、薄明く染め出してゐる。奥はやゝ高い疊敷、前は土間。土間の眞ん中に据へられた、不恰好な圍爐裡には、鐵瓶がかけられ、白い湯氣をふー〱吐き出してゐる。下手は扉のついた入口。

A。あゝ、すつかり酔つ拂つちやつた、ほんとうに金のある連中は、米騒動が起きるやうな、この不景氣も知らずに……(四十恰好の正服巡査が、入口をあら〱しく明けて轉げ込むやうに、そして、どつかり腰を投げ下し、)げえツぷーツ……

E。(エプロン姿の二十恰好の女給、入口からそーッと覗き。)まあ、Aさんどうなすつて? あのお客さん方は尋ねてゐらしてよ……

A。(兩手を差し出し、泳ぐやうな眞似をしながら。)も、も、もうまゐつた、Eちやんそれよかこつちお這入りよ、げえツぷーツ……

E。困つたお巡査さんね……(呟くやうに。)でも季節柄、お金持が享樂する用心棒は別だつて、おほゝゝ

A。な、な、なんだつて、Eちやん?

E。いゝえ、別に……(ふと氣づいたかの如く。)それはさうと、Bさんはどうなすつて? Cさんは立つてらつしやるやうだけど……

A。だ、だ、大丈夫だよ。(媚びるやうに眼を明け立ち上るやうすにて。)い、い、今に歸つて來るよ、さ、さ、さこつちへお這入りていふに……(手を取つて引きづり込まふとする。)

E。あら、いやだこと!(厭やつたらしく振り拂ひ。)妾お巡りさんなんか……

A。(くわッと眼を瞠き。)な、な、なんだつて、お巡りさんがいけねえのか! 巡査が氣に入らねえのか? 人民保護の任にある警察官を侮辱したね!侮辱を……

E。妾侮辱しないことよ、たゞあたり前のことをいつたゞけだわ……Aさんこそ、女給だと思つて侮辱なさいますな!

A。(成長高に。)な、な、なんだと、女給ふぜいが人民保護の警官に向つて!

(二十七八恰好の正服巡査Bと、同じ三十五六恰好のCがつれ立つて這入つて來る。Eはものいひたさう、Bの顔をちらり竊見しながら、身體をもじもじさせる。)

C。さあ、時間だよA君……(時計を見ながら。)僕はこれから警邏だ、ちや、A君頼んだよ、早う行つて立たないと、D警部補が廻つて來る時間だから……(BとEを流し目に。)Eちゃん、ゆつくり遊んでお行き。(出て行く。)

E。だつて、妾すぐ歸つてよ(ためらひながらも、Bの顔をちらり竊見する。)

B。空を見つめながら耳をすましてゐたが、やがて疊敷に上つて洋刀をはづし隅の方に押しやるが、一言もしない。)

A。すぐ歸つてくれ、早う行つてくれ……(追ひ立てながら、だが蹌踉と出て行く。)

E。Bさん、あの……(聲だけのこる。)

B。(どつかり胡座をかき、前の小机に兩手を突き、頭をさゝえながら。)なんといふ愚劣だ、卑屈さだ! かくまで自分を殺して、自分を曲げてまで、生るためとはいへ、パンを得るためとはいへ、こんな仕事にこびりついてゐなきやならんとは!(太い溜息を吐き。)凡ての友はみな社會のため、民衆のため、勞働者の解放のために、自分を犠牲にしてまで働いてゐるではないか! それをこの俺はどうだ、暴壓的手段の手足となつて。妨げなきやならんとは?

(Bは如何にも苦しさうに、やゝ暫らく輾々反側する。Eはそーッと入口から覗き、そして氣づかはしさうにうしろを振り返り、あたりをたしかめる。)

E。あゝして置けば、大丈夫だわ……(足音かくしながら這入る。)

B。俺には、まだまだ感激があつた筈だ、毎月秘てかに催される近代思想研究會に、たゞの一度だつて出席を缺かしたことのない。やゝどもりはするが、あの×の熱心なクロポトキンの講義を、如何に恍惚と聞き入つたことであらう!(頭の髪を引つ掴んで、腹立たしくゆさぶる。)にもかゝはらず、嘘を吐いてまで、おめおめと現在の仕事に就かうとは!

E。(やさしくBの肩に手を置き。)Bさん、いゝわよ、あなた勇敢におやりなさい、ポリスなんか、おつ放らかしておしまひなさい、妾(やゝ感激な聲に。)妾きつと、あなたをお補けするわよ、妾しこのまゝ女給をつゞけても、職業婦人としてどんな勞働に就いても、妾し社會のた

B。め、民衆のため、勞働者の解放のため……（顏を覗き込み。）いえ〳〵みんなあなたと、妾しが新しく生きるためよ！

B。（はじめて氣づいたかのやう振り返り、しかしきツとなり。）おゝ、君はEちやん、どうしてこゝへ這入つて來たの、今にあの意地の惡い警部補が廻つて來るだらう？　さあ、早くお歸りなさい、行つて下さい。

E。妾しもう、誰が來てもかまはないこと、（決心の面持に。）もうこの上、自分の感情を僞つてゐられないの、妾しあなたと、自分の新しい生活のために……

B。何を君はいふのです？　僕はまだ、巡査といふ職にあるのです！（だがやさしく、Eの顏を見上げる。）

E。お察しゝてよ、お苦しいお氣持を……だがもう時期よ、憤起してもいゝ頃よ。（戸外を透かし見るふのやう。）だつて社會は、民衆は、勞働者はたゞの一人でも、力ある味方を欲しがつてゐてよ、妾し好く知つてゝよ、なぜつて、妾しもそのうちの一人ですもの……

B。（つと膝を立て、Bの兩手を取つて接吻しながら。）ありがたう、ありがたう。僕はきつと謙讓な氣持の下に、民衆の一人となつて同胞とゝもに鬪ふでせう！

E。（感情を押へ切れないかの如く、兩手に抱きつきながら。）妾し、妾し嬉しいわ！

（入口のあたりに洋刀のガチヤ〳〵、靴のカタコトといふ音とゝもに、D警部補（四十前後）が這入つて來る。だが、ひたとより添つたBとEは、そのために離れさうもない。）

D。今、誰が立番だ？　A巡査はゐないが、どうした？

E。（冷やゝかに、しかも嘲るやうに。）Aさんは、妾しとこのカフエーで、お金持のお客を相手に酒を飲んでゝよ、行つて御覧なさい。

D。な、な、何？（憤然として、Eの襟首を引つ掴み。）き、貴樣は何者だ、その醜態はなんだ！

E。何が醜態です！　お放しなさい！　Bさんは、妾しの昔からの友達です！

D。何が友達だ！（きつとBを睨めつけ。）B巡査、すぐ本署へ出頭しろ！　免職だ！　貴樣のことは、すつから暴露てるんだぞ！

B。はゝあ、さうですか……（動じない。）

E。おほゝゝゝ、まあ、さう大袈裟に仰しやらなくたつて……

A。あゝ、げえーツ、ぷーツ……醉つ拂つた〳〵……（入口を明けながら、正體もなく轉げ込む。）やあい、Eちやん、なぜ逃げたんでえ、お客さん達をおつ放らかしといてよ、ちよつと來ねえといふに。B君がそんなに戀しかつたら、また非番の日があらうぢやねえけえ。なあB君……（D警部補に打突かり、はじめて氣づき。）うわツ……（にわかに調子を變へ。）やあいこのE、なぜ貴樣はそんなところへ這入つてるんだ？　さあ、こつちへ出て來い、風俗上怪しからん奴だ、告發してやる！

E。おほゝゝゝ、まあ、面白い芝居ね……

D。(洋刀を土間に突き鳴らしながら。)これはまた、どうしたといふことだ?! 暴徒が蜂起してゐる一方では、このありさまだ?

E。世紀末よ。(聞き耳を立て。)さあ、Bさん?

D。おゝ?(きツと耳をすます。)

(この時、うわーッといふ聲が、交番の周圍に起る。そして、ものを打つ壊すやうな、メリ〳〵といふ音があたりに響き渡る。Aは眼をぱちくり、入口を出たり這入つたりする。)

D。それツ、暴徒だ!(命令的な口調に。)A巡査、B巡査、急だ、早く手配しろ!

E。Bさん、さあ早く行きませう……(手を取つて促し立てる。)免職を宣告されてまで、命令される必要がどこにあります!

D。何を貴様はまだ!(いきなり突き飛ばして、ところ嫌はず殴り足蹴にする。)

B。(きつとEをかばひ)Eは僕の戀人です、未來の妻です、僕は保護する權利がある!

C。(飛び込んで來るなり。)D警部殿、大變です、本署が暴徒のために今!

D。えゝツ、本署がどした。

(DとCは、あはてゝ出て行く。その拍子に、入口に突き轉がされたAは、うん〳〵と唸りつゞける。この時、ガラ〳〵といふもの凄いもの音に、休憩所はくずれてしまひ、あとは眞つ暗闇となる。眞つ暗闇の中から、BとEは手を取り合つて、につこり立ち上る。喚聲は遠く、近くに起る。間もなくBとEは、どこから現れたとも分らない群集の中に、姿を掻き消してしまふ。)

幕

血潮を流す黄昏

断岸の下では肉に餓えた群集が
搾取された生活のどん底から
蒼空を詰め恐怖の中から叫喚し
榮光の社會へ呻吟してゐるのだ!
友よ!
俺達は世紀末の断岸の上で
覚醒と闘争と理論との
進軍喇叭を吹く事を止めて

俺達は最早や断岸から飛降りて
解放されたドンキホーテのやうに
俺達の過去の骨片で築かれた
都會の高層建築を
俺達の現在の肉血で耕さるゝ
田園の田や畑を
タンクのやうに偉大な俺達の足で
踏み潰し乍ら進軍し
暗黒の深淵に佇むでゐる

群集の生活に幸福の燈を點火しやう
同志よ、見よ!
黄昏の空を——
天と地は眞赤に出血した
あれは俺達への默示だ
同志よ、戰ひだ、行け!
整列して進軍せよ
そして×で×を潔めよ。

——田中政雄——

編輯室より

◇俄然！若槻憲政内閣倒れて、田中反動内閣が出現した。元を正せば、鈴木商店が破綻した為であつた。元来、鈴木商店は民衆の敵として、彼の大正七年の米騒動以来の搾取王である。當時、鈴木商店の米麥買占めに依る大搾取計畫に激怒せる民衆は、此の×××、鈴木を×××××××大擧して押寄せた時、彼れの生命を擁護すべく、銃劍を閃かし、砲口を擬して民衆を威壓したものは、實に軍隊であつた。今、鈴木商店若槻内閣を倒して、陸軍大將田中義一に内閣を與へしは、亦、偶然ならざるを得んやである。

◇反動の元兇、田中軍閥内閣は、憶面もなく末期の日本に君臨した。崩壊に瀕せる帝國主義日本のブルジョアジー擁護役としては、絶好の××たるを失はない。彼れ、果して如何なる反動政策を行はんとするか。全國の兄弟は此典型的ファーシストに注目せよ。

◇無産政黨共同戰線の聲、漸く高まつてきた然したとへ、共同戰線の看板を以て表を蔽つたとて裏面に於て、互に暗鬪に鎬を削つてゐるやうな有樣で、何の共同戰線ぞや、と言ひたくなる。例へば、日勞黨が提議した「對支非干渉、臨時議會解散運動」の共同戰線に對し、勞農黨が之れを承諾し、協定しながらも尚且つ、筆に、口に、日勞黨を攻撃して止まないやうな狀態では共同戰線に對する誠意の有無を疑はれても仕方があるまい。そして彼等は、旬日を出でずして遂に共同戰線の協定を破つたのだ。即ち、共産黨、評議會、勞農黨は明かこ無産階級の共同戰線を拒否し、勇敢に無産階級運動の大義名分に背反したのだ。彼等の掲ぐる階級的單一無産政黨の誇りは、此の日から揚言することは許されない。無産階級運動を裏切り無産階級の利害を蹂躙するものに、何の階級的無産政黨としての資格あらんや。

◇今月から原稿締切日を十日に變更した。評論、創作、戲曲、隨筆、詩歌、全十戰報、等奮つて投稿あれ！

社告

誌代十ケ月分拂込讀者に、マルクス大寫眞を無代で贈呈する。

定價

一部	拾錢	郵税一錢
五部	五拾錢	郵税五錢
拾部	一圓	郵税拾錢

無産階級闘争雜誌 進め 毎月一回一日發行

□誌代は總て前金拂込の事
□成る可く振替で送金の事
□郵券代用必ず一割増の事
□住所姓名は明瞭に書く事
□支局は十日迄に拂込む事

東京市外大井町鈴ケ森海岸一八九〇
發行所 進め社本部
振替東京六九八五三番

發行編輯兼印刷人 福田狂二

大阪市北區茶屋町四一
大阪事務所

廣告料

一等	三百圓
二等	二百圓
三等	百五十圓
四等	百圓

大賣捌

東京堂　東海堂　北隆館
大東館　盛文社　大盛社

左翼文藝思想雜誌

月刊

文藝鬪爭

一部十錢
送料二錢

發行所

東京市麴町區麴町九ノ九

文藝鬪爭社

借家人同盟機關紙

月刊

生活運動

一部五錢
一年六十錢

發行所

東京市外雜司ケ谷八一五

生活運動社

振替東京三六四五五番

無產階級政治新聞

月刊

春秋新報

一部十錢
一年一圓

發行所

愛知縣半田町荒古二〇五

春秋新報社

振替名古屋一二二二三番

島根縣小作聯合機關紙

月刊

全山陰

大衆新聞

一部五錢
一年六十錢

發行所

島根縣安來町

全山陰大衆新聞社

振替大阪七六九九二番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

諸君の書齋・組合の壁間を飾れ！

本社編纂　第二十版

社會思想家寫眞集

内容

サンシモン、フーリエ、オーエン、プルードン、マルクス・バクーニン、エンゲルス、ウヰルヘルム・リープクネヒト、カール・リープクネヒト、クロポトキン、ラツサール、レーニン、トロツキーの拾三枚。四六倍判アート紙印刷鮮明、極めて美麗たり、無産階級の永久に記念すべきものである。

拾三枚　一組五拾錢　送料四錢

本社編纂　第二十版

マルクス寫眞集

内容

マルクスの生家、マルクス夫人、マルクスの原稿、マルクスの博士免狀、マルクスの署名、マルクスの旅行免狀、ロンドン亡命中のマルクス、ロンドンに於けるマルクスの住宅、資本論執筆時代のマルクス晩年のマルクス、マルクスの墓の拾一枚。四六倍判アート紙、印刷鮮明、極めて美麗たり。

拾一枚　一組五拾錢　送料四錢

本社藏版　第三十版

マルクス大寫眞

コロタイプ版　一枚三拾錢　送料二錢

飾れ！

カール・マルクスは科學的社會主義の鼻祖にして、無産階級永遠の大恩人である。我社は之れを永遠に記念すべく、獨逸より原版を取り寄せ復寫して廣く頒布してゐる。丈一尺五寸巾九寸コロタイプ版にて實に美麗な大寫眞である。苟も無産階級たる者は、此れを掲げてマルクスに親め！

東京市外大井町　鈴ケ森一八九〇

進め社本部

振替東京　六九八五三

見よ！社會主義入門のパンフレット

日本勞働運動小史

淺野研眞述

第拾版

讀め！

明治大正を通じて日本に於ける勞働者解放運動の全分野に渉つて、細大洩らさず僅か百三十餘頁の内に収めた手頃なパンフレットである。尙は卷末に附せられたる統計、文獻、年表は用意周到な貴重なものだ。苟も日本プロレタリア運動の史的背景を知らんとする者は必ず一本を備ふべきだ！

百三十頁　定價五拾錢　送料四錢

生きる權利（權利と儲ける）

吉田源藏著

再版

讀め！

生は權利だ、人間として生を享けた以上は何人と雖生きる權利がある、然るに資本主義は平等に與へられたる無產階級の權利を剝奪してゐる、本書は不合理なる現制度を解剖して、人間權の奪還を叫び無產者の進路を示せる絶好の社會主義入門書である、眞理を摑まんとする無產者は讀め！

四十二頁　定價拾錢　送料二錢

農民諸君に與ふ

神庭仲之介著

再版

讀め！

横暴例ふるにものなき地主の虐殺的搾取に、憤激道く所を知らざる農民諸君！農村の疲弊、田地の荒廢、青年の離村、而して諸君の經濟的窮迫等々の、所謂農村問題に對し、鬱然擡頭せる近代社會思想は何を以つて之を解決せんとするか？農民諸君は擧つて、本書の示す社會主義陣營へ來たれ！

三十三頁　定價拾錢　送料二錢

進め社本部

東京市外大井町鈴ヶ森一八九〇

振替東京六九八五三

プロレタリア文藝雑誌

月刊 人間苦

一部拾錢　一年一圓

發行所

大阪市東淀川區十三南之町七四七

社會問題研究所

振替大阪七九三九四番

植民地解放運動

月刊 新朝鮮

一部拾錢　一年一圓

發行所

東京市麹町區麹町九ノ九

新朝鮮社

振替東京四五五九九番

中國無産階級言論機關

週刊 中國評論

一部五錢　一ケ月二拾錢

發行所

吳市外天應

中國評論社

水平運動前衛機關紙

月刊 水平月報

一部五錢　一年六拾錢

發行所

福岡縣嘉穗郡二瀬村

水平月報社

振替福岡二〇四三七番

婦人良薬
喜谷實母散
産前、産後、血の道、引風、冷込等に特効有
本舗
東京京橋區中橋大鋸町
喜谷市郎右衛門
電話京橋五五番 五六番

金銀
白金
東京市神田區松田町
徳力本店

Head office; Su-su-me-Sha **The Su-su-me** **Vol.V** **No.6**
1890, Oimachi near Tokyo, Japan (The Socialist Monthly) June 1927

大正十二年一月二十日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）
昭和二年六月一日發行 昭和二年五月二十七日印刷納本

第五年・第六號

定價拾錢

K.D.K.

ウヅマキ型

川北電氣扇

型錄進呈

株式會社
川北電氣企業社
大阪市北區堂島濱通一丁目
支店 東京 福岡

最寄電氣店にあり